令和５年度新宿御苑ワーキングスペース代替施設新築工事

設　計　図

令和５年１月

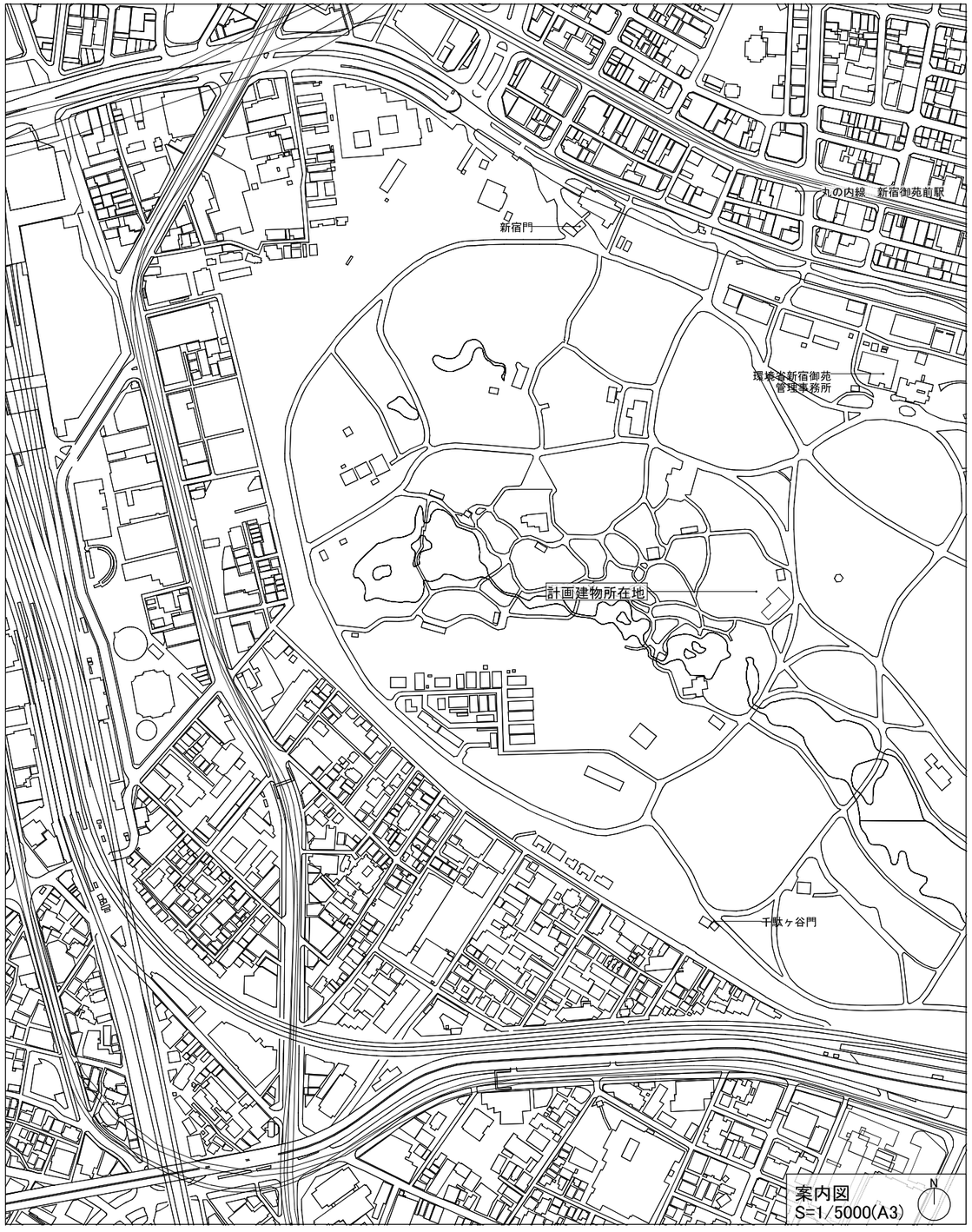
環境省新宿御苑管理事務所

工事概要

工事名称		令和4年度新宿御苑ワーキングスペース代替施設新築工事
工事場所	地名地番	東京都新宿区内藤町11
	住居表示	東京都新宿区内藤町11
敷地面積		583,061.13㎡
用途地域		第一種中高層住居専用地域
防火地域		準防火地域
高度地区		20m第2種高度地区
日影規制		3時間-2時間(+4.0m)
道路幅員(現況)		–
その他		第1種文教地区、指定包蔵地あり
都市計画道路		–
その他の都市計画		都市計画区域内/都市計画公園区域
建ぺい率		60%
容積率		200%
許容建築面積		349,836.67㎡
許容容積対象床面積		1,166,122.26㎡
緑化条例		
その他条例		

建物概要

主要用途	休憩所
工事種別	新築
階数	地上1階
構造概要	鉄骨造 一部木造
設備概要	電気、空調、給排水、衛生設備、換気設備
建築面積	14,516.05㎡(申請建築物:377.76㎡　既存建築物:14,138.29㎡)
延床面積	14,698.08㎡(申請建築物:269.71㎡　既存建築物:14,428.37㎡)
建ぺい率	2.48%
容積率	2.52%
最高高さ	4.200m



工事名称	令和4年度新宿御苑ワーキングスペース代替施設新築工事			工事年度	令和　4　年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	工事概要・建物概要・案内図	
発注機関	環境省自然環境局新宿御苑管理事務所			縮尺	1:5000(A3)	
公園名称	新宿御苑			図面番号	A－002　/	
検印	管理建築士	設計	製図	設計者	名称	平建築設計事務所 一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　第356094号
					所在地	神奈川県川崎市 高津区久末1778-1-420

令和4年度新宿御苑ワーキングスペース代替施設新築工事　　工事設計図

特記仕様書

Ⅰ　工事概要

1．工事場所　　東京都新宿区内藤町１１

2．敷地面積　　583,061.13㎡

3．工事種目

1．令和4年度新宿御苑ワーキングスペース新築整備　鉄骨造地上1階建　一　式
建築面積　14,163.46㎡(申請建築物:260.03㎡ 既存建築物:13,903.43㎡)
延べ床面積　14,455.68㎡(申請建築物:215.34㎡ 既存建築物:14,240.34㎡)

2．上記に伴う、電気及び機械設備工事　一　式

3．令和4年度新宿御苑ワーキングスペース代替施設外構整備　一　式

4．指定部分　・有　・無　対象部分（　　　）
指定部分工期　年　月　日

5．工事範囲
※「3．工事種目」すべてを工事範囲とする。
・「3．工事種目」のうち　　　　の工事範囲は下記表のとおりとする。
ただし、他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

2. 仮 設 工 事	すべて
3. 土　工　事	すべて
4. 地 業 工 事	すべて
5. 鉄 筋 工 事	すべて
6. コンクリート工事	すべて
7. 鉄 骨 工 事	すべて
8. ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ・ALCパネル 押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	すべて
9. 防 水 工 事	すべて
10. 石　工　事	すべて
11. タイル工事	すべて
12. 木　工　事	すべて
13. 屋根及びとい工事	すべて
14. 金 属 工 事	すべて
15. 左 官 工 事	すべて
16. 建 具 工 事	すべて
17. カーテンウォール工事	すべて
18. 塗 装 工 事	すべて
19. 内 装 工 事	すべて
20. ユニット及びその他の工事	すべて

Ⅱ．　建築工事仕様

（1）図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下記仕様書等のうち、○を付けたものを適用する。
・公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成31年版（以下、「標準仕様書」という。）
・建築工事標準詳細図（平成28年版）（以下、「標準詳細図」という。）
・建築物解体工事共通仕様書（平成31年版）

（2）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事は、それぞれの工事特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の特記仕様書は（　／　）図、機械設備工事の特記仕様書は（　／　）図による。

（3）本特記仕様書の表記
1）項目は、○印の付いたものを適用する。
2）特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と ※○印の付いた場合は、共に適用する。
3）特記事項に記載の（　）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
4）Ⓖ 印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（平成12年法律第100号）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成31年2月8日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断の基準）を満たすものを示す。

グリーン購入法に基づく、環境物品等の調達に関する基本方針((以下「基本方針」という)(環境省ホームページに掲載)（毎年２月改定))において位置づけられた、「特定調達品目」に該当する材料及び建設機械等は、原則として基本方針に定める判断基準を満足するものを使用することとする。
なお、やむをえず判断基準に満たないものを使用する場合は、監督職員の承諾を受けるものとする。
また、「特定調達品目」の調達の実績（設備及び公共工事）について、当該年度の調達実績集計表（物品・役務及び公共工事）を環境省ホームページからダウンロードし、Excelファイルで作成し、提出する。

（4）「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に基づき、国立公園等施設の木材利用量について、木材利用調査要領により、Excelファイルで作成し、提出する。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	・適用区分	・建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ・風圧力 風速（Vo= 30m/s） 地表面粗度区分（・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ） ・積雪荷重 平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域　別表（十八）
	・環境への配慮	(1.4.1) （1）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセ　アルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑性（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセ　アルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 （2）設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第20 条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第20 条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第20 条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第20 条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
	・材料の品質等	(1.4.2) （1）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 （2）備考欄に商品名が記載された材料は、同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 （3）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。 （4）本工事に使用する材料のうち、（5）に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。 （5）製造業者等に関する資料の提出を求める材料
	・室内空気中の化学物質の濃度測定	(1.5.9) （1）室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、 エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、測定結果を監督職員に報告する。 （2）測定対象室及び測定箇所数は仕上げ表による。 （3）測定は、パッシブ型採集機器により行う。 （4）測定方法及び測定結果の報告は、現場説明書による。
	・完成写真	工事完成時に次の写真を撮影し、監督職員に提出する。（下表）
	・他工事又は他工種との取合い	工事区分表による。これにより難い場合は監督職員と協議する。

撮影部位及び箇所数	形式・サイズ	提出セット数	画素数、画質等	撮影者
外観正面 1箇所	カラー印画紙キャビネ判		4500×3000ピクセル以上で画像補正を行ったもの	建築完成写真の撮影実績がある者で、監督職員が承諾する撮影業者 ※建築専門写真業者 中村絵写真事務所 同等の業者
	カラー印画紙キャビネ判 Ａ４アルバム綴じ※			
	電子データ（JPEGフルカラー ・圧縮率1/4程度）			
	カラー木製パネル 半切（324×400mm）			
・上記と異なる 外部（20）箇所 内部（40）箇所	カラー印画紙キャビネ判			
	カラー印画紙キャビネ判 Ａ４アルバム綴じ※			
	・電子データ（JPEGフルカラー ・圧縮率1/4程度）			
外部（ ）箇所 内部（ ）箇所	カラー印画紙キャビネ判 Ａ４アルバム綴じ		1280×960ピクセル以上かつ、撮影したデジタルカメラの設定のうち最高の画質	任意
	電子データ (JPEGフルカラー)			

注：※のアルバムは併せて作成する。

章	項目	特記事項
2 仮設工事	・足場その他	(2.2.4) 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
3 土工事	・埋戻し及び盛土	(3.2.3) 材料及び工法 ・材料（　）　工法（　） ※表3.2.1による 種別 ・Ａ 種　適用場所（　） ・Ｂ 種　適用場所（　） ・Ｃ 種　適用場所（　）土質（　）受渡場所（　） ・Ｄ 種　適用場所（　） 品質細粒分（75μm以下）の含有率（重量百分率）の上限を50%未満とする。
	・建設発生土の処理	(3.2.5) ※ 現場説明書による　・構内指示の場所に堆積　・構内指示の場所に敷き均し
	・山留めの撤去	(3.3.3) 鋼矢板等の抜き後の処理　・　※直ちに砂等で充填する 山留めの存置 ・行う　（存置範囲　※図示　） ・
4 地業工事		特記仕様書（構造関係）による
5 鉄筋工事		特記仕様書（構造関係）による
6 コンクリート工事		特記仕様書（構造関係）による
7 鉄骨工事		特記仕様書（構造関係）による
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	・補強コンクリートブロック造	ブロックの種類（8.2.2）(8.2.2、3、5)（表A）
	・コンクリートブロック帳壁及び塀	(8.3.2、3、4)（表B）
	・ALCパネル	(8.4.2～5)（表C）
	・押出成形セメント板（ＥＣＰ）	(8.5.2～5)（表D）

表A　ブロックの種類（8.2.2）

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	ﾓﾃﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
・				・無　・有		
・				・無　・有		

モルタルの調合（容積比）（8.2.3）
・セメント（　）：砂（　）
各部の配筋（8.2.5）
※図示による（　）

表B　ブロックの種類

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	ﾓﾃﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
・ 空洞ブロックC（16）				・無　・有		
・ 型枠状ブロック 20				・無　・有		
・				・無　・有		

塀の厚さ（8.3.2）
・
壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状（8.3.4）
※図示による（　）・
各部の配筋（8.3.4）
※図示による（　）・

表C

パネルの区分	単位荷重 (N/m²)	厚さ (mm)	長さ (mm)	幅 (mm)	耐火性能	表面加工	工法の種別
・外壁パネル		・100 ・			有（1）時間	・平 ・意匠	・A種 ・B種
・間仕切壁パネル	／	・100 ・			・有（1）時間 ・無	・平 ・意匠	・C種 ・D種 ・E種
・屋根パネル		・100 ・			有（0.5）時間	平	F種
・床パネル		・100 ・			・有（ ）時間		

パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材
・
外壁、屋根パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合　・
パネル短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の目地幅（mm）　・　※10～20
外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填　・適用する　・適用しない

表D

パネルの種類	表面形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
・外壁パネル	・Ｆ(ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ)	・50 ・60 ・18	300	・Ａ 種（縦） ・Ｂ 種（横）	
	・Ｄ(ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ)	・50 ・60	600		
	・Ｔ(ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ)	60			
・間仕切壁パネル	・Ｆ(ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ)	・50 ・60		・Ｂ 種 ・Ｃ 種	
	・Ｄ(ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ)	・50 ・60	600		
	・Ｔ(ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ)	60			

外壁パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
パネル相互の目地幅(mm)　・長辺　、短辺
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm)　※15程度　・
耐火構造以外の目地及び隙間の処理　・　※パネルの製造所の仕様
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出する。

		開口の大きさ	切断後のパネルの残り部分の幅
パネルに開口を設ける場合	短辺	・　・図示	・　・図示
	長辺	・　・図示	・　・図示
パネルを切り欠く場合	短辺	・　・図示	・　・図示
	長辺	・　・図示	・　・図示

章	項目	特記事項
9 防水工事	・アスファルト防水	(9.2.2～5)(表 9.2.3～9)（以下）

屋根保護防水
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 Ⓖ	絶縁用シート	立上り部の保護方法
・ A－1		／	※ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ 厚さ0.15mm以上 ・	・乾式保護材 ・コンクリート押え ・れんが押え ・ ※JIS R 1250
・ A－2				
・ A－3				
・ B－1				
・ B－2				
・ B－3				
・ AI－1		(材質) ※JIS A 9521に基づく押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材3種bA(スキン層付き) (厚さ) ・ ・25mm ・50mm	※ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ 70g/m²程度 ・	
・ AI－2				
・ AI－3				
・ BI－1				
・ BI－2				
・ BI－3				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分　※R種
厚さ　・　mm以上
※標準仕様書表9.2.3から標準仕様書表9.2.8による

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分　※R種
厚さ　・　mm以上
※標準仕様書表9.2.　から標準仕様書表9.2.8による

平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ　※水下　80mm以上
床タイル張り　※水下　60mm以上

・乾式保護材
窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。
金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。
（品質・性能・試験方法）
別表による

屋根露出防水
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 Ⓖ	仕上塗料 種類	使用量	高日射反射率防水の適用 Ⓖ
・D－1		／	・ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様	・ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様	・
・D－2					・
・D－3					・
・D－4					・
・DI－1		標準仕様書9.2.2（9） （種類）			・
・DI－2		・ （厚さ） ・ ・25mm ・50mm			・

屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置　※図示　・

屋根露出防水絶縁断熱工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類　・　※アスファルトルーフィング類の製造所の指定
設置数量　・　個　※アスファルトルーフィング類の製造所の指定

屋内防水
防水層の種別

種別	施工個所	種別	施工個所
・Ｅ－１		・Ｅ－２	

保護層　・設ける（※図示　・　）・設けない

防水層の下地の立上り
※コンクリート打放し仕上げ　標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種　・
押え金物の材質及び形状及び寸法
※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度・
防水層の下地のモルタル塗り　・適用する（施工範囲　※図示　・　）
・適用しない
屋根排水溝　※図示　・

工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事	工事年度	令和　4　年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11	図面名称	特記仕様書1
発注機関	環境省自然環境局新宿御苑管理事務所	縮尺	－
公園名称	新宿御苑	図面番号	A－002　／

検印	管理建築士	設計	製図	設計者		
					名称	宇建築設計事務所 一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　第356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

・改質アスファルトシート防水

(9.3.2、3)(表 9.3.1～3)

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	防湿層	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用CG
・AS－T1				・改質アスファルトシートの製造所の仕様	・改質アスファルトシートの製造所の仕様	■
・AS－T2						■
・AS－T3						■
・AS－T4						■
・AS－J1						■
・ASI－T1		標準仕様書9.3.2(3)(ｳ)(種類) ■ (厚さ) ・25mm ・50mm	・設ける(改質アスファルトシートの製造所の仕様による) ・設けない			■
・ASI－J1						■

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分 ■
材料構成による区分 ※R種
厚さ ・ mm以上
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分 ■
材料構成による区分 ※R種
厚さ ・ mm以上
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分 ■
材料構成による区分 ※R種
厚さ ・ mm以上
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
押え金物の材質、形状及びサ法
■ ※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度
屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁加熱工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ■
※改質アスファルトシートの製造所の指定
設置数量・ 個※改質アスファルトシートの製造所の指定

・合成高分子系ルーフィングシート防水

(9.4.2～4) (表9.4.1～3)

種別	施工箇所	絶縁用シートの材質	断熱材CG	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用CG
・S-F1	■ ■	■		・ルーフィングシートの製造所の仕様	・ルーフィングシートの製造所の仕様	■
・S-F2	■ ■	※発泡ポリエチレンシート				■
・S-M1	■			・ルーフィングシートの製造所の仕様	・ルーフィングシートの製造所の仕様	■
・S-M2	■					■
・S-M3	■					
・SI-F1	■ ■	■ ※発泡ポリエチレンシート	※標準仕様書 9.4.2(3)(ｴ)(b)(種類) ■ (厚さ) ■	・ルーフィングシートの製造所の仕様	・ルーフィングシートの製造所の仕様	■
・SI-F2						■
・SI-M1	■		※標準仕様書 9.4.2(3)(ｴ)(a)(種類) ■ (厚さ) ■	・ルーフィングシートの製造所の仕様	・ルーフィングシートの製造所の仕様	■
・SI-M2	■	■ ※発泡ポリエチレンシート				■

SI－F1、SI－F2、SI－M1及びSI－M2における防湿用フィルムの設置
・設ける
・設けない
S－M2またはSI－M2の立上り部の工法
・接着工法 立上り面のシート厚さ ・ ※1.5mm
・機械的固定方法

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り 塗厚	平場のモルタル塗り	立上り部の保護モルタル塗厚
・S－C1	・ ・		・床塗り工法 ・下地モルタル塗り ■	※7mm以下 ■

屋内保護密着工法
平場のモルタル塗りの目地 ・種類 ・目地材 ・図示
ルーフィングシートの種類及び厚さ
種類 ■
厚さ ■
※標準仕様書表9.4.1、表9.4.2及び表9.4.3による ・
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ■
※ルーフィングシートの製造所の仕様
設置数量 ■
※ルーフィングシートの製造所の仕様
固定金具の材質、形状及び寸法
■
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工した鋼板

・塗膜防水

接着工法においてプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
・行う (・図示 ・)
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-F1、SI-F1の場合）
・行う (・図示 ・)

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

(9.5.3)(表 9.5.1、2)

防水層の種別

種別	施工個所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	保護層	高日射反射率防水の適用CG
・X－1		・主材料の製造所の仕様	・主材料の製造所の仕様		
・X－2		・・主材料の製造所の仕様	・主材料の製造所の仕様		
・Y－1	※地下外壁防水 ■				
・Y－2	※屋内防水 ■			・適用する ・適用しない	

ウレタンゴム系塗膜防水X－1（絶縁工法）の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ■
※主材料の製造所の仕様
設置数量 ・ 個
※ルーフィングシートの製造所の仕様
ゴムアスファルト系塗膜防水Y－1、Y－2
工程数及び各工程の使用量
■
※主材料の製造所の仕様

・ケイ酸質系塗布防水

防水層の種別 (9.6.1、3、4)(表9.6.1、2)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・C－UI		・C－UP	

防水層の下地
壁 (・ ※コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4 B種）
天井部 (・ ※コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4 B種）
下地処理
コンクリートの打継ぎ箇所の処理
■
・図示
※打継ぎ部分に対し、幅30mm及び深さ30mmにV形にはつり、水洗い清掃した後、
防水材の製造所の指定する材料を充填
型枠締付け材にコーンが使用されている部分及び防水材の塗布面以外の下地処理
■
・図示

・シーリング

(9.7.2、3、5)(表 9.7.1)

下表以外は、標準仕様書表 9.7.1による
ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）

シーリング材の目地寸法
■
・図示
※標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による

接着性試験
※簡易接着性試験
・引張接着性試験

10 石工事

・施工 (10.1.3、5)

石材の割付け ・図示
粗面仕上げの場合ののみ込み部分の仕上げ ・図示
屋内の床を本磨きとする場合のワックスかけ ・行う（適用場所 ・すべて ・ ）
・行わない

・石材等

天然石 (10.2.1、3)(表 10.2.1、2)

施工箇所	岩石の種類	等級	形状及び寸法 寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げの種類	備考
・床石		※2等品	■ ※正方形に近い矩形(石材1枚の面積が0.8㎡以下)			

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法(mm)	仕上げの種類	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ■	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ■	・300型 ・400型		

取付け用モルタル
■ ※専門工事業者の指定する製品
既調合の目地モルタル
■ ※専門工事業者の指定する製品
石裏面処理材
■ ※専門工事業者の指定する製品
裏打ち処理材
■ ※専門工事業者の指定する製品
金物の固定に使用する充填材料等
■ ※専門工事業者の指定する製品

・外壁湿式工法

(10.2.2、3)(10.3.2、3)

受金物 材質 ・ ※SUS304
形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 長さ100mm
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ150mm

アンカーの材質及び径 ・ ※SS400 M12
あと施工アンカーの材質及び寸法等 ( )
ドレンパイプの材質 ・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35φ

石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※流し筋工法
・あと施工アンカー工法
・あと施工アンカー・横筋流し工法
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地
位置 ・図示 ※標準仕様書11.1.1による
シーリング材の目地寸法
・図示 ※幅・深さ共10mm以上

・内壁空積工法

(10.2.2)(10.4.2、3)

受金物 材質 ・ ※SUS304
形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 長さ100mm
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ150mm

アンカーの材質及び径 ※SS400 M12
あと施工アンカーの材質及び寸法等 ( )
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※ あと施工アンカー・横筋流し工法 ・あと施工アンカー工法
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地
位置 ※6m程度ごと ・図示
シーリング材の目地寸法
・ ・図示 ※幅・深さとも10mm

・乾式工法

(10.2.2)(10.5.2、3)(表10.2.4)

乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
(・)
取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
アンカーの材質及び形状 ※ステンレス(SUS304) M10
あと施工アンカーの材質及び寸法等 ( )
だぼ用の穴の位置 ・図示 ※標準仕様書10.5.2(2)(ｱ)による
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
外壁の工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地 目地幅(mm) ※8以上 ・
シーリング材 ・図示 ※標準仕様書9.7に基づく

・床及び階段の石張り

(10.6.2、3)

床石張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない
階段張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない
目地 一般目地 目地幅(mm) ・図示 ・ ・屋外4以上 ・屋内3～6
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地
位置 ■
・図示
※床面積30㎡ 程度ごと、細長い通路の場合6m程度ごと及び他の部材と取り合う箇所
シーリング材の目地寸法
・ ・図示 ※幅・深さ共10mm

・アーチ、上げ裏等の石張り

(10.2.2)(10.7.1、2)

取付け工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法
取付け金物 ※標準仕様書10.2.2(3)
材質 ※ステンレス(SUS304)
寸法 引金物 ・
だぼ ・
かすがい ・
受金物 ・
ファスナーの方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
吊金物及び化粧吊りボルト
・設ける 吊金物 ※ステンレス(SUS304)径6mm長さ80mm(加工物) ・
吊りボルト ※ステンレス(SUS304)M10化粧ナット付き ・
・設けない

あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )
取付け工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
伸縮調整目地 位置 ※他の部位との取合い部 ・図示
シーリング材の目地寸法
・ ・図示 ※幅・深さ共10mm以上

・笠木、甲板等の石張り

(10.2.2)(10.7.1、3)

取付け工法 ・外壁湿式工法 ・乾式工法
取付け金物 ※標準仕様書10.2.2(3)
材質 ※SUS304
寸法 引金物 ・
だぼ ・
かすがい ・
受金物 ・
ファスナーの方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
乾式工法の場合の取付け代 ・ ※70mm程度
石材の裏面の補強用モルタル ・適用する ・適用しない

11 タイル工事

・伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

(11.1.3)(表11.1.1)

位置 ※標準仕様書表11.1.1による ・図示
目地寸法 ・ ※標準仕様書9.7.3による

・セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り

タイルの形状、寸法等 (11.2.2、7)

施工箇所	形状/寸法(mm)	再生材料の適用CG	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
・目荒し工法（高圧水洗処理）・MCR工法 ■
壁タイル張りの工法
内装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り ・ユニットタイル
外装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り

・既製調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
(品質・性能・試験方法)
別表による
・既製調合目地材
(品質・性能・試験方法)
別表による

・有機系接着剤によるタイル張り

(11.3.2～4、7)

タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状/寸法(mm)	再生材料の適用CG	吸水率による区分 類Ⅱ	類Ⅲ	類Ⅳ	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外
目地のシーリング材
打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材
ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材
伸縮調整目地 ※変成シリコーン系シーリング材
その他の目地 ※変成シリコーン系シーリング材
下地調整材塗りを行うコンクリート素地面の処理
・MCR工法 ・目荒し工法（高圧水洗処理）■

12 木工事

・表面仕上げ

(12.1.4)(表12.1.1)

表面仕上げの種別		適用箇所
機械加工	・A種	
	・B種	
	・C種	
手加工	・H－A種	
	・H－B種	
	・H－C種	

・製材CG

(12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の適用
			・※2級		※A種・B種		■
			・※2級		※A種・B種		■
			・※2級		※A種・B種		■

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の適用
見え掛り面			・※上小節		※A種・B種		■
見え掛り面以外			・※小節以上		※A種・B種		■
					※A種・B種		■

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の適用
			・※1等		※10%以下 ・A種・B種		■
			・※1等		※10%以下 ・A種・B種		■
			・※1等		※10%以下 ・A種・B種		■

※特記仕様書（構造関係）による

工事名称	令和4年度新宿御苑ワーキングスペース代替施設新築工事			工事年度	令和 4 年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	特記仕様書2
発注機関	環境省自然環境局新宿御苑管理事務所			縮尺	－
公園名称	新宿御苑			図面番号	A－003 /
検印	管理建築士	設計	製図	設計者 名称	宇建築設計事務所 一級建築士事務所
				資格者氏名	岡本 治子
				登録番号	一級建築士 第356094号
				所在地	神奈川県川崎市高津区久末1178-1-420

■ 造作用集成材 G

「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
			（ ）造作材の場合（※A種 ・B種）	・適用する ・適用しない	※A種・B種	■
			（ ）造作材の場合（※A種 ・B種）	・適用する ・適用しない	※A種・B種	■
			（ ）造作材の場合（※A種 ・B種）	・適用する ・適用しない	※A種・B種	■

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
				※1等 ・2等	
				※1等 ・2等	■
				※1等 ・2等	■

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：				※1等 ・2等	■
	化粧薄板：芯材：				※1等 ・2等	■
	化粧薄板：芯材：				※1等 ・2等	■

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：				■
	化粧薄板：芯材：				■
	化粧薄板：芯材：				■

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※15%以下 ■	■
				※15%以下 ■	■
				※15%以下 ■	■

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：				※15%以下 ■	■
	化粧薄板：芯材：				※15%以下 ■	■
	化粧薄板：芯材：				※15%以下 ■	■

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：				※15%以下 ■	■
	化粧薄板：芯材：				※15%以下 ■	■
	化粧薄板：芯材：				※15%以下 ■	■

● 造作用単板積層材 G

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・

「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り（加工 ・天然木化粧加工・塗装加工） ・無し（等級： ）	・適用する ・適用しない	■
		・有り（加工 ・天然木化粧加工・塗装加工） ・無し（等級： ）	・適用する ・適用しない	■

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	含水率	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り（加工・天然木化粧加工・塗装加工） ・無し（ ）	■ ※14%以下	・適用する ・適用しない	■
		・有り（加工・天然木化粧加工・塗装加工） ・無し（ ）	■ ※14%以下	・適用する ・適用しない	■

・CLT（直交集成板） G

施工箇所	品名	曲げ性能（強度等級）	種別	接着性能（使用環境）	樹種	寸法(mm)	間伐材等の適用
							■
							■
							■

■ 床張り用合板等

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・

・普通合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	■ ※5.5 ■		※1類 ・2類	広葉樹 ・1等 ※2等以上 針葉樹 ■ ※C-D以上	・適用する ・適用しない	■
	■					

・構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	■ ※12	・1級 ※2級以上		※1類 ・特類	■ ※C-D以上	適用する 適用しない	・適用する（ ） ・適用しない	■
	■	■		※1類 ・特類	■	適用する 適用しない	・適用する（ ） ・適用しない	■

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			※1類 ・特類		■
					■
					■

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 G

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	防虫処理の適用	間伐材等の適用
			※1類 ・2類	・適用する（ ）	■
					■
					■

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	表面性能	化粧加工の方法	防虫処理の適用	間伐材等の適用
		※1類 ・特類			・適用する（ ）	■
						■
						■

・パーティクルボード G

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分
	■ ※15		■ ※13タイプ	■ ※P又はM	

・構造用パネル

施工箇所	厚さ(mm)	等級
		・1級 ・2級 ・3級 ・4級
		・1級 ・2級 ・3級 ・4級

・MDF G

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	による区分	接着剤による区分	難燃性による区分	の適用

● 接着剤

(12.2.2、3)

接着剤は可塑剤(難揮発性の可塑剤を除く)が添付されていないものとする。

ホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・

● 防腐・防蟻 処理

(12.3.1、2)

・防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材
適用部位：（ ）

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・K2 ・K3 ・K4
	・K2 ・K3 ・K4
	・K2 ・K3 ・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法	薬剤の方法
	■ ※標準仕様書12.3.1(4)(b)①～④による	※JIS K 1571に適合 又は同等品
	■	
	■	

・薬剤の接着剤への混入による防腐、防蟻処理
適用部位（ ）

● 長尺金属板葺

(13.2.2、3)

施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322の屋根用コイル ■	●カラーガルバリウム鋼板	●0.4	・心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ●ななめ一文字葺き	

※ダイムワカイ「パーフェクトルーフ工法」同等品

下葺材料 ・アスファルトルーフィング 940
・改質アスファルトルーフィング下葺材
（・一般ﾀｲﾌﾟ ・複層材ﾀｲﾌﾟ ・粘着層付ﾀｲﾌﾟ）

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

雪止め ・設置する（施工場所 ・図示 ・ ）

■ 折板葺

(13.2.2)(13.3.2.)(表 13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分 山高	山ピッチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形			（ ）種	※鋼板製 ・アルミニウム合金板製		・有り ・無し	・30分 ・無し
	■							

材料 板及びコイルの種類（ ）
塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号（ ）

タイトフレームにJIS G 3302以外の鋼材を直接外気の影響を受けないで屋内で使用する場合の表面処理
（標準仕様書表14.2.2による ・E種 ・F種）

断熱材 ・有り（種別： 厚さ(mm)： 防火性能： 時間）
・無し

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
折板のけらば納め
■
※けらば包みによる方法

■ 粘土瓦葺

(13.4.2、3)

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
							・適用する ・適用しない
							・適用する ・適用しない

JISA5208に基づく凍害試験等
・行う
・行わない

瓦桟木 材質 ※杉 ・
寸法 ※幅21×高さ15(mm)以上 ・
金物等 材質、形状、寸法及び留付け方法 ・ ※図示

棟補強用心材 材質 ※杉 ・
寸法 ※幅40×高さ30(mm)以上 ・

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
瓦桟木の留付け工法 ※図示 ・
棟の工法 ・ 標準仕様書13.4.3(4)(ア)(イ)

■ とい

(13.5.2、3)(表 13.5.5)

とい その他材種 ・配管用鋼管 ・硬質ポリ塩化ビニル管

とい受金物
材種 ・ ※溶融亜鉛めっきを行ったもの
形状
※市販品（とい径 100 以下） 25×4.5（とい径 100 を超えるもの）
取付け間隔

足金物
材種 ・ ※溶融亜鉛めっきを行ったもの
形状
※市販品
取付け間隔

多雪地域 ・適用する ・適用しない

防露材のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ■

鋼管製といの防露巻き ・適用する（工法：・ ※標準仕様書表13.5.4による）
・適用しない

ルーフドレン の材種その他

種別	施工箇所	材種
・ろく屋根用（・縦型 ・横型）		
・バルコニー用		
・バルコニー中継用		

■ ステンレスの表面仕上げ

(14.2.1)

種類	施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）
※ HL程度	
・ 鏡面仕上げ 程度	
・ No.2B 程度	
・ バイブレーション	

■ アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.2)(表 14.2.1)

種別	色合い等	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）
●B－1種（無着色マット仕上）	標準色（ ） 特注色（ ）	

陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・三次電解着色

● 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.3)(表 14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
●溶融亜鉛めっき	●A種	外部 柱・梁 板厚4.5mm以上のFB、PL等
	●B種	3.2mm≦板厚<4.5mmのFB、PL等
	●C種	1.6mm≦板厚<3.2mmのFB、PL等
・電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

● 軽量鉄骨天井下地

(14.4.2～4)(表14.4.1)

野縁等の種類
屋外（※ 25 形 ・ 19 形） 屋内（※ 19 形 ・ 25 形）

・屋外の軒天井、ピロティ天井等
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 ・図示 ・
周辺部の端からの間隔 ・図示 ・
野縁の間隔 ・図示 ・

・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法 ※図示 ・

・天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合
補強方法 ※標準仕様書14.4.4(8)による ・図示

・天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法 ※図示 ・

・天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所 ・図示 ・
補強方法 ※図示 ・

■ 軽量鉄骨壁下地

(14.5.3)(表 14.5.1)

スタッド、ランナーの種類
※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ・図示
スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※図示
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
■
※標準仕様書14.5.4(5)による。

■ 金属成形板張り

(14.6.2,3)(表 14.2.1)

種別	製法	形状	板幅(mm)	板厚(mm)	表面処理 種別	色合い等
・アルミニウム	・押出し ・ロール ・プレス ■	スパンドレル形 パネル形				

取付け用下地 ※標準仕様書14.4による ・図示
伸縮調整継手 ・設ける（施工箇所 ・図示 ・ ） ・設けない

■ アルミニウム製笠木

(14.7.2、3)(表 14.2.1)(表 14.7.1)

種類 ・250形 ・300形 ・350形
表面処理 種別（ ）種 （ ）
色合い等 ・標準色（ ）・特注色（ ）
笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

● 手すり及びタラップ

(14.8.2、3)

手すり ●SUS304（表面処理 ・ ※HL程度）
・鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき種別
※標準仕様書14.2.2による。
タラップ ・SUS304（表面処理 ・研磨なし ・HL程度）
・鋼製 （表面処理 ※溶融亜鉛めっきC種 ・ ）

■ モルタル塗り

(15.3.2、5)

モルタル ・現場調合材料 ・既調合材料
・既調合材料 （ ）
既製目地材 ・設ける 施工箇所（ ） 形状（※図示 ・ ）
・設けない
床の目地 ・設ける
（目地割り ・ ※2m²程度（最大目地間隔3m程度）
（種類 ・ ※押し目地）
・設けない
外装タイル張り下地等の下地モルタル塗及び下地調整材塗りの接着力試験
・適用する ・適用しない
・防水剤
（品質・性能・試験方法）
別表による

■ ラス系下地

(15.2.4)

ラス系下地
・通気工法単層下地
換気口部の防水処理
・通気工法二層下地
・直貼りラスモルタル下地
・直貼りラスシートモルタル下地
・耐力壁、防火構造、準防火構造等の指定
（ ）

ラスの材料
・素材による区分 （ ）
・種類 （ ）
・単位面積当たりの質量 （ ）

■ セルフレベリング材塗り

(15.5.2)(表15.5.1)

・せっこう系 ・セメント系

● 仕上塗材仕上げ

(15.6.2)

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・

仕上塗材の種類
・薄付け仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状・工法	吸放湿材	防火材料
■外装薄塗材Si	・砂壁状	・適用する	■
・可とう形外装薄塗材Si	・ゆず肌状	・適用しない	■
・外装薄塗材E	（・吹付け ・ローラー塗り）		■
・可とう形外装薄塗材E	・さざ波状		■
・防水形外装薄塗材E	・平たん状		■
・外装薄塗材S	・凹凸状		■
・内装薄塗材C	（・吹付け ・こて塗り）		■
・内装薄塗材L	・着色骨材砂壁状		■
・内装薄塗材Si	（・吹付け ・こて塗り）		■
・内装薄塗材E	・砂壁状じゅらく		■
・内装薄塗材W	・京壁状じゅらく		■

・厚付け仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状・工法	吸放湿材	上塗材	防火材料
・外装厚塗材C	・吹放し	・適用する	・適用する	■
・外装厚塗材Si	・凸部処理	・適用しない	・適用しない	■
・外装厚塗材E	・平たん状			■
・内装厚塗材C	（・こて塗り ・ローラー塗り）			■
・内装厚塗材L	・凹凸状			■
・内装厚塗材G	（・こて塗り ・ローラー塗り）			■
・内装厚塗材Si	・ひき起こし			■
・内装厚塗材E	（・こて塗り ・ローラー塗り）			■
	・かき落とし			

●複層仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状・工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料
・複層塗材CE	●ゆず肌状	溶媒	・・	
・可とう形複層塗材CE	・凸部処理	※水系		■
・複層塗材Si	・凹凸状	■	※耐候形3種	■
●複層塗材E		樹脂		■
・複層塗材RE		※アクリル系		■
・防水形複層塗材CE		■		■
・防水形複層塗材E		外観		■
・防水形複層塗材RE		※つやあり		■
		・メタリック		
		■		

工事名称	令和4年度新宿御苑ワーキングスペース代替施設新築工事	工事年度	令和 4 年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11	図面名称	特記仕様書3
発注機関	環境省自然環境局新宿御苑管理事務所	縮尺	－
公園名称	新宿御苑	図面番号	A－004 ／

検印	管理建築士	設計	製図	設計者	名称	宇建築設計事務所 一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本 治子
					登録番号	一級建築士 第355094号
					所在地	神奈川県川崎市 高津区久末1778-1-420

■ 床張り用合板等

・軽量骨材仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状・工法	防火材料
・吹付用軽量塗材	砂壁状	■
・こて塗用軽量塗材	平たん状	■

■ ＡＬＣパネルの場合の下地処理 (15.6.4)

内壁目地部の形状　※Ｖ形目地付き　・

■ マスチック塗料塗り (15.7.2)

種別　　・Ａ種　　・Ｂ種

■ せっこうプラスター塗り (15.8.3)

下塗り
・既調合プラスター（下塗り用）
・現場調合プラスター（下塗り用）
上塗り
・既調合プラスター（上塗り用）
・しっくい塗り

■ ロックウール吹付け (15.12.2、3)

ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・
接着剤のホルムアルデヒド放散量　　※ 規制対象外　・
仕上げ吹付け厚さ(mm)　　・図示　　・ 25　　■

■ しっくい塗り (15.10.2、3)

しっくい
・現場調合材料　※標準仕様書15.10.2(1)(ｱ)による
・既調合材料
製造所　（　　）
種類　（　　）
下地
※木ずり、こまい土壁塗り、せっこうラスボード、せっこうボード

調合及び塗厚
・木ずり下地の場合　　※標準仕様書表15.10.1
・こまい土壁下地の場合　※標準仕様書表15.10.2

■ こまい壁塗り (15.11.2～5、7、8)

のり
・土壁用ののり　　・ふのり　※つのまた　・ぎんなんそう
・粉末海藻
・砂壁用ののり　　※ふのり　・つのまた　・こんにゃくのり
・にかわ　・合成樹脂系混和剤
色土
・土物仕上げに用いる色土の種類　（　　）
・大津仕上げに用いる色土の種類　（　　）
色砂の種類
・天然砂と岩石の砕砂
・人工的に着色・製造したもの
調合
下塗りの調合
※標準仕様書表15.11.2
塗厚
※標準仕様書表15.11.3による
・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合
（　　）

工程　　※Ａ種　・Ｂ種
・土物仕上げ
種類　　・土物仕上げ工法
・水ごね土物１工法　　・水ごね土物２工法
・のりさし土物工法　　・のりごね土物工法
・砂壁仕上げ工法
・切返し仕上げ工法
・大津仕上げ
種類　　・普通大津仕上げ工法
・大津みがき仕上げ工法

16 建具工事

■ 防火戸 (16.1.3)

・建具表による　■

■ 見本の製作等 (16.1.4)

建具見本の製作　　・行う（建具符号：　　）
・行わない
建具見本の程度　　・工事に使用するものとして、あらかじめ製作する
・納まり等が分かる程度のもの
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　　）
・行わない

■ 防犯建物部品 (16.1.6)

・適用する（・建具表による　・　　）
・適用しない

● アルミニウム製建具 (16.2.2、4、5)（表14.2.1）(表16.2.1)

性能等級
耐風圧性の等級（Ｓ-４　・　　）
気密性の等級（Ａ-４　・　　）
水密性の等級（Ｗ-４　・　　）
外部に面する建具の種別
・Ａ種（建具符号　　）建具表による　・　　）
・Ｂ種（建具符号　　）建具表による　・　　）
・Ｃ種（建具符号　　）建具表による　・　　）
・Ｄ種（建具符号　　）建具表による　・　　）
・Ｅ種（建具符号　　）建具表による　・　　）
防音ドア,防音サッシ　　遮音性の等級（・　）
（建具符号　　）建具表による　・　　）
断熱ドア,断熱サッシ　G　断熱性の等級（・　）
（建具符号　　）建具表による　・　　）
耐震ドア　　面内変形追随性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　　）
ステンレス鋼板　・
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
枠の見込み寸法　・建具表による　・
表面処理
外部に面する建具
種別　・BB-1　BB-2（※標準仕様書表14.2.1）
着色　・標準色　・特注色
屋内の建具
種別　・BB-1　BB-2（※標準仕様書表14.2.1）
着色　・標準色　・特注色
結露水の処理方法　※図示　・
水切り板、ぜん板　※図示　・

■ 網戸等 (16.2.3)

種類	材種	線径	網目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ■	※16～18メッシュ ■
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

■ 樹脂製建具 (16.2.5)（16.3.2～5）（表16.3.1）

性能等級
性能値等
耐風圧性の等級（・　　・　　）
気密性の等級　（・　　・　　）
水密性の等級　（・　　・　　）
外部に面する建具　・Ａ種（建具符号：・建具表による　・　　）
・Ｂ種（建具符号：・建具表による　・　　）
・Ｃ種（建具符号：・建具表による　・　　）
・Ｄ種（建具符号：・建具表による　・　　）
・Ｅ種（建具符号：・建具表による　・　　）
防音ドア,防音サッシ　　遮音性の等級（・Ｔ－１　・Ｔ－２）
（建具符号：・建具表による　・　　）
断熱ドア,断熱サッシ　G　断熱性の等級（・Ｈ－４・Ｈ－５・Ｈ－６・　）
（建具符号：・建具表による　・　　）
枠の見込み寸法　・建具表による　・
表面色　・標準色　・特注色
水切り板、ぜん板　※図示　・
ガラス　※複層ガラス

■ 鋼製建具 (16.2.2)（16.4.2～4）（表16.4.2）

性能等級
簡易気密型ドアセット　　・適用する　（建具符号：・建具表による　・　　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性　・S-4（建具符号：・建具表による　・　　）
・S-5（建具符号：・建具表による　・　　）
・S-6（建具符号：・建具表による　・　　）

防音ドア,防音サッシ　　遮音性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　　）

断熱ドア,断熱サッシ　G　断熱性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　　）

耐震ドア　　面内変形追随性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　　）
ステンレス鋼板　・
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
鋼板類の厚さ
※標準仕様書表16.4.2による

■ 鋼製軽量建具 (16.2.2)（16.5.2～4）

性能等級
簡易気密型ドアセット　　・適用する　（建具符号：・建具表による　・　　）
・適用しない
防音ドア,防音サッシ　　遮音性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　　）

断熱ドア,断熱サッシ　G　断熱性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　　）

耐震ドア　　面内変形追随性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　　）

材料　鋼板　・亜鉛めっき鋼板　・ビニル被膜鋼板　・カラー鋼板　・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板　・　　※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
鋼板の厚さ（mm）　・　　使用箇所（　　）
※標準仕様書表16.5.1による
召合せ、縦小口包み板の材質　・　　※鋼板

■ ステンレス製建具 (16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)

性能等級
簡易気密型ドアセット　　・適用する　（建具符号：・建具表による　・　　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性　・S-4（建具符号：・建具表による　・　　）
・S-5（建具符号：・建具表による　・　　）
・S-6（建具符号：・建具表による　・　　）
■

防音ドア,防音サッシ　　遮音性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　　）

断熱ドア,断熱サッシ　G　断熱性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　　）

耐震ドア　　面内変形追随性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　　）
ステンレス鋼板　・　　※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
表面仕上げ　※ＨＬ　　・鏡面仕上げ　・
ステンレス鋼板の曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ

■ 木製建具 (16.7.2～4)

※木製建具仕様参照
建具材の加工、組立時の含水率　※Ｂ種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

・フラッシュ戸
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板　G	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※ｳﾛｺ程度　・　　） 不透明塗料塗り （※しな程度　・　　） 板面の品質（　） 接着の程度（・1類　・2類 ）	
・天然木 化粧合板　G	樹種名（　　） 接着の程度（・1類　・2類 ）	
・特殊加工 化粧合板　G	化粧加工の方法 （・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ﾌﾞﾘｯﾄ ・塗装） 表面性能（　　）タイプ 接着の程度（・1類　・2類 ）	

表面板の厚さ　※表16.7.6による　・

・かまち戸
かまち樹種（　　）　鏡板樹種（　　）
見込み寸法　※36mm　・建具表による　・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型）
上張り（押入等の裏側以外）　・鳥の子　・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ　・塗り縁　・生地縁（素地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※19.5mm　・建具表による　・
・戸ぶすま
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
・紙張り障子
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・

枠、くつずりの材料　・建具表による　■

● 建具用金物 (16.8.2、3)(表 16.8.1)

金物の種類及び見え掛り部の材質等
※標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による　・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
●建具表による
※標準仕様書表16.8.3による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
●建具表による
※標準仕様書表16.8.3による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
●建具表による
※標準仕様書表16.8.4による
木製建具に使用する戸車及びレール
●建具表による
※標準仕様書表16.8.5による
握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置　●建具表による　■
・錠前類（シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠）
（品質）
デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。 鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
（性能）
別表による
●錠前類 （レバーハンドル）
（性能）
別表による
●クローザ類
（品質・性能・試験方法）
別表による

● 鍵 (16.8.4)

マスターキー　●製作する　・製作しない
鍵の製作本数　　※各室３本１組（室名札付き）　・
鍵箱　　※有り　・無し

● 自動ドア開閉装置

・引き戸用駆動装置 (16.9.2、3)
性能値　　※標準仕様書表16.9.1
・種類・開閉方式　（　　）
・耐電圧　（　　）
・温度上昇　（　　）
・耐久性（サイクル）　（　　）
・防錆　（　　）
・電源　（　　）

・多機能トイレ出入り口引き戸用駆動装置
性能値　　※標準仕様書表16.9.2
・耐電圧　（　　）
・温度上昇　（　　）
・耐久性（サイクル）　（　　）
・防錆　（　　）
・電源　（　　）

・引き戸用検出装置
性能値　　※標準仕様書表16.9.3
・耐電圧　（　　）
・防錆　（　　）
・防滴　（　　）
・電源　（　　）

戸の開閉方式
●建具表による
引き戸用検出装置の種類　　標準仕様書表16.9.4
●建具表による
凍結防止措置
・適用する　　・適用しない

● 自閉式上吊り引戸装置 (16.10.3)（表16.10.1）

性能値等　※（表 16.10.1）
・手動開き力　（　　）
・手動閉じ力　（　　）
・閉じ速度の調整　（　　）
・制動区間　（　　）
・開閉繰返し　（　　）
・耐衝撃性　（　　）
（試験方法）
別表による

■ 重量シャッター (16.11.2、3)

シャッターの種類・ 管理用シャッター　　耐風圧強度（　　）N/m²
・ 外壁用防火シャッター　　耐風圧強度（　　）N/m²
・ 屋内用防火シャッター
・ 屋内用防煙シャッター
開閉方式の種類　※ 上部電動式（手動併用）　・ 上部手動式
二重チェーン、急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所
・図示
障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所　　・図示
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構
・設ける　（設置箇所　・図示　・　　）
「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」（昭和48 年12 月28 日建設省告示第2563号）に定める基準に適合するもの
※障害物感知装置（自動閉鎖型）　　・可動座板式
・設けない
管理用シャッターのシャッターケース　・ 設ける　・ 設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類　　・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量　※Z12又はF12　・

■ 軽量シャッター (16.12.2～4)

開閉形式の種類　※手動式　・上部電動式（手動併用）
耐風圧強度（　）N/m²
スラットの材質 の種類
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっき付着量（※Z06又はF06　・　　）
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
めっき付着量（※AZ90　・　　）
スラットの形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形

■ オーバーヘッドドア (16.13.2、3)

セクション材料による区分	耐風圧性能区分(Pa) による区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125（1250） ・100（1000） ・75（750） ・50（500）	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所　　・図示　　■

● ガラス (9.7)（16.14.2～4）（表16.14.1）

・フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類
●建具表による

・型板ガラスの厚さによる種類
・建具表による

・網入板ガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
●建具表による

・合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
●建具表による
形状による種類
●平面合わせガラス　　●曲面合わせガラス
落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類
●Ⅰ類　・Ⅱ－１類　・Ⅱ－２類　・Ⅲ類

●強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称
●建具表による
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
●Ⅰ類　・Ⅱ類

・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類
・建具表による
性能による種類
・１種　・２種

●複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
●建具表による
断熱性による区分
・Ｔ１　・Ｔ２　・Ｔ３　・Ｔ４　・Ｔ５　・Ｔ６
日射取得性、日射遮蔽性による区分
・Ｇ　・Ｓ
乾燥気体の種類
・空気　・アルゴン

・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
・建具表による
日射熱遮へい性による区分
・ 1種　・ 2種　・ 3種
耐久性による区分（日射熱遮蔽性による区分が2種の場合）
・ Ａ類　・ Ｂ類
映像調整　・行わない　・行う

・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
・建具表による

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	●シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ■	●図示 ■ ・建具の製造所の仕様による
鋼製及び鋼製軽量	●シーリング材 ■	●図示 ■ ・建具の製造所の仕様による
ステンレス製	●シーリング材 ■	●図示 ■ ・建具の製造所の仕様による
樹脂製	・シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ■	・図示 ■ ・建具の製造所の仕様による

工事名称	令和4年度新宿御苑ワーキングスペース代替施設新築工事	工事年度	令和　4　年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11	図面名称	特記仕様書4
発注機関	環境省自然環境局新宿御苑管理事務所	縮尺	－
公園名称	新宿御苑	図面番号	Ａ－005 /

検印	管理建築士	設計	製図	設計者	名称	宇建築設計事務所 一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本 治子
					登録番号	一級建築士 第356094号
					所在地	神奈川県川崎市 高津区久末1178-1-420

■ ガラスブロック

(16.14.5)

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調 クリア	色調 乳白	目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮調整目地(mm)	防火性能
・正方形	・125×125	80	■	■	※8～15	外側	※6m以下ごとに 幅10～25	
	・160×160	・95	・・		・15～25	※15以下		
		・125			■	■	・図示	※無し
	・200×200	・95	・・			内側	■	・有り
		・125				※6以上		
	・320×320	95	・・			■		
・長方形	・250×125	80	・・					
	・320×160	95	・・					

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。
壁用金属枠及び補強材
　※図示

力骨　材質　・　　※ステンレス鋼(SUS304)
　寸法　・　　※径5.5mm
　形状　・　　※はしご形状複筋及び単筋
化粧目地モルタルの色（　　　）
金属製化粧カバー　材質　・ステンレス製　・アルミニウム製
　寸法　※図示　・
　形状　※図示　・
工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地部の横力骨の納まり
　・　　・図示　　※ガラスブロック製造所の仕様による

17 カーテンウォール工事

■ 取付方法、性能等

(17.1.3) (17.2.2) (17.3.2)

取付方法　・層間方式　・柱・梁方式　・方立方式　・スパンドレル方式
性能

耐震性能 水平方向(kH)	耐震性能 垂直方向(kV)		気密性	遮音性		耐火性能	耐温度差性(℃)
・1.0	・0.5					・30分	・80
■	■					・1時間	・70
							・60

耐風圧性能
　建築基準法に基づき定まる風圧力（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離(h)	耐風圧性能
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量20mm以下であること　・ ■
4mを超える	■

層間変位追従性

建築物の構造種別	層間変位量（h=支点間距離）
鉄骨造	■
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	■

構造用ガスケット
　・適用する　（施工箇所　・図示　・　　）
　　材質　・クロロプレン系　・EPDM系　・シリコーン系
　　形状　・H型　・Y型　・C型
　　寸法(mm)　ガラス板厚（　）、支持枠の厚さ（　）、ウェブの寸法（　）
　・適用しない

断熱材 G
　種類（　　　）
　厚さ(mm)（　）
　施工箇所　・図示　・

耐火材料

施工部位	種別	規格等
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		
■		

■ メタルカーテンウォール

(17.2.2、3、5)

金属系材料の種類
　・アルミニウム材　・鋼材　・ステンレス鋼材
（アルミニウム材の場合）
規格等　標準仕様書16.2.3による
　種別　・　　（標準仕様書表14.2.1）
　着色　・　標準色　・　特注色
　映像調整　・行う　・行わない

形状及び仕上げ
　製品の寸法許容差　・　　※標準仕様書表17.2.1による
　見え掛かり部の仕上げ
　ガラス溝の寸法、形状等　・　　※カーテンウォールの製造所の仕様

取付け
　躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
　　鉛直方向　・　※±10mm
　　水平方向　・　※±25mm

　カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
　　目地の幅　・　※±3
　　目地の心の通り　・　※+2
　　目地両側の段差　・　※+2
　　各階の基準墨から各部材までの距離　・　※±3

シーリング材の種類
■
ガラスの取付け材料
　・シーリング
　　種類
　・構造ガスケット
　　形状・寸法等　・図示による
　断熱材 G
　　種類　（　　　）

■ ＰＣカーテンウォール

(17.3.2～5)(表17.3.1、2)

材料
　コンクリート　種類　（　　　）
　　品質　設計基準強度(Fc)　・　※ 30N/mm2
　　　スランプ　・　※ 12cm
　　　気乾単位容積質量
　　　　■
　　　　・普通コンクリートの場合
　　　　　2.1t/m3を超え2.5t/m3以下
　　　単位水量の最大値　・　※185kg/㎥
　鉄筋　種類の記号　※SD295A（・　・　）
　補強鉄線
　　径(mm)　・3.2　・4.0　・5.0　・6.0
　　網目寸法　・
シーリング材の種類
■

耐火目地材　・
断熱材 G
　種類　（　　　）

ガラスの取付け材料
　・シーリング
　　種類　・
　・構造ガスケット
　　形状・寸法等　・図示による
先付けの材料
　・表面仕上材
　　・磁器質タイル
　　・石材（・花こう岩　・大理石　・　）
　　■
・建具枠
・ゴンドラ用ガイドレール
形状及び仕上げ
　製品の見え掛り部の寸法許容差
　　・辺長　mm　対角線長の差　mm　版厚　mm
　　開口部内法寸法　mm　ねじれ、そり　mm
　　曲がり　mm　面の凹凸　mm　先付け金物の位置　mm
カーテンウォールの仕上げ　・
構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)
　■
　・　躯体取付金物の取付け位置の寸法許容差　※標準仕様書表17.3.2による

18 塗装工事

⦿ 材料

(18.1.3)

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外　・
・防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
　・次の箇所を除き防火材料とする。（箇所：　　）

⦿ 素地ごしらえ

(18.2.2～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗料塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面		※C種　・A種　・B種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面（DP以外）及びＡＬＣパネル面		※B種　・A種
押出成形セメント板面		※A種　・B種
せっこうボード面及びその他ボード面	目地：継目処理工法	※A種　・B種
	目地：継目処理工法以外	※B種　・A種

⦿ 錆止め塗料塗り

(18.3.2、3)

下地面等		工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	見え掛り部分	※A種　・B種	・A種　・B種
	見え隠れ部分	※B種　・A種	EP-G（屋内）の場合 ※B種　・A種
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等	※A種　・B種	・A種　・B種
	鋼製建具等以外	※B種　・A種	・C種 (EP-Gの場合C種)

⦿ 塗装

(18.4.1～18.14.2)

塗装		種別	塗料の種類	高日射反射率塗料の適用 G
・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	※1種　・2種	
	木部屋内	※B種　・A種	※1種　・2種	
	鉄鋼面	※B種　・A種	※1種　・2種	■
	亜鉛めっき鋼面	―	※1種　・2種	■
・クリヤラッカー塗り(CL)		※B種　・A種	―	
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		※B種　・A種	―	
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	―	上塗り塗料の等級( )級	■
	亜鉛めっき鋼面	―	上塗り塗料の等級( )級	■
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種　・B種　・C種		
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面等、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等	※B種　・A種	―	
	屋内の鉄鋼面	※B種　・A種	―	
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		※B種　・A種	―	
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T)		※B種　・A種	―	
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種　・A種	―	
・オイルステイン塗り(OS)		塗料：・水性　・油性	―	
			―	

高日射反射率塗装　Gを適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする

19 内装工事

⦿ 接着剤

(19.2.2)

接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※ 規制対象外　・
接着剤は可塑剤(難揮発性の可塑剤を除く)が添付されていないものとする
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
　・図示

⦿ ビニル床シート G

(19.2.2、3)

種類の記号	色柄	厚さ(mm)	備考
※FS（複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ） ■	・無地 ・ﾏｰﾌﾞﾙ柄 ・柄物	※ 2.0 ■	

目地処理する場合の工法　・　※ 熱溶接工法

■ ビニル床タイル G

(19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法(mm)	厚さ(mm)	備考
・ＴＴ（単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ■	・2.0 ■	
・ＦＴ（複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ■	・2.0 ・2.5 ・3.0	
※ＫＴ（ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ■	・2.0 ・3.0	
・ＦＯＡ（置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物	・500×500 ■	・4.0 ■	
・ＦＯＢ（薄型置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物	■	■	

■ 特殊機能床

(19.2.2)

・帯電防止床シート
　種類　（　　）
　性能　（　　）
　厚さ　（　　mm）
・帯電防止床タイル
　種類　（　　）
　性能　（　　）
　寸法　厚さ　（　×　mm）
・視覚障害者用床タイル
　視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による
　種類　（　　）
　形状　（　　）
・耐動荷重性床シート
　種類　（　　）
　厚さ　（　　mm）
・防滑性床シート
　種類　（　　）
　厚さ　（　　mm）
・防滑性床タイル
　種類　（　　）
　寸法　厚さ　（　×　mm）

⦿ ビニル幅木

(19.2.2)

材質の種類　・軟質　・硬質
高さ(mm)　※60　・75　・100
厚さ(mm)　・　※1.5以上

■ ゴム床タイル

(19.2.2)

種類　・単層品　・複層品
色柄　（　　）
厚さ(mm)　・3.0　・4.5　・6.0　・9.0
寸法(mm)（　　）

■ カーペット敷き G

織り方	パイル形状
・ウィルトンカーペット	・カットパイル
・ダブルフェースカーペット	・ループパイル
・アキスミンスターカーペット	・カット/ループパイル

　色柄（・　　※模様のない無地）
　パイル糸の種類等
　　※無地の織りじゅうたんの種別（・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種）
　　■
　帯電性　・適用する　・適用しない

　織じゅうたんの接合方法　※ヒートボンド工法
　下敷き材　※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm

・タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ (mm)	工法	帯電性	備考
・カットパイル	・5～7　・	※全面接着工法	・適用する	
・ループパイル	・4～6　・	・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法	（　）	
・カット、ループ併用	■		・適用しない	

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm　・

・ニードルパンチカーペット
　厚さ（mm）（　）
　帯電性　・適用する
　　・適用しない
　備考（　　）

・タイルカーペット

パイル形状	種別	施工箇所	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	備　考
※ ループパイル	※ 第一種 ・第二種		※ 500×500 ■	※ 6.5 ■	
・カットパイル	・第二種		※ 500×500 ■	■	
・カット・ループ併用	・第二種		※ 500×500 ■	■	

タイルカーペットの敷き方　平　場　※市松敷き　・模様流し　・
　階段部分　※模様流し　・市松敷き　・

見切り、押え金物
　材質　（　　）
　種類　（　　）
　形状等　※図示　・

■ 合成樹脂塗床

(19.4.2、3) (表 19.4.4、5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床材			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床材		・薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			※平滑仕上げ

塗料のホルムルデヒド放散量　※規制対象外

■ フローリング張り G

(19.5.2～6) (表 19.5.1～5)

・単層フローリング　（フローリングボード１等）
　工法　・釘留め工法（・根太張り　・直張り）
　　・接着工法
　樹種　・　※　なら
　間伐材等の適用　・適用する　・適用しない

・単層フローリング　（フローリングブロック1等）
　樹種　・
　厚さ
　大きさ
　間伐材等の適用　・適用する　・適用しない

・複合フローリング
　工法　・釘留め工法（・根太張り　・直張り）
　　・接着工法
　樹種　・　※　なら
　種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種
　間伐材等の適用　・適用する　・適用しない

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量　※ 規制対象外　■
接着工法の場合の裏面緩衝材　※合成樹脂発泡シート　・
　・現場塗装仕上げ
　　※ウレタン樹脂ワニス塗り
　　・オイルステインの上、ワックス塗り
　　・生地のままワックス塗り

■ 畳敷き

(19.6.2) (表 19.6.1)

種別　・A種　・B種　・C種　・D種（畳床：・KT-Ⅰ・KT-Ⅱ・KT-Ⅲ・KT-K・KT-N)
下地の種類　・標準仕様書　表12.6.1による床組
　・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン　G
　■
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

⦿ せっこうボード、その他のボード及び合板張り

(19.7.2、3) (表 19.7.1)

合板類、MDF及びパーティクルボード、接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外　・

種類等	厚さ(mm)、規格等
・木質系セメント板 G	
・木毛セメント板 　・硬質　・中質　・普通	・15　・20　・25
・木片セメント板 　・硬質　・普通	・12　・15　・18　・21　・30
・繊維板 G	
・ＭＤＦ（普通）	・3　・7　・9　・12　・
・ハードボード（素地）	・　研磨板（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ） ・研磨板　（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ）　ＲＳ
・ハードボード（化粧）	・内装用 ＤＩ・外装用 ＤＥ ・2.5　・3.5　・5　・7
・インシュレーションボード	A級（天井仕上げ　・内装仕上げ　・　） ・9　・12　・15　・18
■	■
・パーティクルボード G	
・単板張りパーティクルボード	・無研磨板　ＶＮＶＳ・研磨板 ・10　・12　・15　・18
・化粧パーティクルボード	・単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　ＤＶ・ＤＯ・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・塗装　ＤＣ ・10（難燃）・12（難燃）・
■	■
・吸音材料	
・ロックウール化粧吸音板	・フラットタイプ（・9(不燃)・12(不燃) ■ ・凹凸タイプ（・12(不燃)　・15(不燃) ■
・ロックウール吸音ボード（1号）	・25　・
・グラスウール吸音ボード（32K）	・25（ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包）　・
■	■
・せっこうボード	
⦿ せっこうボード	※ 12.5（不燃）　・15（不燃）
・不燃積層せっこうボード	9.5（不燃）　・化粧無（下地張り用） ・化粧有（トラバーチン模様）
・シージングせっこうボード	12.5（・不燃　・準不燃）
⦿ 強化せっこうボード	・12.5（不燃）　・15（不燃）
・せっこうラスボード	9.5
・化粧せっこうボード	・木目　12.5（不燃）幅 440mm 程度 　模様（・柾目　・板目）専用下地材有り ・ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様　9.5（準不燃）
■	■
⦿ 普通合板 G	表板の樹種名　・ 板面の品質（　） 厚さ　※図示 接着の程度　・1類　・2類 防虫処理　・行う　・行わない

)
)

工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事	工事年度	令和　4　年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11	図面名称	特記仕様書5
発注機関	環境省自然環境局新宿御苑管理事務所	縮尺	－
公園名称	新宿御苑	図面番号	A－006　／

検印	管理建築士	設計	製図	設計者	名称	宇建築設計事務所 一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　第356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

・天然木化粧合板 G	化粧板の樹種名 ・ 厚さ ※図示 接着の程度 ・1類 ・2類 防虫処理 ・行う ・行わない
・特殊加工化粧合板 G	化粧加工の方法（・オーバーレイ・プリント・塗装・ ） 表面性能 ・ 厚さ ※図示 接着の程度 ・1類 ・2類 防虫処理 ・行う ・行わない
・けい酸カルシウム板（タイプ 2）	・6 ・8
・メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による （※ 1.2 ・ ）
・ポリエステル樹脂化粧板	・
・	・

せっこうボード等の下地は図示による。

遮音シール材 ・適用する（・シーリング材 ・ジョイントコンパウンド）
・適用しない

合板類の張付け ※B種 ・A種
せっこうボードの目地工法 ・仕上表による ・

・壁紙張り

(19.8.2、3)

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維	プラスチック	無機質	その他	防火性能	備考
	・	・	・	・	・	・不燃・ 準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・ 準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・ 準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・ 準不燃	

モルタル・プラスター面の素地ごしらえ ※B種 ・A種
コンクリートの素地ごしらえ ※B種 ・A種
せっこうボード面の素地ごしらえ ※B種 ・A種

・断熱材 G

(19.9.2、3)

フェノールフォームを使用した断熱材のホルムアルデヒド放散量

・断熱材打込み工法

種類	厚さ(mm)	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・	・
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材 （スキン層なし）	・50	・接地部分
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・
・フェノールフォーム断熱材	・30	・屋根
	・	・
		・

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類 ・ ※A種1またはA種1H
吹き付け厚さ（mm） ・25 ・30 ・
施工箇所 ・図示 ・
・現場発泡断熱材
（品質・性能・試験方法）
別表による

20 ユニット及びその他の工事

・フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構 法	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上材	備考
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・ ・3000 ・ ・5000	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・	

寸法精度
・ ※標準仕様書20.2.2(2)(オ)(a)～(c)による
パネルの長さ
※各辺の長さが500mmを超える場合 ±0.1%以内
500mm以下の場合 ±0.5mm以内
・
パネルの平面形状（角度）
※各辺の長さが500mmを超える場合 ±0.1%以内
500mm以下の場合 ±0.5mm以内
・
フリーアクセスフロアの高さ
※ ±0.5mm以内
・
（性能・試験方法）
別表による

・可動間仕切

(20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類 スタッド	パネル	表面仕上材 パネル表面仕上げ	遮音性(db/500Hz)	防火性能
・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・パネル式 ・スタッドパネル式			・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼 ・壁紙張り ・	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃

パネル内に取付ける建具 ・あり（※図示 ・ ） ・なし
ドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用建物に対応する材質とする。
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による
パネル材料のホルムアルデヒド放出量 ※JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上

・移動間仕切

(20.2.4)

構造形式	操作方法	圧縮装置の操作方法	総厚さ(mm)	パネル表面仕上材 材質	パネル表面仕上げ	遮音性(db/500Hz)
・平行方向 移動式 ・二方向 移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による
遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする
ハンガーレールの取付け下地の補強
・図示
※取付け全重量の５倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
ランナー
・
※パネル重量の５倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないものとする。

（品質・性能及び試験方法）
別表による

・トイレブース

(20.2.5)

表面材の種類	脚部 形状形状	ドアエッジ	材質
・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・標準 ・	・R	・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材

（品質・性能・試験方法） 別表による

・階段滑り止め

(20.2.6)

材種 （・ステンレス製 ・黄銅製押出型材 ・アルミニウム製押出型材 ・ ）
滑り止め材 形状 （ ・ひも型 ・タイヤ型 ）
材質 （ ゴム又は合成樹脂 ）
取付け工法 ※接着工法 ・埋め込み工法
幅(mm) ・ 端部フラットエンド（・あり ・なし）

・手すり

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材	・クリアラッカー ・	・35 ・45 ・		
・ビニル製ハンドレール	・			

・黒板及びホワイトボード G

(20.2.8)

・黒板
区分 ・ ※焼き付け
種類 ・ ・鋼製黒板 ・ほうろう黒板 ・
色 ・ ※緑
・ホワイトボード

・鏡

(20.2.9)

取付箇所 （ ）
寸法（mm） ・図示 ・
厚さ（mm） ※ 5 ・

・表示

(20.2.10)

・衝突防止表示
形状・寸法 （ ・３０φ ・図示 ）
材質 （ ・ステンレス製 ・ ）

案内用図記号はJIS Z 8210による。
誘導標識、非常用進入口等の表示
・適用する（※消防法に適合する市販品 ・ ）
色、書体、印刷等の種別、取付け形式等は図示による。
その他の表示 ※図示

・煙突ライニング

(20.2.11)

・煙突用成形ライニング材
（品質・性能・試験方法）
別表による

・ブラインド

(20.2.12)

形 式	操作方法	種 類	スラットの材種	スラット幅(mm)	ボックス・レールの材種	幅・高さ取付箇所
・横型	・手動	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 G ・	※ 25 ・	※鋼製 ・	・図示 ・
	・電動	ー				
・縦型	・手動	※２本操作コード式 ・１本操作コード式	・アルミスラット ・クロススラット ・	・80 ・100	アルミニウム合金製	・図示 ・
	・電動	ー				

スラットの材質
・アルミスラット 焼付け塗装仕上げ
・クロススラット 消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は Gする。

・ロールスクリーン G

(20.2.13)

操作方式 ・スプリング式 ・コード式 ・電動式
幅・高さ ・図示
材種 ・ガラス繊維製 ・合成・天然繊維製 ・木製
品質等 ・
その他の材料 ・ ※ロールスクリーンの製造所の仕様による

・カーテン

(20.2.14)

形式		開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・シングル ・ダブル・引分け	・片引き	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・プレーンひだ、片ひだ		・図示 ・	
						（暗幕）

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は Gとする。
暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※300mm以上 ・

・カーテンレール

(20.2.14)

材料による区分
※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押出し成型材
・ステンレス製
強さによる区分 ※10-90 ・
仕上げ ※アルマイト ・
形状 ※角形 ・

・ブラインドボックス及びカーテンボックス

溝型×深さ（mm） ・90×150 ・120×80 ・120×150 ・150×80 ・図示
材質 ・集成材（仕上げ： ）
・アルミニウム製 押出し型材（市販品）
種別（標準仕様書表14.2.1） ・BC-1 ・BC-2
色合い ・標準色（ ） ・特注色（ ）
・鋼製（仕上げ： ）

・天井点検口

・	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・気密形	・屋内外用 ・屋内用	イプ ・目地タイプ	・額縁タイプ ・目地タイプ

（品質・性能・試験方法）
別表による

・床点検口

		形式		
・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

（品質・性能・試験方法）
別表による

・耐震スリット

方 向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直方向 ・水平方向	※ 完全（全貫通型） ・	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・シーリング材(見え掛かりのみ) ・	・シーリング材(見え掛かりのみ) ・シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	・幅20×深さ10 ・	・幅20×深さ10 ・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.1による

・止水板

形式 ・差込式 ・据置式 ・壁張り式
施工箇所 ・図示

・エキスパンションジョイント金物

材種	クリアランス(mm)	耐火性能	備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50 ・100 ・150	・有り（ ） ・無し	

外部は防水型とする

・くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼（SUS304）製 ・	・ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金 ・	

・流し台ユニット

材種	寸法(mm) WDH			備考
・流し台	・1200 ・1500 ・1800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	ー	ー	市販品 ステンレス製 ・1段式 ・

品質・性能
（１）外観は、JIS A 4420（キッチン設備の構成材）の4.1による
（２）構成材は、JIS A 4420により試験を行ったとき、表1の規定による。
形状 ※図示 ・

・旗竿

材種	形式	高さ(mm)	操作方法	固定方法	備考
・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・埋込式 ・ロープ式	・ベース式 ・バンド式	

・旗竿受金物

材 種 ・ステンレス製（SUS 304） ・

・車止め支柱

			柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・	・
・				

・フェンス

フェンスの種類 ・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス
・アルミフェンス
高さ ・図示 ・

・プレキャストコンクリート

(20.3.3、4)

コンクリートの設計基準強度
※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m³を満足する調合強度
・図示
配筋
※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。
・図示
取付け方法
※図示

・間知石及びコンクリート間知ブロック積み

(20.4.2、3)

材種		種類	質量区分	備考
	・花こう岩 ・凝灰岩	ー		
・コンクリート間知ブロック	ー		・A ・B	

積み方 ※谷積み ・布積み
目塗り ・図示
伸縮調整目地 材種 ・図示 ・
厚さ ・図示 ・

・鋼製書架及び物品棚

種類規格等		JISによる種類
・鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・１種 ・２種 ・３種
・鋼製物品棚		・４種 ・５種 ・６種

・屋内掲示板

枠の材質 ※ アルミニウム製
表面の材質 ※ 塩ビ発泡シート張り ・

・洗面カウンター

・図示
材 種 ・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材） ・人工大理石
奥行き(mm) ・約 450 ・約 600

・防煙垂れ壁

・固定式

材 質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備 考
※ 網入り磨板ガラス ・線入り磨板ガラス	※ 6.8 ・	※ 500 ・	アルミ製枠付き

・可動式

種 類	材 質	高さ(mm)	備 考
・垂直降下式 （巻取り型）	※ 不燃布 （不燃認定品）	※ 500 ・800 ・	ガイドレール ※ 固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
	鋼板製又はアルミ製	・800 ・	表面仕上げ ※ 天井材張り ・

降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

・屋外掲示板

照明器具 ※ 有り ・ 無し
施 錠 ※ 有り ・ 無し
製造所

・収納家具

材質、形状、寸法 ※ 図示
合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外 ・

21 排水工事

・屋外雨水排水

材料 (21.2.1、2)(表 21.2.1、2)

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管（１種）	・B形管 ・・	※図示	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・RF-VP G		※図示 ・	
	・RS-VU G		※図示 ・	
	・VP		※図示 ・	
	・VU		※図示 ・	

基床の厚さ及び種類 ・図示 ・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤 ・
側塊の形状及び寸法 ・図示 ・
排水桝の種類 ・図示 ・
砂地業に用いる材料
・シルト ・山砂 ・川砂 ・砕砂
砂利地業に用いる材料
・再生クラッシャラン G ・切込砂利又は切込砕石

・現場打ちの場合のコンクリート材料 設計基準強度 ・ ※18N/mm2
・現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295A
・現場打ちの場合の足金物 ※標準仕様書21.2.2(6)(オ)
材質 ・ステンレス製 ・鋼製 ・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層に用いる材料 ・
砂の粒度試験 ・行う
・行わない

・鋳鉄製ふた

(21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形 （パッキン式） ・密閉形 （テーパ・パッキン式） ・中ふた付き密閉形 （テーパ・パッキン式）	・T－２用 ・T－６用 ・T－２０用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会 SHASE-S209による

工事名称	令和4年度新宿御苑ワーキングスペース代替施設新築工事	工事年度	令和 4 年度
工事場所	東京都新宿区内藤町１１	図面名称	特記仕様書6
発注機関	環境省自然環境局新宿御苑管理事務所	縮尺	−
公園名称	新宿御苑	図面番号	A－007 ／

検印	管理建築士	設計	製図	設計者	
				名称	宇建築設計事務所 一級建築士事務所
				資格者氏名	岡本 治子
				登録番号	一級建築士 第356094号
				所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

・グレーチング

(21.2.1)

材質	形式適用荷重	用途		メインバーピッチ	亜鉛めっき（付着量）	上面形状
・鋼製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・U字溝用	・歩行用	・細目 ・	・（　　）	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目	・（　　）	・平形 ・
・ステンレス製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・U字溝用	・歩行用	―	―	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	―	―	・平形 ・

（品質・性能・荷重試験方法）
別表による

・街きょ、縁石及び側溝

(21.3.1、2)(表21.3.1)

街きょ、縁石、側溝

種類	形状、寸法
・縁石	・ 図示
・L形側溝	・ 図示
・U形側溝	・ 図示
・U形側溝ふた	・ 図示
・	・ 図示

地業の材料
・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
・再生クラッシャラン　・切込砂利　・切込砕石
砂利地業の厚さ　※100（mm）　・図示
・現場打ちの場合のコンクリート材料　設計基準強度　※18N/mm2　・
凍上抑制層に用いる材料　・
砂の粒度試験　・行う
・行わない

・埋戻し土

(21.2.1)

※ B種

22 舗装工事

・路床

(22.2.2、3、5)(表22.2.1)

路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
・路土	・A種　・B種　・C種　・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 G	・図示 ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン G　・クラッシャラン　・切込み砂利 ・砂	・図示 ・
・フィルター層	・砂 ・	・図示 ・

・路床安定処理
安定処理の方法　・置き換え工法　・安定処理工法

路床安定化処理用添加材料
種類　・普通ポルトランドセメント　・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種
・生石灰（　　）　・消石灰（　　）
添加量　・　kg/m3（目標CBR　・3以上　・　　）

・ジオテキスタイル
単位面積質量　・60g/m2以上　・
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm（10kgf/5cm）以上　・
透水係数　・1.5×10-1cm/sec以上　・
試験
砂の粒度試験　・行う　・行わない
路床土の支持力比（CBR）試験　・行う　・行わない
路床締固めの度の試験　・行う　・行わない
現場CBR試験　・行う　・行わない

・路盤

(22.2.2、3、5)(表 22.3.1)

路盤の厚さ　・図示　・
路盤材料

	種類
砕石	・クラッシャラン ・粒度調整砕石
再生材	・クラッシャラン G ・粒度調整砕石 G
・クラッシャラン鉄鋼スラグ G	
・粒度調整鉄鋼スラグ G	
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G	

路盤締固め度の試験　※行う　・行わない

・アスファルト舗装

(22.4.2～6)(表 22.4.4)

アスファルト舗装の構成及び厚さ　※図示　・
材料及び種類
アスファルト　・再生アスファルト G　（・60～80　・80～100）
・ストレートアスファルト
骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G

加熱アスファルト混合物等の種類
・密粒度アスファルト混合物(13)
・細粒度アスファルト混合物(13)
・密粒度アスファルト混合物(13F)

シールコートの乳剤の種別
・PK-1　・PK-2

試験
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度

・コンクリート舗装

(22.5.2～4、6)(表22.5. 1、3)

コンクリート舗装の構成及び厚さ

舗装の種類	構成		
コンクリート舗装	車路及び駐車場	・図示	・図示　・
	歩行者用通路	・図示	※70　・

寒冷地の縁部立下り寸法等　・図示
材料
・コンクリートの種類　・
設計基準強度　・
所定のスランプ　※8　・
粗骨材の最大寸法　・
※普通コンクリート、標準仕様書表22.5.1による
早強ポルトランドセメント　・使用する　・使用しない
注入目地材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ
目地
種類
間隔　・　m程度ごと
構造　・図示
・
※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による
試験
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度

・カラー舗装

(22.6.2～4)

・加熱系カラー舗装
構成・厚さ　・図示
加熱系混合物の結合材
・アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物　顔料の添加量　（　　%）
着色骨材　（　　）
自然石　（　　）

・常温系カラー舗装
工法　・ニート工法　・塗布工法
着色部の下部　・アスファルト舗装　・コンクリート舗装　・

・透水性アスファルト舗装

(22.7.2、3、6)

適用範囲：歩道
構成　・図示　・
材料
骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G　（表22.4.1）
（種類　・60～80　・80～100）

試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
砂の粒度試験　・行う　・行わない
舗装の平坦性　・　※著しい不陸がないもの

・ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装 G

(22.8.2、3)

種類	寸法(mm)厚さ(mm)		目地材	備考
※普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	・300角 ・	※ 60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

クッション材　※砂　・空練りモルタル
普通平板は G（再生材1料を用いた舗装用ブロック）、透水平板は G（透水性コンクリート）とする。
仕上り面の平たん性　・
※歩行に支障となる段差がないものとし、歩石間の段差は3mm以内とする。

・インターロッキングブロック舗装 G

種　類	部位形状	寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm2)	備考
※ 普通ブロック（N） ・ 透水性ブロック（P） ・ 保水性ブロック（M）	車路	・図示 ・	※80 ・	※5.0 ・	表面加工 ・
※ 普通ブロック（N） ・ 透水性ブロック（P） ・ 保水性ブロック（M）	歩行者用通路	・図示 ・	※60 ・	※3.0 ・	

クッション材　※砂　・空練りモルタル
歩行者用通路に使用する普通ブロックは G（再生材料を用いた舗装用ブロック）、
透水性ブロックは G（透水性コンクリート）とする。
仕上り面の平たん性　・
※歩行に支障となる段差がないものとし、インターロッキングブロック間の段差は3mm以内とする。

・ 舗石舗装

種　類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	施工方法	基　層	基層の厚さ(mm)
・花崗岩 ・	・割石 ・図示 ・	・	・うろこ張り ・	・コンクリート平板	※70 ・
				・アスファルト混合物	※50 ・

クッション材　※砂　・空練りモルタル
歩行者用通路に使用する普通ブロックは　（再生材料を用いた舗装用ブロック）、
透水性ブロックは　（透水性コンクリート）とする。
仕上り面の平たん性　・
※歩行に支障となる段差がないものとし、歩石間の段差は3mm以内とする。

・ジオテキスタイル
単位面積質量　・60g/m2以上　・
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
透水係数　・1.5×10-1cm/sec以上　・

・砂利敷き

(22.9.2)

種別
・A種（施工範囲：・図示　・通路　・　　）
・B種（施工範囲：・図示　・建物周囲その他　・　　）

・路面標示用塗料

路面標示用塗料はJIS K 5665による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
※3種1号	融解	粉体状	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・
・1種 G	常温	液状			
・2種 G	加熱				

G 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

23 植栽及び屋上緑化工事

・植栽地の確認等

(23.1.3)

土壌の水素イオン濃度指数（pH）試験　・行う　・行わない
電気伝導度（EC）の試験　・行う　・行わない

・植栽基盤の整備

(23.2.2、4)

樹木の植栽基盤の整備
・適用する　・ 適用しない

植栽	工法	有効土層の厚さ（cm）	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 (※100　・120　・150) 樹高7m以上～12m未満 (※80　・100) 樹高3m以上～7m未満 (※60　・80) 樹高3m未満 (※50　・60)	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※B種 ・	※20 ・	・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備　・設ける（※図示　・　　）　・設けない

・植込み用土

(23.2.3)

・現場発生土の良質土　・ 客土

・土壌改良材

(23.2.3)

土壌改良材の適用
・適用する　・ 適用しない

種別及び指定数量等
・ バーク堆肥 G
施工箇所　※植栽範囲　・図示
使用量　植栽基盤面積1m あたり　（　・50L　・　　）
・ 汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト） G
施工箇所　※植栽範囲　・図示
使用量　植栽基盤面積1m あたり　（　・10L　・　　）
材料
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする

・樹木

(23.3.2)

樹種、寸法、株立数等　※図示　・

・支柱

(23.3.2、3)

支柱材　※ 丸太（間伐材）G　・ 真竹　・
防腐処理方法　※加圧式防腐処理丸太材　・
形式　・図示　・

・幹巻き用材料

材料　(23.3.2)
※ 幹巻き用テープ　・ わら及びこも

・芝

(23.4.2、3)

種類　※ コウライシバ　・ノシバ　・
芝張りの工法
平地　※目地張り　・べた張り
法面　・目地張り　※べた張り

・吹付けは種

(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量（g/m2）	備考
※洋芝類（採取後2年以内）※発芽率80%以上			
・	・		

・地被類

(23.4.2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・	・	・	・

・新植、芝等の枯保証、移植樹木の枯損処置

(23.3.4、6)（23.4.7）

新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間
※引渡しの日から１年　・無し　・
移植樹木の枯損処置を行う期間
※引渡しの日から１年　・無し　・

・屋上緑化 G

(23.5.2～4)

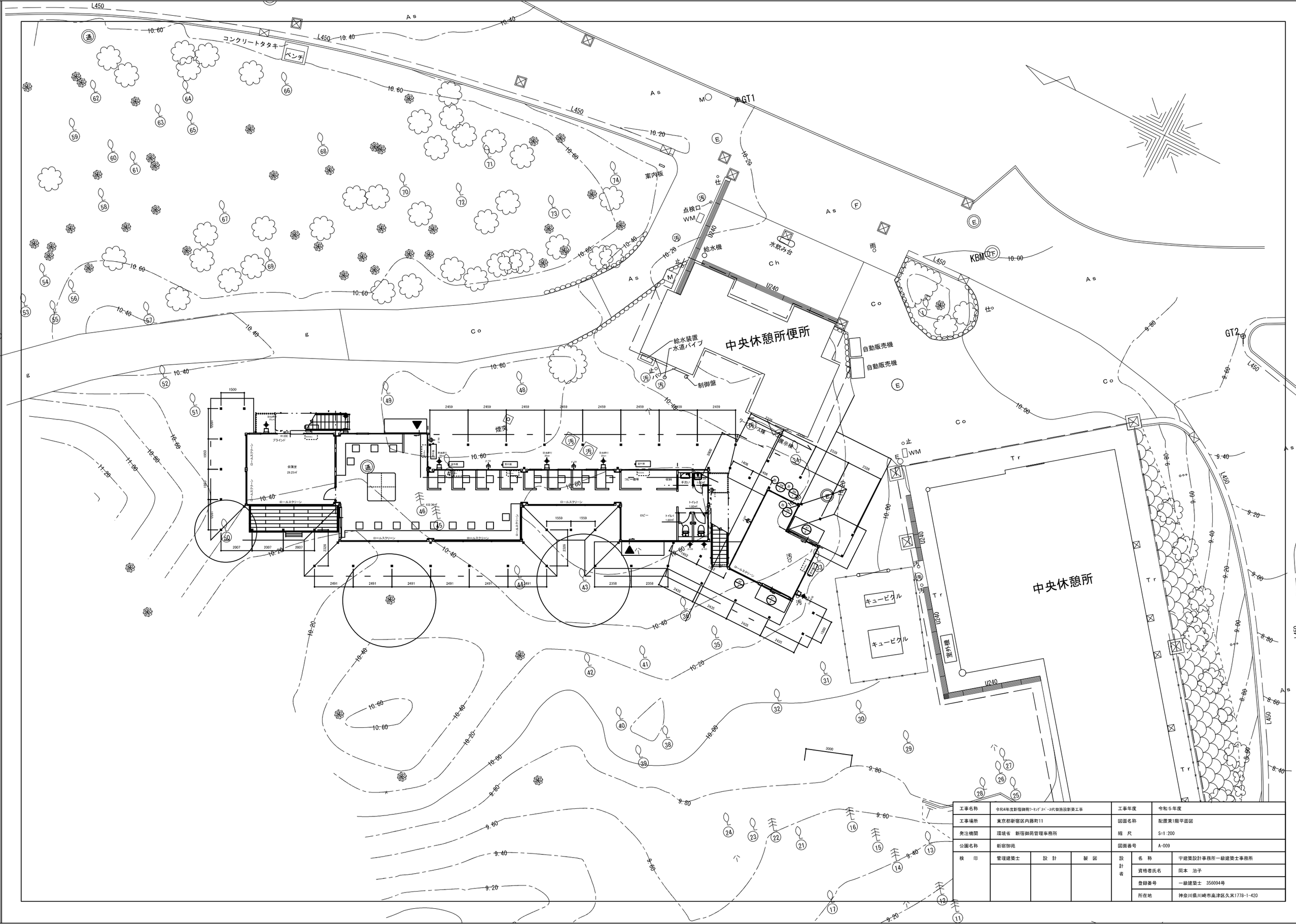
植栽基盤及び材料
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ　・図示　・
排水層　・軽量骨材（層の厚さ　：　　）　・ 板状成型品
植込み用土　※ 改良土　・ 人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等　※ 図示　・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等　※ 図示　・

（品質・性能・試験方法）
別表による

・屋上緑化軽量システム
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等　※ 図示　・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等　※ 図示　・
（品質・性能・試験方法）
別表による

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
支柱　・ 設置する（形式　・図示　・　　）
かん水装置　・ 設置する（種類　・　　）

工事名称	令和4年度新宿御苑ワーキングスペース代替施設新築工事			工事年度	令和　4　年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	特記仕様書7
発注機関	環境省自然環境局新宿御苑管理事務所			縮尺	－
公園名称	新宿御苑			図面番号	A－008 /
検印	管理建築士	設計	製図	設計者 名称	宇建築設計事務所 一級建築士事務所
				資格者氏名	岡本 治子
				登録番号	一級建築士 第356094号
				所在地	神奈川県川崎市高津区久末1720-1-420



工事名称	令和4年度新宿御苑ﾌｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	配置兼1階平面図
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:200
公園名称	新宿御苑			図面番号	A-009
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称：宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名：岡本　治子
					登録番号：一級建築士　356094号
					所在地：神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

■ 一般事項

工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事		
建設地	(地名地番)		
	(住居表示)新宿区内藤町11		
工事種別			
用途地域	第1種中高層住居専用地域	防火地域	準防火地域
その他			

■ 建物概要

建物用途	(主用途)事務所
	(従用途)
階数	平家
最高軒高	3.45 m
最高高さ	4.73 m

■ 構造概要

基礎形式	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造
軸部	鉄骨造 両方向ﾗｰﾒﾝ構造

■ 外部仕様

名称	仕様	色
屋根	仕上:ガルバリウム鋼板葺き t=0.5 (不燃NM-8697)	シルバー
	断熱材:フェノールフォーム t=20	-
雨樋	軒樋:鋼板t=1.6+塗装	ブラック
	縦樋:カラー塩ビ管	ブラック
外壁(複合ﾊﾟﾈﾙ)	外部仕上:カラー鋼板t=0.5 (不燃NM-8697)	ブラック
	断熱材:フェノールフォームt=40	
	内部仕上:カラー鋼板t=0.5 (不燃NM-8697)	オフホワイト
板金金物	パラペット:鋼板t=1.2+塗装 土台カバー:鋼板t=1.2+塗装	ブラック
塗装	鉄部見え掛かり:錆止め 一液型エポキシ樹脂下塗り塗装	
外部建具	アルミサッシ	シルバー
デッキ	床 : 再生木材 t=25	

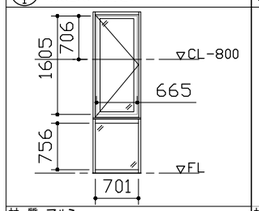
■ 内部仕様

階数	室名	床			巾木		外周壁			間仕切壁			廻り縁		天井		
		下地	仕上/寸法/色	品名/品番/メーカー	仕上/寸法/色	品名/品番/メーカー	下地	仕上/寸法/色	品名/品番/メーカー	下地	仕上/寸法/色	品名/品番/メーカー	仕上/寸法/色	品名/品番/メーカー	下地	仕上/寸法/色	品名/品番/メーカー
1階	ワークスペース	硬質木片セメント板t=18 スチレンフォームt=40 捨貼り合板t=5.5	長尺塩ビシート t=2.0	- - -	ソフト巾木 H=60	- - -	- - -	カラー鋼板 t=0.27 オフホワイト	- - -	LGS65 石膏ボードt12.5	ビニールクロス -	- - -	塩ビジョイナー - ホワイト	塩ビ'F見切り - -	LGS25 (妻連部LGS19)	化粧石膏ボード t=9.5 ホワイト	ジプトーン 吉野石膏
	SK	硬質木片セメント板t=18 スチレンフォームt=40 捨貼り合板t=5.5	長尺塩ビシート t=2.0	- - -	ソフト巾木 H=60	- - -	- - -	カラー鋼板 t=0.27 オフホワイト	- - -	LGS65 石膏ボードt12.5	ビニールクロス -	- - -	塩ビジョイナー - ホワイト	塩ビ'F見切り - -	LGS25 (妻連部LGS19)	化粧石膏ボード t=9.5 ホワイト	ジプトーン 吉野石膏
	収納	硬質木片セメント板t=18 スチレンフォームt=40 捨貼り合板t=5.5	長尺塩ビシート t=2.0	- - -	ソフト巾木 H=60	- - -	- - -	カラー鋼板 t=0.27 オフホワイト	- - -	LGS65 石膏ボードt12.5	ビニールクロス -	- - -	塩ビジョイナー - ホワイト	塩ビ'F見切り - -	LGS25 (妻連部LGS19)	化粧石膏ボード t=9.5 ホワイト	ジプトーン 吉野石膏
	トイレ１	硬質木片セメント板t=18 スチレンフォームt=40 捨貼り合板t=5.5	長尺塩ビシート t=2.0	- - -	ソフト巾木 H=60	- - -	- - -	カラー鋼板 t=0.27 オフホワイト	- - -	LGS65 石膏ボードt12.5	ビニールクロス -	- - -	塩ビジョイナー - ホワイト	塩ビ'F見切り - -	LGS25 (妻連部LGS19)	化粧石膏ボード t=9.5 ホワイト	ジプトーン 吉野石膏
	トイレ２	硬質木片セメント板t=18 スチレンフォームt=40 捨貼り合板t=5.5	長尺塩ビシート t=2.0	- - -	ソフト巾木 H=60	- - -	- - -	カラー鋼板 t=0.27 オフホワイト	- - -	LGS65 石膏ボードt12.5	ビニールクロス -	- - -	塩ビジョイナー - ホワイト	塩ビ'F見切り - -	LGS25 (妻連部LGS19)	化粧石膏ボード t=9.5 ホワイト	ジプトーン 吉野石膏
	会議室	硬質木片セメント板t=18 スチレンフォームt=40 捨貼り合板t=5.5	長尺塩ビシート t=2.0	- - -	ソフト巾木 H=60	- - -	- - -	カラー鋼板 t=0.27 オフホワイト	- - -	LGS65 石膏ボードt12.5	ビニールクロス -	- - -	塩ビジョイナー - ホワイト	塩ビ'F見切り - -	LGS25 (妻連部LGS19)	化粧石膏ボード t=9.5 ホワイト	ジプトーン 吉野石膏
	展示室	硬質木片セメント板t=18 スチレンフォームt=40 捨貼り合板t=5.5	長尺塩ビシート t=2.0		- - -	- - -	- - -	カラー鋼板 t=0.27 オフホワイト	- - -	LGS65 石膏ボードt12.5 -	ビニールクロス - -	- - -	塩ビジョイナー - ホワイト	塩ビ'F見切り - -	LGS19	化粧石膏ボード t=9.5 ホワイト	ジプトーン 吉野石膏

備考	**<シックハウス対策>** ・壁、床、天井、建具仕上げに用いる建築材料はすべてF☆☆☆☆、または規制対象外の材料を使用する。 ・天井裏などへの措置については、天井裏、床裏、壁、収納に用いる建築材料はすべてF☆☆☆☆、または規制対象外の材料を使用する。
認定番号	カラー鋼板t=0.5:不燃NM-8697 硬質木片セメント板t=18:準不燃H12建設省告示1401号 石膏ボードt=12.5:不燃NM-8619 石膏ボードt=9.5:準不燃QM-9828 化粧石膏ボード(天井)t=9.5:不燃NM1864 化粧石膏ボード(壁):準不燃QM-9824 防水石膏ボードt=12.5:不燃NM-9639 普通硬質石膏ボード:不燃NM-9645 ケイ酸カルシウム板:不燃NM-8578 ロックウール化粧吸音板t=9:不燃NM-8599 ビニルクロス:準不燃QM-9410

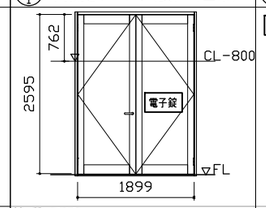
外部建具表(外観)

AW1 段窓(外開き/FIX)H



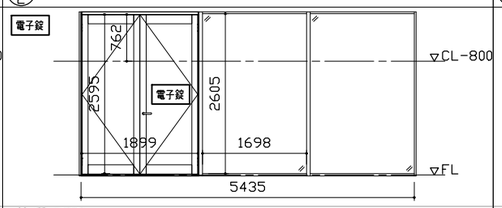
材 質:アルミ
ガラス:FL5 / F6
金 物:カムラッチハンドル
-
備 考:重ね無目網戸

AF1 両開きフロント(妻)H(左吊)



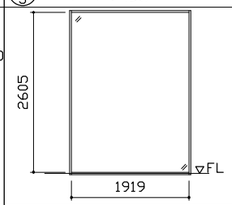
材 質:アルミ
ガラス:FL8
金 物:ステンレス丁番・ドアクローザー(親扉のみ)・フランス落し
レバーハンドル・電子錠
備 考:ROW=2005/ROH=2680

AF2 両開き+FIXフロント(57桁)H



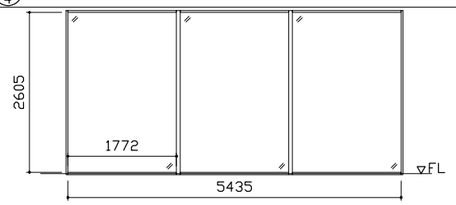
材 質:アルミ
ガラス:両開き FL8 / FIX FL8
金 物:ステンレス丁番・ドアクローザー(親扉のみ)・フランス落し
レバーハンドル・電子錠
備 考:ROW=5521/ROH=2680 ロールスクリーン

AF3 FIXフロント(妻)H



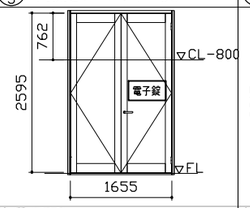
材 質:アルミ
ガラス:FL8
金 物:-
-
備 考:ROW=2005/ROH=2680,ロールスクリーン

AF4 FIXフロント(57桁)H



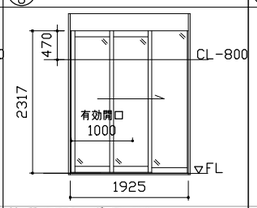
材 質:アルミ
ガラス:FL8
金 物:-
-
備 考:ROW=5521/ROH=2680 ロールスクリーン

AF5 両開きフロント(P2枚)H



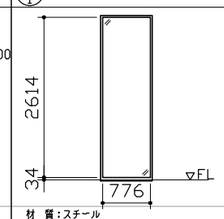
材 質:アルミ
ガラス:FL8
金 物:ステンレス丁番・ドアクローザー(親扉のみ)・フランス落し
レバーハンドル・電子錠
備 考:ROW=1761/ROH=2680

AF6 ダブルスライド自動ドアフロント(妻)H



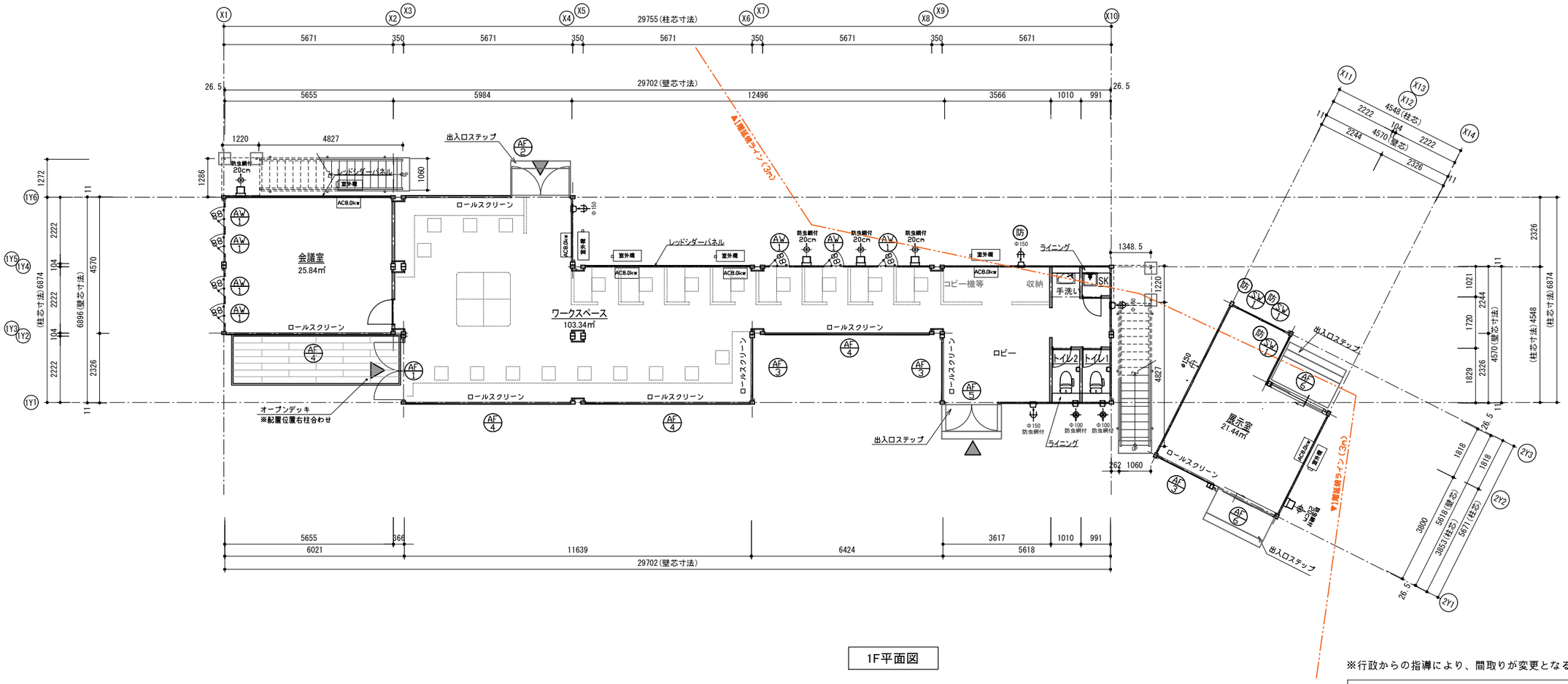
材 質:アルミ ガラス:FL6
金 物:起動センサー(外 /内)
屋外スロープ( )
自動ドア錠(外 シリンダー/内 サムターン)
備 考:ROW=2005/ROH=2633 見込160

SW1 ガラスパネル H



材 質:スチール
ガラス:PW6.8
金 物:-
-
備 考:-

工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	仕様表・建具表	
発注機関	環境省 新宿御苑管理事務所			縮 尺	S=1:100	
公園名称	新宿御苑			図面番号	A-010	
検 印	管理建築士	設 計	製 図	設計者	名 称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本 治子
					登録番号	一級建築士 356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

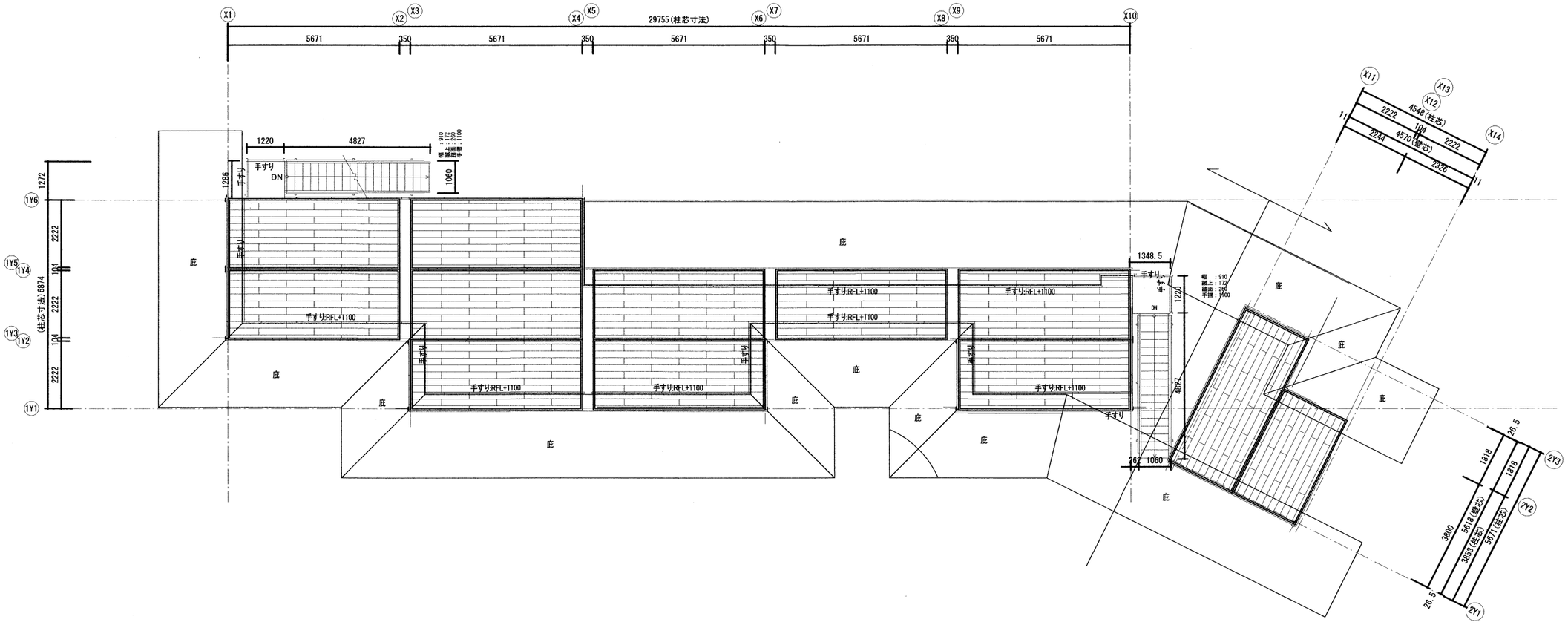


1F平面図

※行政からの指導により、間取りが変更となる場合があります。

凡　　例	
記号	名称
20cm	20cm換気扇　ステンレス製フード
φ100	φ100換気扇　ステンレス製パイプフード
φ150	φ150給気口　ステンレス製パイプフード

工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	1階平面図	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:150	
公園名称	新宿御苑			図面番号	A- 011	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

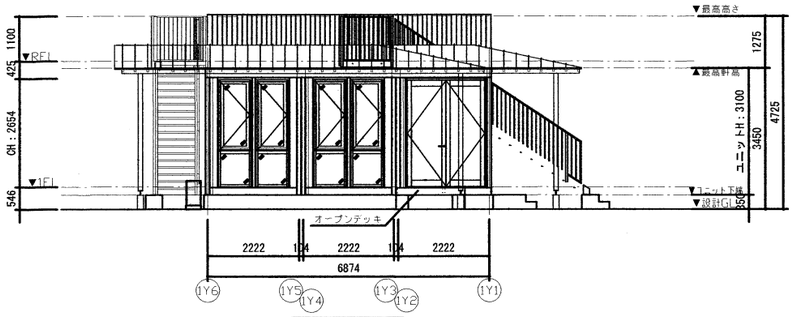


R階平面図

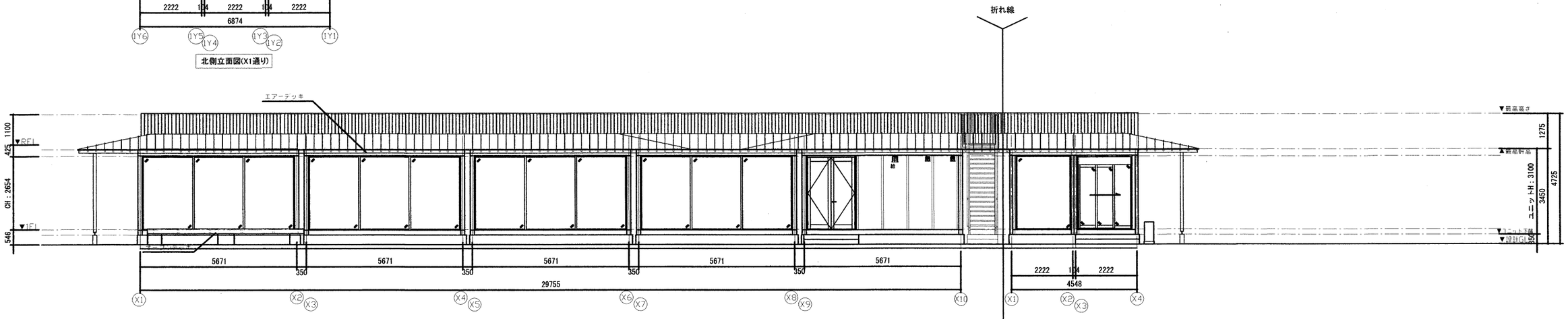
※行政からの指導により、間取りが変更となる場合があります。

凡　　例	
記号	名称
20cm	20cm換気扇　ステンレス製フード
φ100	φ100換気扇　ステンレス製パイプフード
φ150	φ150給気口　ステンレス製パイプフード

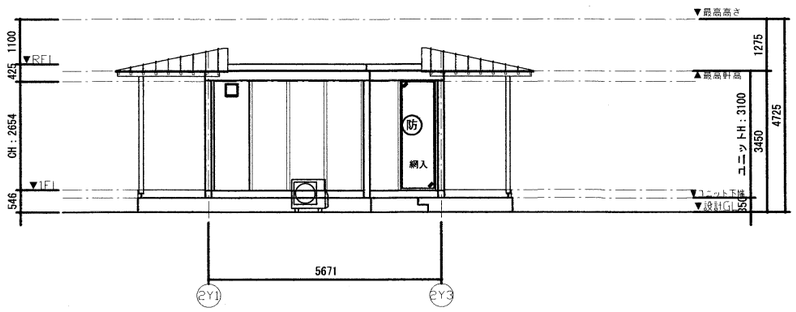
工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	R階平面図	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:150	
公園名称	新宿御苑			図面番号	A-012	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420



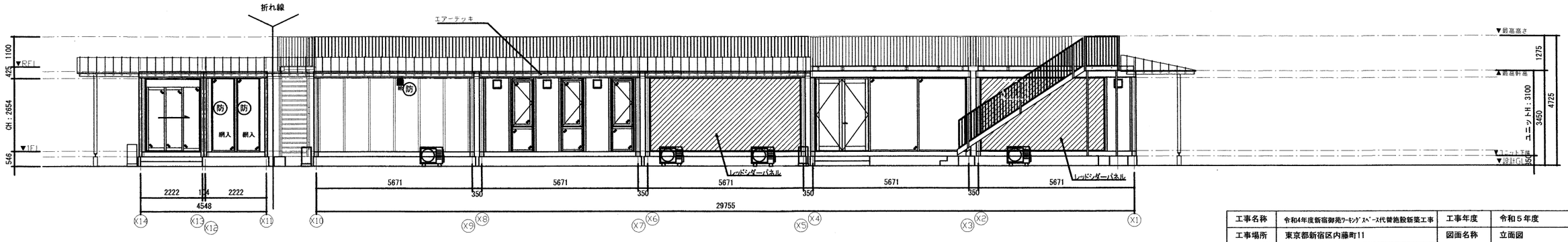
北側立面図(X1通り)



西側立面図(1Y1,2Y1通り)

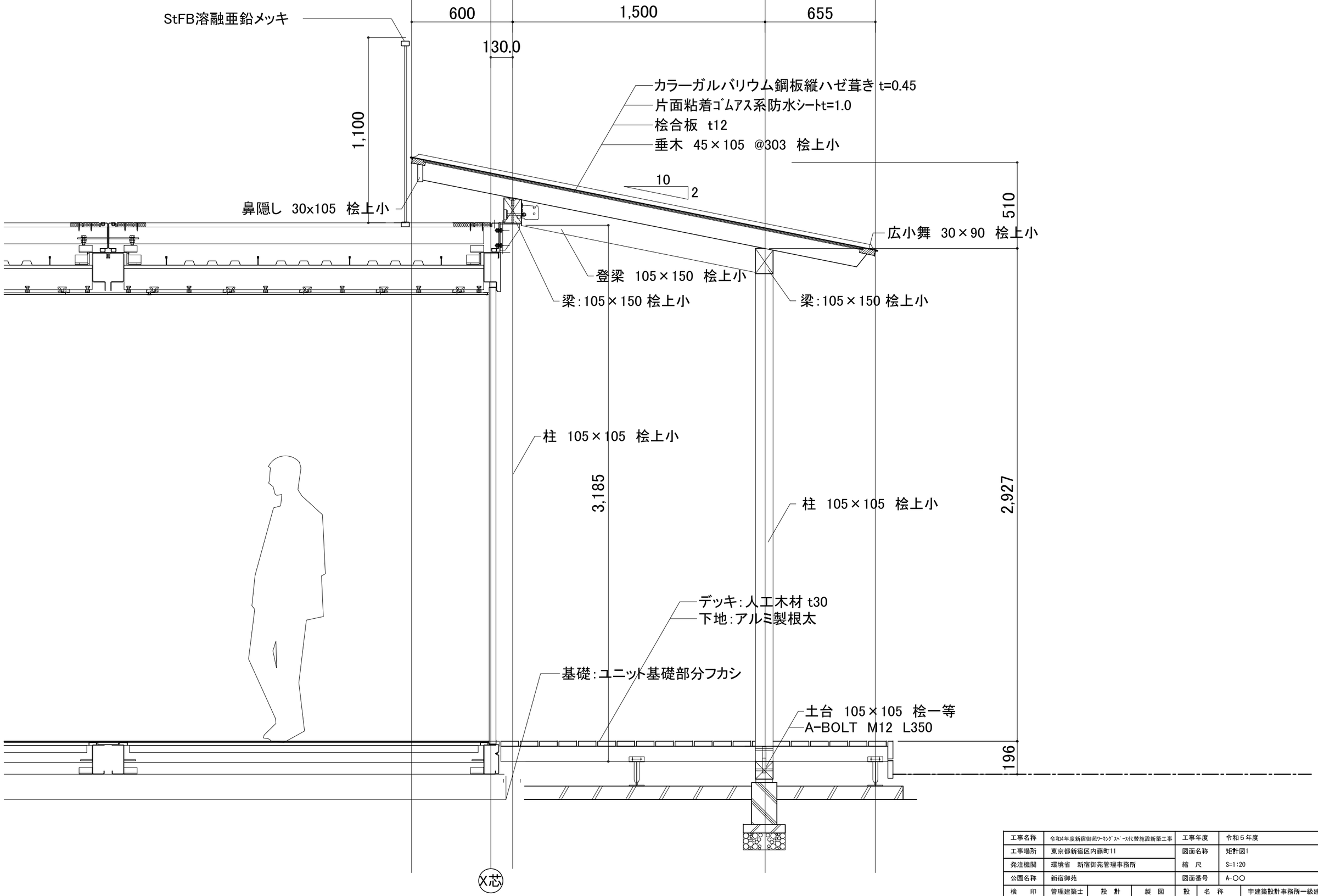


南側立面図(X14通り)

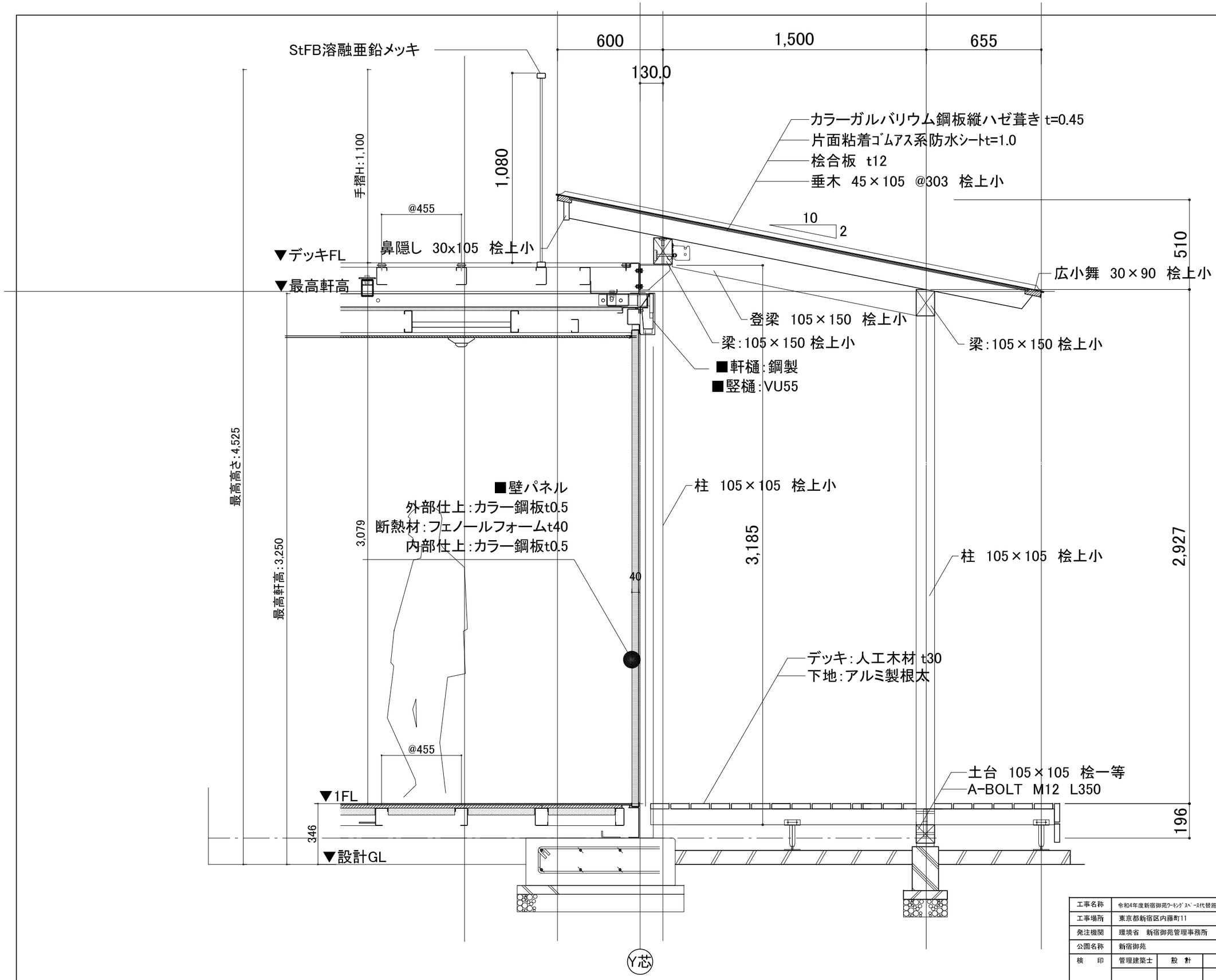


東側立面図(1Y6,2Y3)

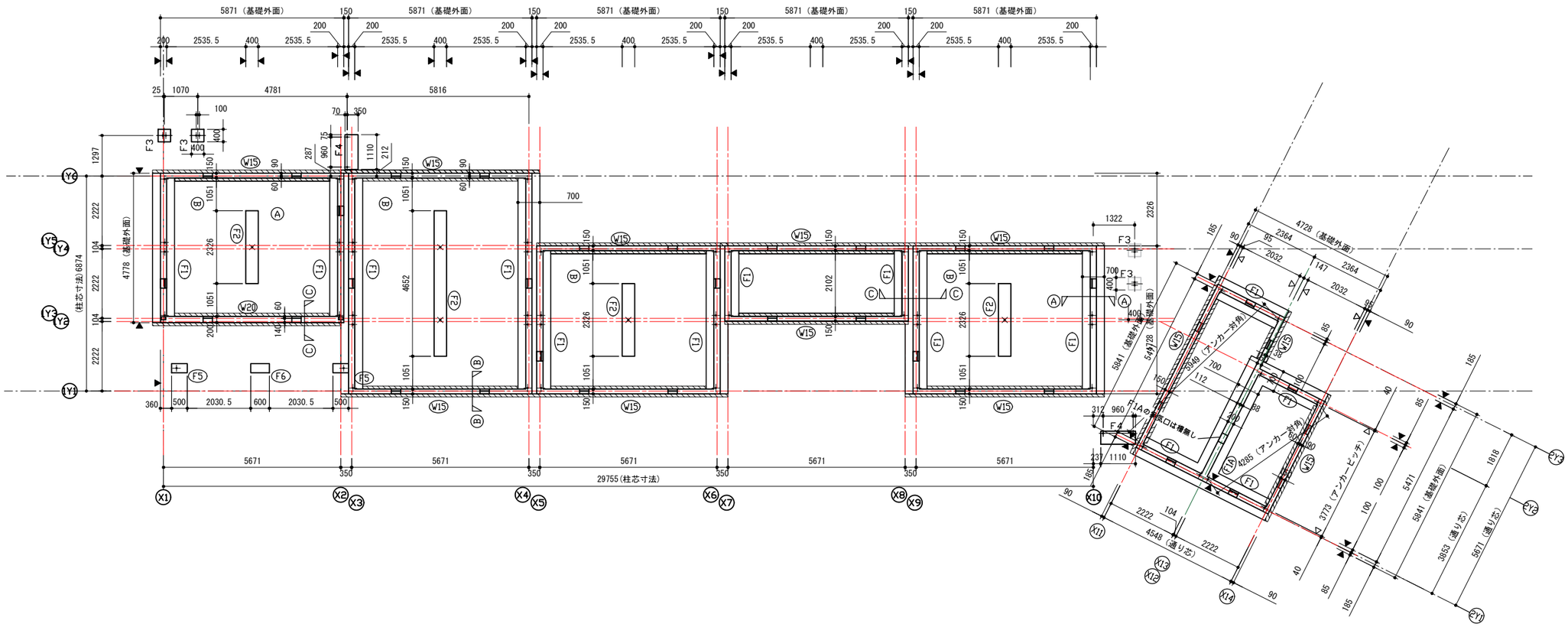
工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度		令和５年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称		立面図
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺		S=1:150
公園名称	新宿御苑			図面番号		A- 013
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420



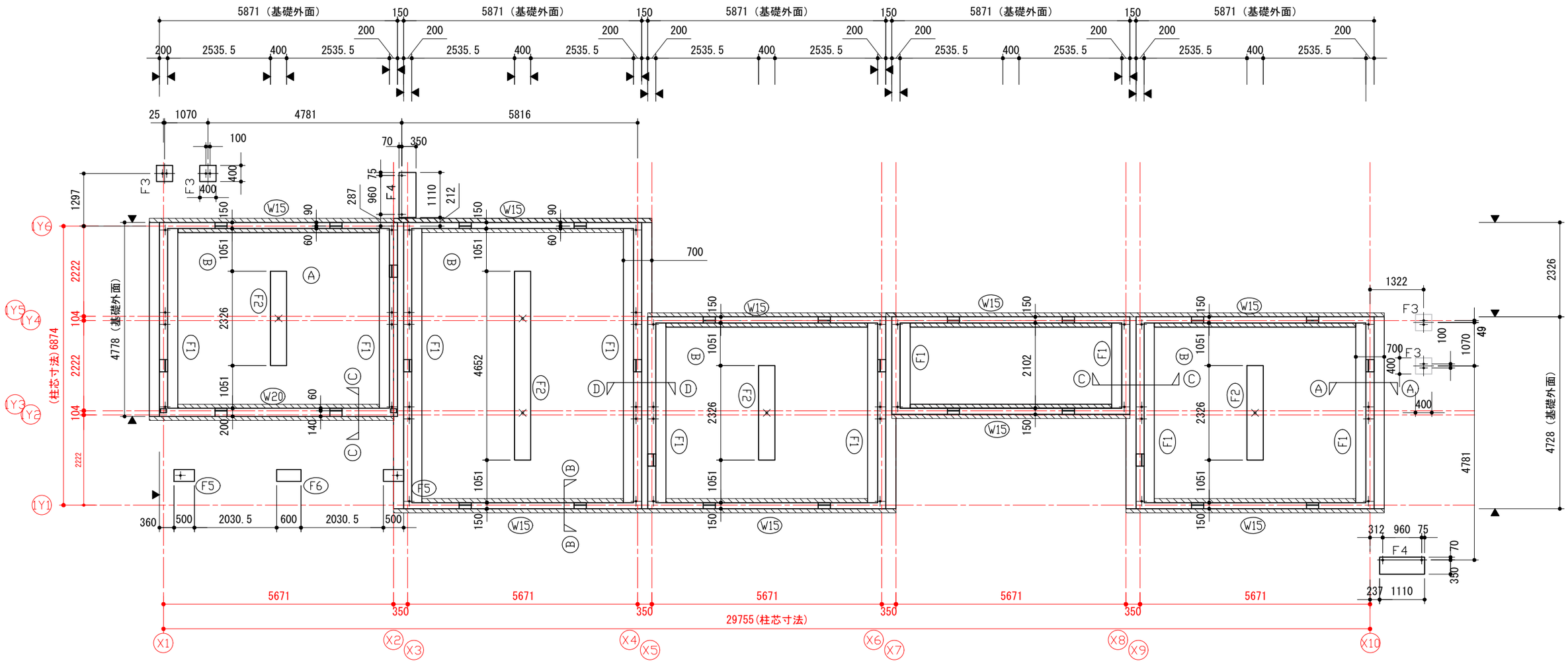
工事名称	令和4年度新宿御苑ｳｰﾓﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	矩計図1	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:20	
公園名称	新宿御苑			図面番号	A-○○	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420



工事名称	令和4年度新宿御苑ｳｰﾓﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	矩計図2	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:20	
公園名称	新宿御苑			図面番号	A-○○	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420



工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	全体基礎伏図	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:150	
公園名称	新宿御苑			図面番号	S-00	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420



長期許容支持力 qa = 30 kN/m²

使用材料

1）コンクリート

設計基準強度　Fc = 18 (N/mm²)

品質基準強度　Fq = 18 (N/mm²)

調合管理強度　Fm = 18+mSn (N/mm²)

※調合管理強度は品質基準強度に構造体強度補正値(mSn)を加えた値とする。

・普通セメントの構造体強度補正値（mSn）

平均気温	8≦θ	0≦θ<8
mSn	+3	+6

※暑中期間におけるmSnは+6とする。

2）鉄筋　SD295A

レベル精度	2mm以内
アンカーピッチ精度	±2mm
対角精度	±3mm

＊地盤に高低差がある場合現場監督者に確認のこと。

基礎伏図

（見下げ図）

特記なき限り下記による。

1.基礎天端は設計GL+350とする。

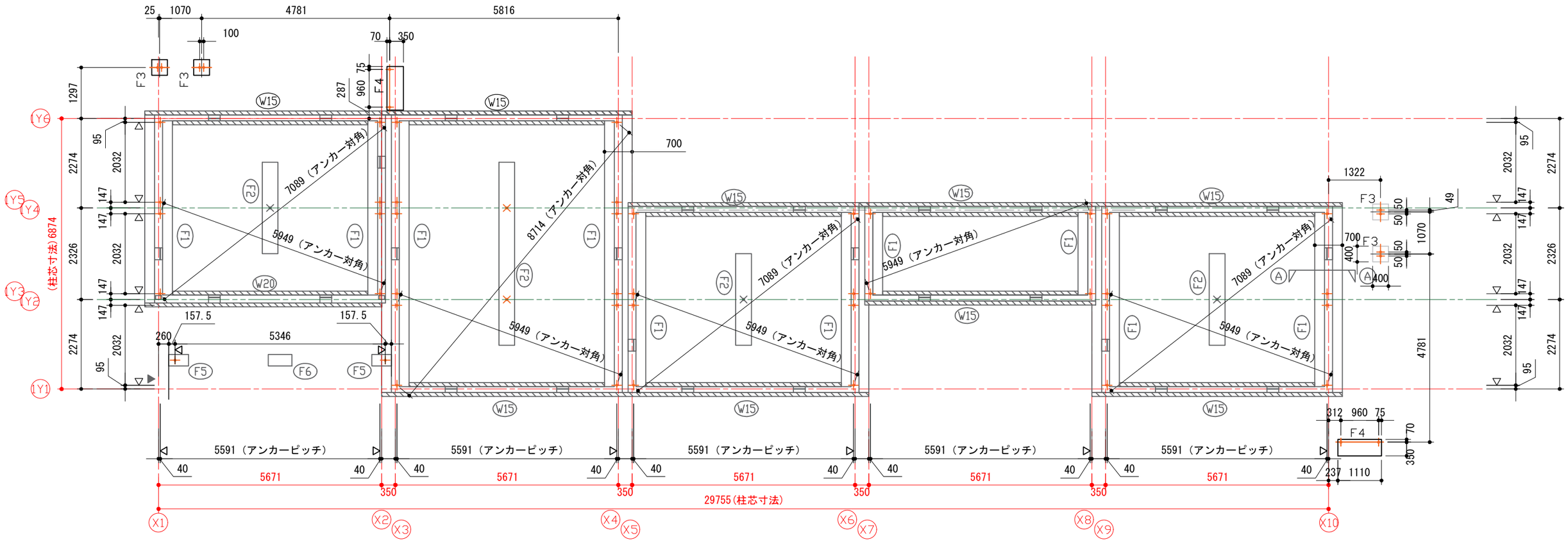
2.基礎下端は設計GL−250とする。

3.⊕はアンカーボルトを示す。

4.特記なき ▽ はアンカーボルト芯を示す。

5.特記なき ▼ は基礎立上り外面を示す。

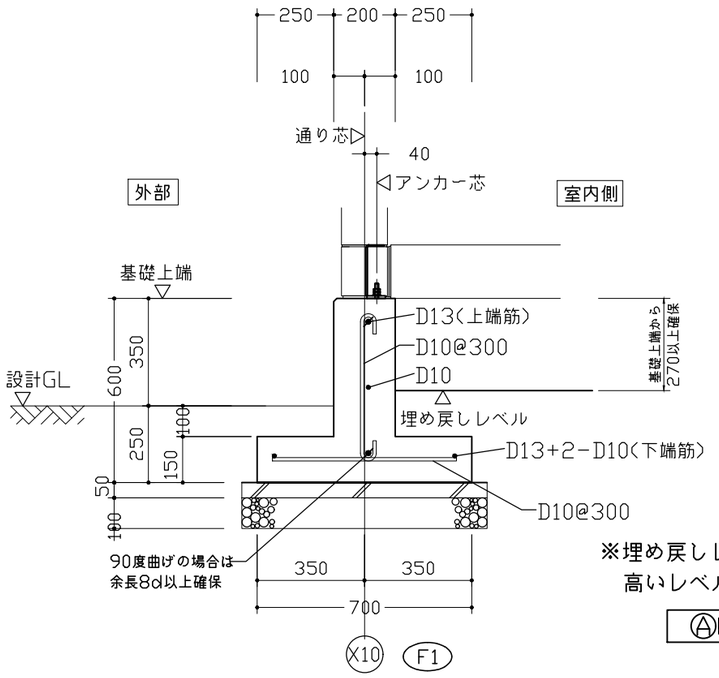
工事名称	令和4年度新宿御苑ﾌｧｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	基礎伏図
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:100
公園名称	新宿御苑			図面番号	S-01
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称：宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名：岡本　治子
					登録番号：一級建築士　356094号
					所在地：神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420



工事名称	令和4年度新宿御苑ｳｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	アンカー位置図	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:100	
公園名称	新宿御苑			図面番号	S-02	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

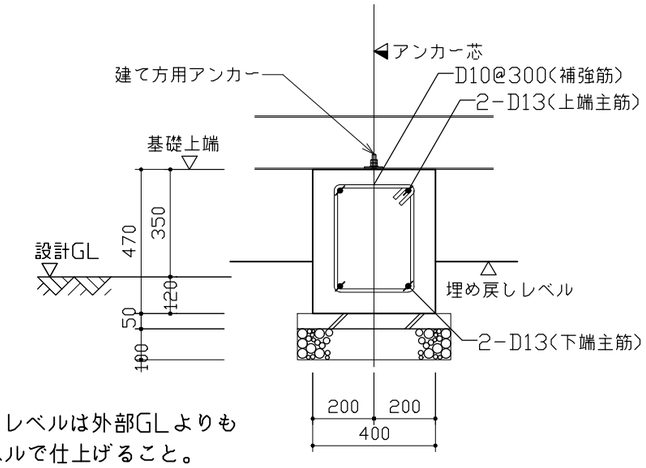
特記なき限り下記による。

1.●は、鉄筋 D10 を示す。
2.●は、鉄筋 D13 を示す。
3.●は、鉄筋 D16 を示す。

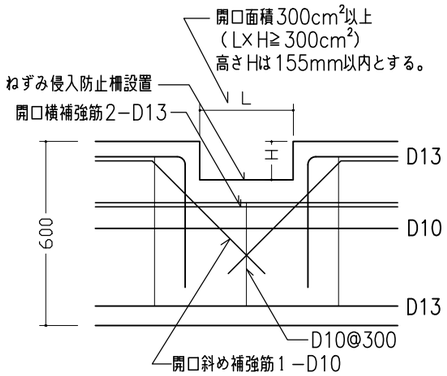


※埋め戻しレベルは外部GLよりも
高いレベルで仕上げること。

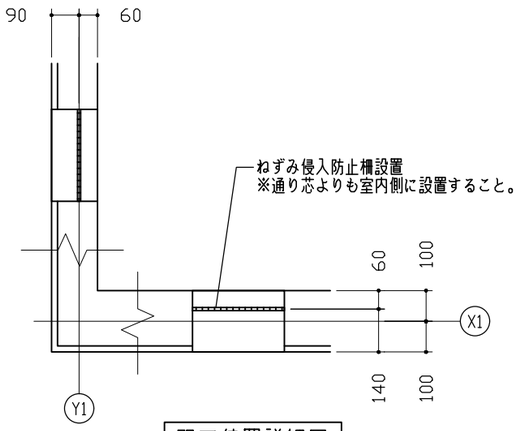
Ⓐ断面図



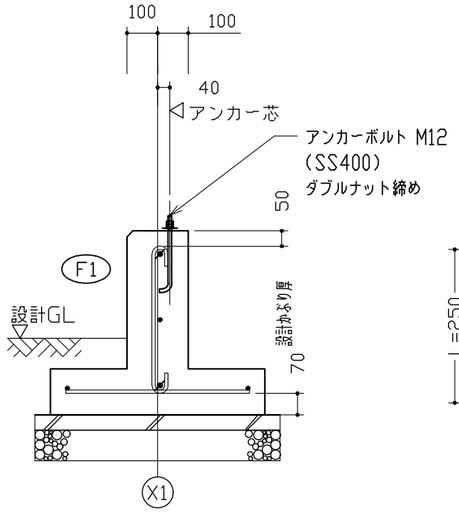
F2 ※建て方用アンカーは計算上必要ないが
建て方用に配置する。
※F1と同じアンカーボルトを使用する。



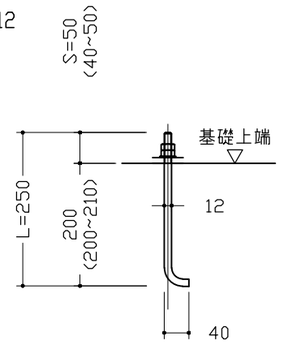
床下開口補強筋詳細



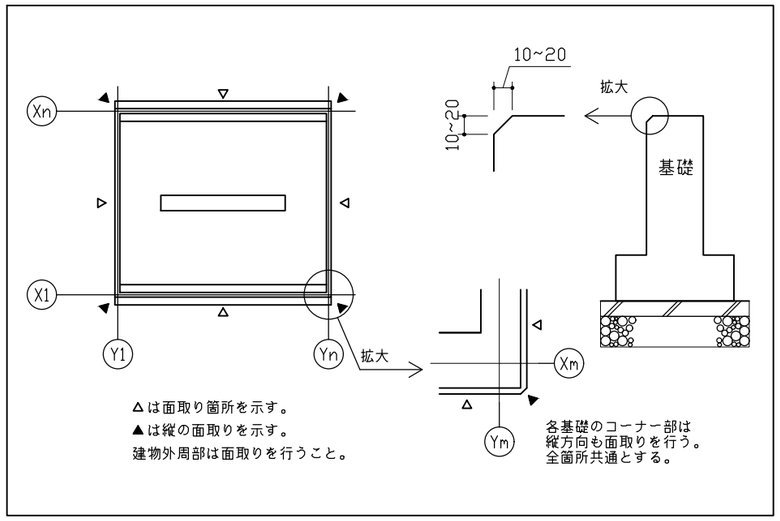
開口位置詳細図



アンカー位置図

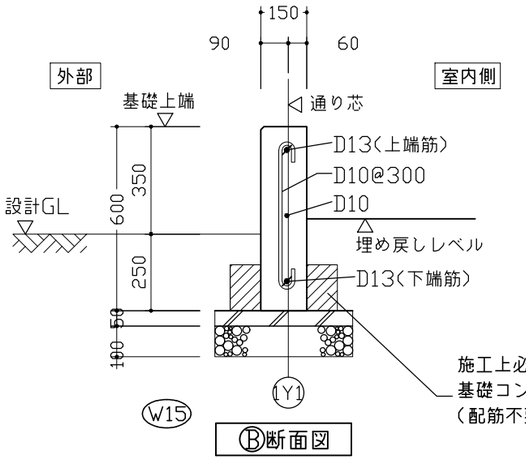


アンカーボルト詳細図
S=1:10

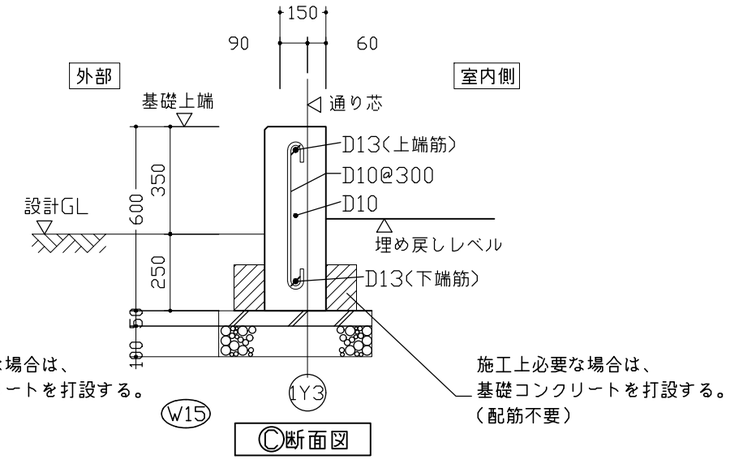


※本図は標準プランを想定した参考基礎図である。
最終的な基礎図は地盤調査及び構造計算により決定する。
基礎工事の際は申請図書の最終基礎図で施工を行うこと。

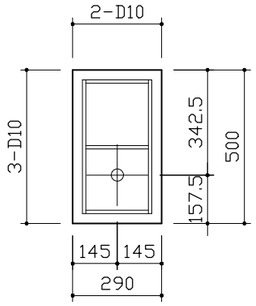
工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	基礎詳細図	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:20	
公園名称	新宿御苑			図面番号	S-03	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

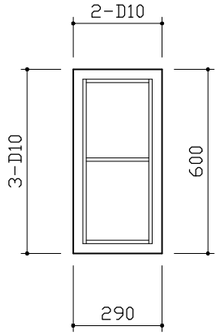


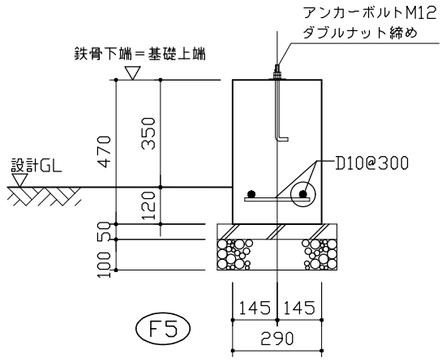
Ⓑ断面図

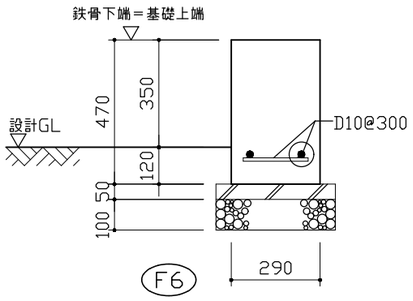


Ⓒ断面図

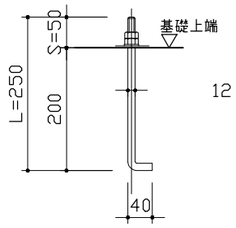




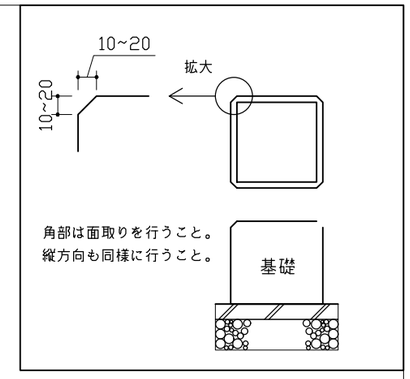




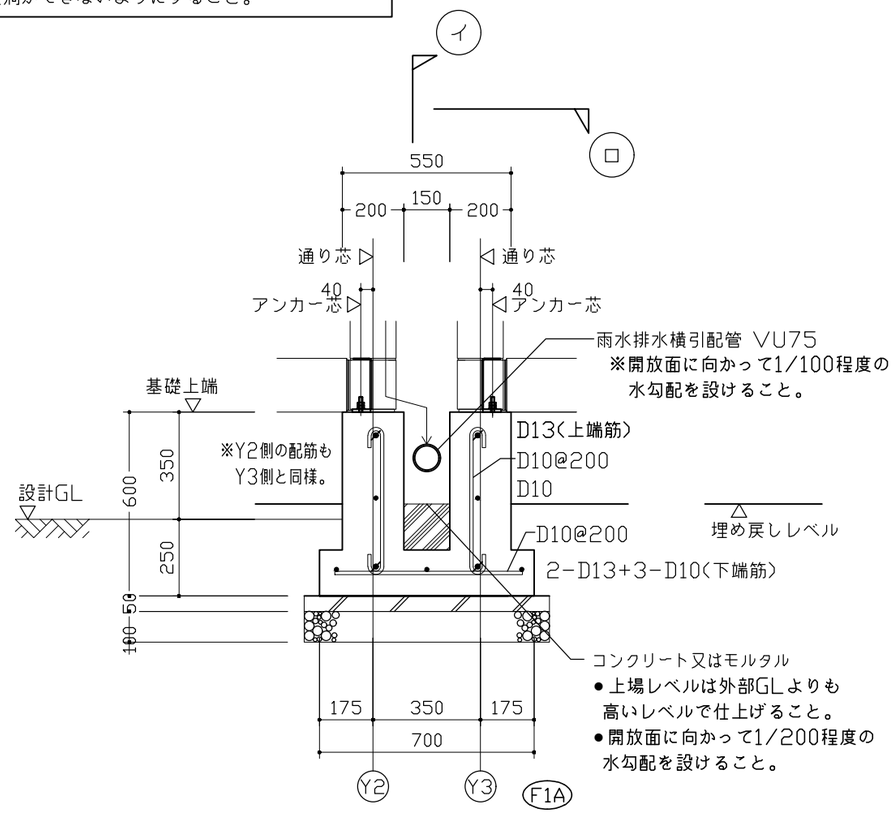
デッキ基礎リスト
(S=1:20)



アンカーボルト詳細図
S=1:10

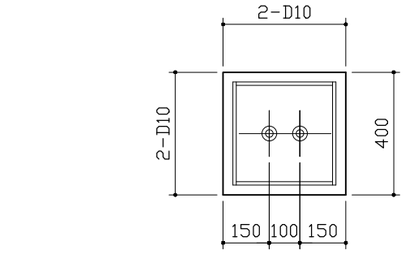


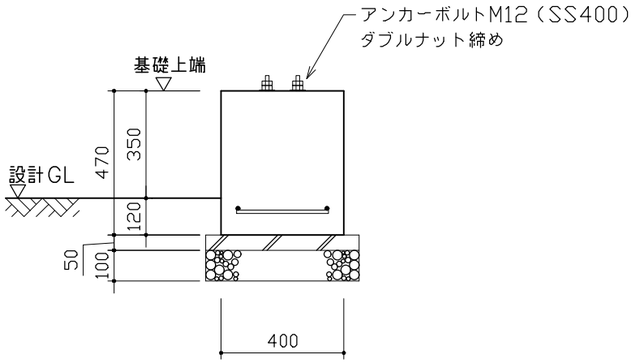
バイブレーターで配管周りのコンクリートに
空洞ができないようにすること。



Ⓓ断面図

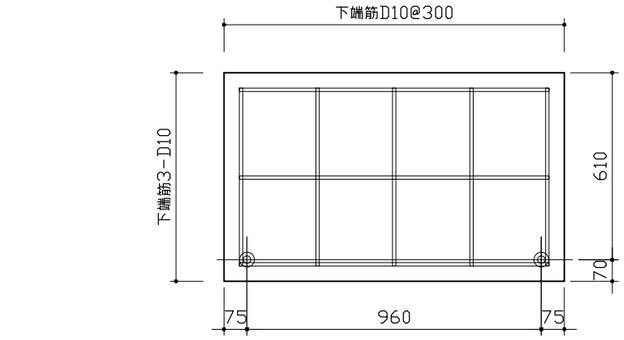
工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度		令和５年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称		デッキ基礎詳細図
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺		S=1:20
公園名称	新宿御苑			図面番号		S-04
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

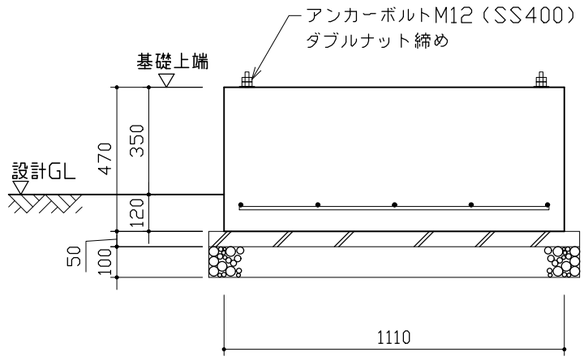




F3

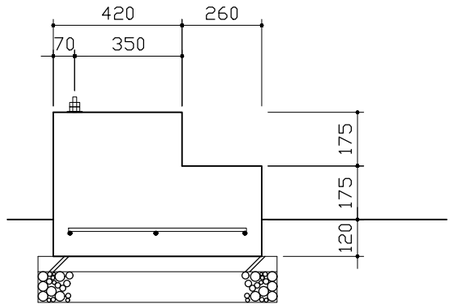
歩廊柱基礎

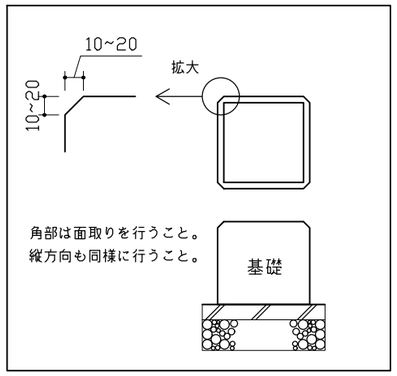




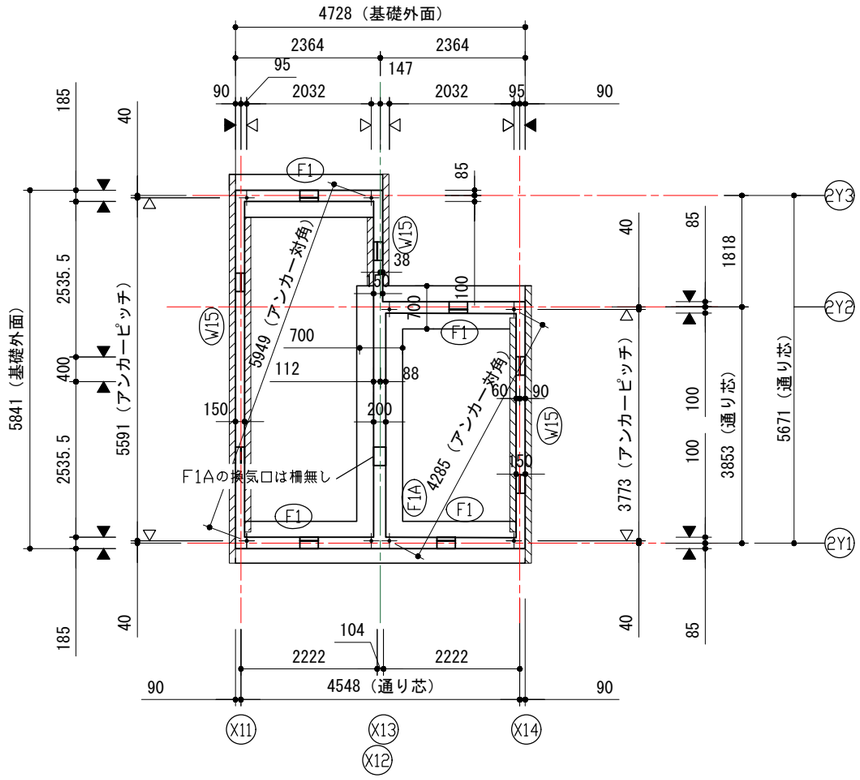
F4

ササラ受け基礎





工事名称	令和4年度新宿御苑ｳｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	階段基礎詳細図	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:20	
公園名称	新宿御苑			図面番号	S-05	
検　　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420



長期許容支持力 qa = 30 kN/m²

使用材料

1）コンクリート

設計基準強度　Fc = 18（N/mm²）

品質基準強度　Fq = 18（N/mm²）

調合管理強度　Fm = 18+mSn（N/mm²）

※調合管理強度は品質基準強度に構造体強度補正値(mSn)を加えた値とする。

・普通セメントの構造体強度補正値（mSn）

平均気温	8≦θ	0≦θ<8
mSn	+3	+6

※暑中期間におけるmSnは+6とする。

2）鉄筋　SD295A

レベル精度	2mm以内
アンカーピッチ精度	±2mm
対角精度	±3mm

＊地盤に高低差がある場合現場監督者に確認のこと。

基礎伏図

（見下げ図）

特記なき限り下記による。

1.基礎天端は設計GL+350とする。

2.基礎下端は設計GL−250とする。

3.⊕はアンカーボルトを示す。

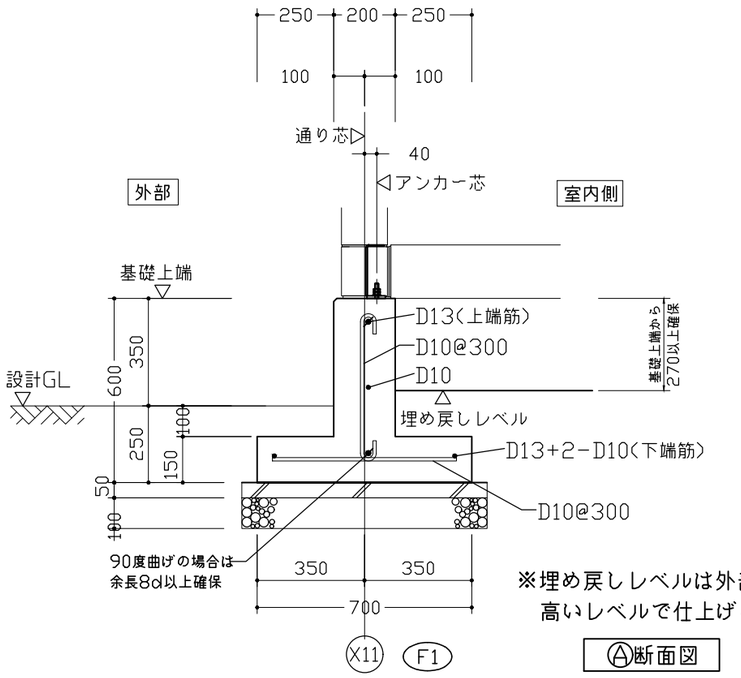
4.特記なき ▽ はアンカーボルト芯を示す。

5.特記なき ▼ は基礎立上り外面を示す。

工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	基礎伏図
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:100
公園名称	新宿御苑			図面番号	S-06
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
				資格者氏名	岡本　治子
				登録番号	一級建築士　356094号
				所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

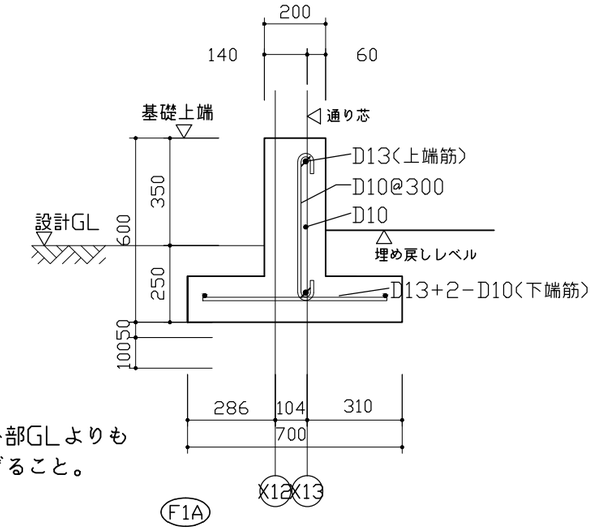
特記なき限り下記による。

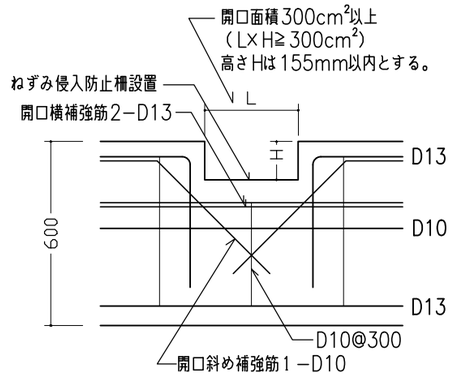
1.●は、鉄筋 D10 を示す。
2.●は、鉄筋 D13 を示す。
3.●は、鉄筋 D16 を示す。



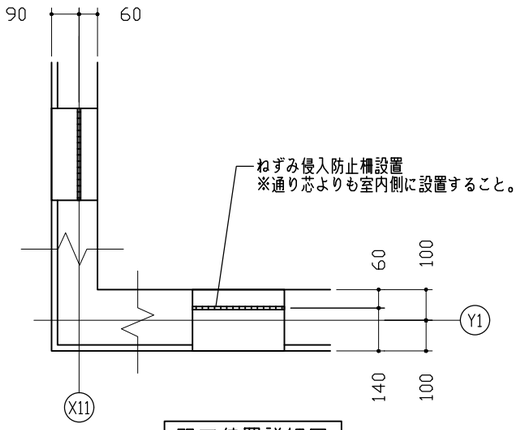
※埋め戻しレベルは外部GLよりも
高いレベルで仕上げること。

Ⓐ断面図

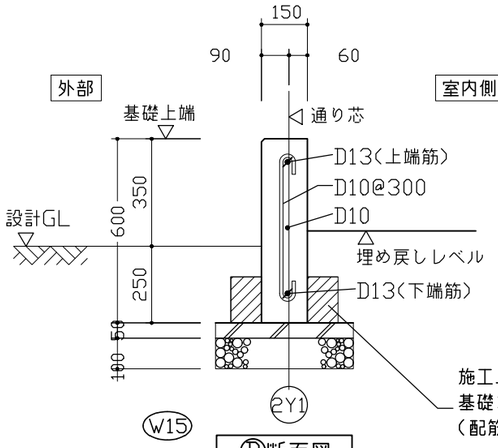




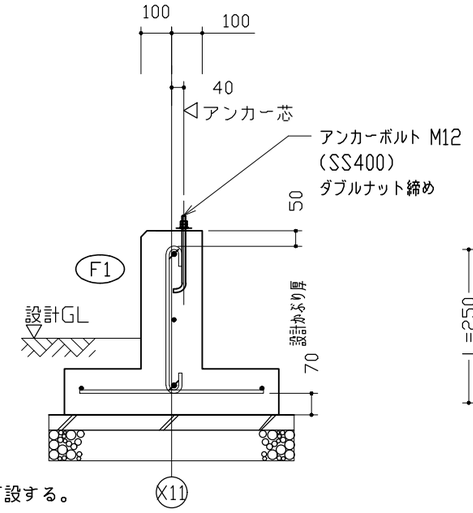
床下開口補強筋詳細



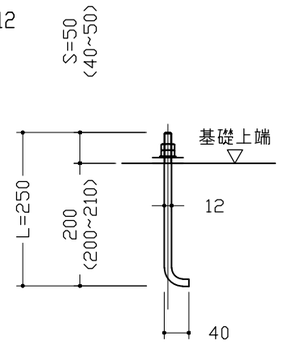
開口位置詳細図



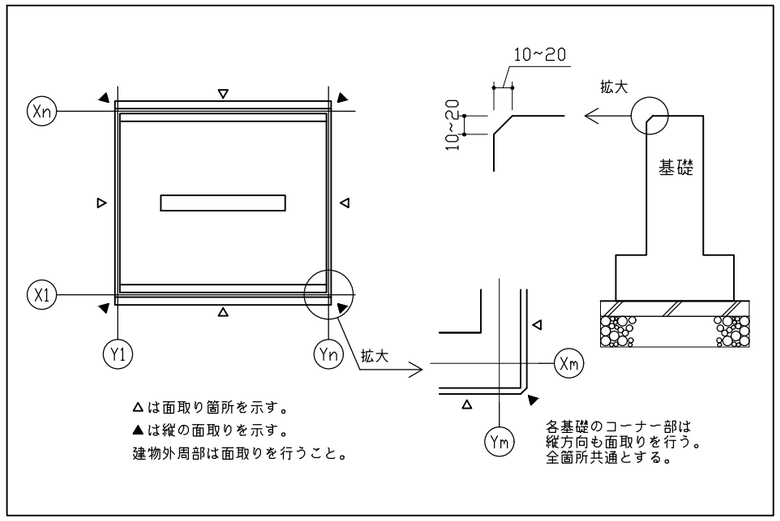
Ⓑ断面図



アンカー位置図



アンカーボルト詳細図
S=1:10



※本図は標準プランを想定した参考基礎図である。
最終的な基礎図は地盤調査及び構造計算により決定する。
基礎工事の際は申請図書の最終基礎図で施工を行うこと。

工事名称	令和4年度新宿御苑ｳｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	アンカー位置図	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:20	
公園名称	新宿御苑			図面番号	S-07	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

■　衛生設備機器表　※同等品とする

設置場所	名称	メーカー	仕様・品番	給水	排水	数量	色
トイレ1/トイレ2	大便器	LIXIL	BC-110PTU / BW1	壁抜き	壁抜き	2	ピュアホワイト
	タンク	LIXIL	DT-5800BL / BW1			2	ピュアホワイト
	洗浄暖房便座	LIXIL	CW-KB21 / BW1			2	ピュアホワイト
	紙巻器	LIXIL	CF-AA22H / BW1			2	ピュアホワイト
SK	(SK)掃除流し	LIXIL	S-202A/BW1	壁抜き	壁抜き	1	ホワイト
手洗い	化粧台	LIXIL	FRN-603	壁抜き	壁抜き	1	ホワイト
	化粧鏡	LIXIL	KF-4060	壁抜き	壁抜き	1	ホワイト

■　エアコン機器表　※同等品とする

設置場所	名称	メーカー	仕様・品番	数量
会議室	8.0kwエアコン	富士通ゼネラル	AS-Z80E2W	1
ワークスペース	8.0kwエアコン	富士通ゼネラル	AS-Z80E2W	4
展示室	8.0kwエアコン	富士通ゼネラル	AS-Z80E2W	1

■　機械設備機器表

設置場所	名称	メーカー	仕様・品番	数量
会議室	20cm換気扇	パナソニック	FY-20EEP5	1
ワークスペース	20cm換気扇	パナソニック	FY-20EEP5	3
トイレ1	Φ100換気扇	パナソニック	FY-T08PDS9SD	1
トイレ2	Φ100換気扇	パナソニック	FY-T08PDS9SD	1

工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	設備機器表	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:100	
公園名称	新宿御苑			図面番号	M-01	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

■　衛生設備機器表　※同等品とする

設置場所	名称	メーカー	仕様・品番	給水	排水	数量	色
トイレ1/トイレ2	大便器	LIXIL	BC-110PTU / BW1	壁抜き	壁抜き	2	ピュアホワイト
	タンク	LIXIL	DT-5800BL / BW1			2	ピュアホワイト
	洗浄暖房便座	LIXIL	CW-KB21 / BW1			2	ピュアホワイト
	紙巻器	LIXIL	CF-AA22H / BW1			2	ピュアホワイト
SK	(SK)掃除流し	LIXIL	S-202A/BW1	壁抜き	壁抜き	1	ホワイト
手洗い	化粧台	LIXIL	FRN-603	壁抜き	壁抜き	1	ホワイト
	化粧鏡	LIXIL	KF-4060	壁抜き	壁抜き	1	ホワイト

■　エアコン機器表　※同等品とする

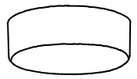
設置場所	名称	メーカー	仕様・品番	数量
会議室	8.0kwエアコン	富士通ゼネラル	AS-Z80E2W	1
ワークスペース	8.0kwエアコン	富士通ゼネラル	AS-Z80E2W	4
展示室	8.0kwエアコン	富士通ゼネラル	AS-Z80E2W	1

■　機械設備機器表

設置場所	名称	メーカー	仕様・品番	数量
会議室	20cm換気扇	パナソニック	FY-20EEP5	1
ワークスペース	20cm換気扇	パナソニック	FY-20EEP5	3
トイレ1	Φ100換気扇	パナソニック	FY-T08PDS9SD	1
トイレ2	Φ100換気扇	パナソニック	FY-T08PDS9SD	1

工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	設備機器表	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:100	
公園名称	新宿御苑			図面番号	M-01	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

■　照明設備機器　※同等品とする

LEDベースライト(4000lm)	LEDシーリングライト(580lm)
34本	4個
	
東芝ライテック:LEKT412403N-LS9	オーデリック:OL291138R
●LED（昼白色） ●寸法：幅120×1,250×高53 ●本体：鋼板　白 ●LEDバー：ポリカーボネート　乳白 ●定格電圧：AC100V～242V ●消費電力：24.8W（AC200V時） ●器具光束：4,000 lm　固有エネルギー消費効率：161.2 lm/W ●寿命：40,000時間（光束維持率90%） ●相関色温度：5000K　平均演色評価数（Ra）：83 ●非調光 ●質量：1.8kg ◆LEDベースライトTENQ00シリーズ　直付形　幅120	LED 7.3W 5000K(昼白色) 巾φ130 高40 高演色LED　調光器不可 非調光 ホワイト

工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	照明機器表	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=ＮＯＮ	
公園名称	新宿御苑			図面番号	E-01	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

木質工事標準仕様書（1）

1．一般事項

（1）適用範囲

本仕様書は建築物および工作物の構造上主要な部分に木材を用いる工事に適用する。

◉ は適用項目を示すものとする。

（2）設計図書

設計図書とは本仕様書，設計図，指示書（現場説明書および質疑回答書を含む）をいう。

（3）標準仕様書

設計図書に記載なきものは「住宅金融公庫監修・木造住宅工事共通仕様書」及び「国土交通大臣官房官庁営繕部監修・木造建築工事共通仕様書」に準ずる。

上記の仕様書に記載なき場合は、公共規格かこれに準ずる規格を適用する。

（4）設計図書の優先順位

設計図書の優先順位は下記による。

1．指示書（現場説明書及び質疑回答書）

2．設計図

3．本仕様書

4．標準仕様書

（5）疑義

疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。

（6）製作要領書及び施工計画書の作成・提出

工事に先立ち，製作要領書や施工計画書を作成し，監理者の承諾を受ける。

（7）施工図及びプレカット図の提出

工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承諾を受ける。また，必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には，プレカット図を施工図と位置づける。

（8）製作工場の選定、承諾

設計図書に基づき，当該工事の規模，加工内容に応じた技術と設備を備え，かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し，監理者の承諾を受ける。

（9）各種試験・検査報告書の提出

施工者は，各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。

2．材料の品質

2.1　木質材料

（1）針葉樹の構造用製材、広葉樹の製材、枠組壁工法構造用製材

本項の内容は特記無き限り，針葉樹の構造用製材及び広葉樹の製材及び枠組壁工法構造用製材等の日本農林規格に準ずること。

部　位	品　名	樹　種	区分、等級	含水率	その他
梁	構造用製材	ベイマツ	無等級	D20	
	構造用集成材	ベイマツ	E135−F375	D20	
柱	構造用製材	ホワイトウッド	無等級	D20	
小屋組（母屋材含）	構造用製材	ベイマツ	無等級	D20	
小屋束	構造用製材	ベイマツ	無等級	D20	
垂木	構造用製材	ベイツガ	無等級	D20	

◉ 記入無き梁桁，母屋，タル木等の曲げ材のうち，見えがかり材は目視等級材の甲種2級，見えない部分の木材は甲種3級とする。その他は乙種2級とする。

◉ 主要構造部には機械等級区分製材を用いることを原則とする。

☐ 乾燥の際背割りを行う。但し見えがかり部・相欠き部材・構造用合板の釘接合面には行わない。

☐ 含水率は平均含水率とし下地材等に用いる場合でも含水率D25以下であることを確認する。

◉ 強度等級を指定した材料は特に，材料の欠点の節，目切れ等に注意して材料を選定し，仕口や接合部に欠点が当たらないように加工する。

◉ 材の曲がりについては，上記にかかわらず目視等級1級相当とする。

（2）構造用集成材、構造用単板積層材(LVL)

本項の内容は特記無きかぎり構造用集成材及び構造用単板積層材の日本農林規格に準ずること。

部　位	品　名	樹　種	曲げヤング係数区分	材　面	接　着	ホルムアルデヒド
	等　級		水平せん断性能区分	品　質	性　能	放　散　量
梁	構造用集成材	べいまつ			環　境　Ⅰ	F☆☆☆☆
	E135−F375					

（3）構造用合板、構造用パネル

本項の内容は特記無きかぎり構造用合板及び構造用パネルの日本農林規格に準ずること。

部　位	品　名	強度等級	曲げ性能基準	板面	接　着	寸法(mm)	ホルムアルデヒド
			合板1級	品質	耐久性	厚（巾×長）	放　散　量
耐力壁	構造用合板	2級	―	C−D	特類	9.0mm	F☆☆☆☆
床版	構造用合板	2級	―	C−D	1類	12.24mm	F☆☆☆☆
屋根	構造用合板	2級	―	C−D	1類	24.0mm	F☆☆☆☆
構造図による。							

・構造用合板はできるだけ大きい寸法のものを用いる。

2.2　ファスナー

ここに示すファスナーや接合金物などは，木質構造の接合部に適用する。ファスナーや接合金物等に錆を生じるおそれのある場合は適切な防錆処理を施す。鋼材の表面処理は特記による。

標準メッキ処理は，溶融亜鉛メッキ：MFZn −C 、電気メッキ：EP−Fe/Zn　5/CM2 とする。

（1）くぎ、木ネジ、特殊ネジ

種　類	材　質	適　用　径	使用箇所　頭部／胴部の形状
◉ N釘	・鉄 ・ステンレス鋼	N19～N150	
◉ CN釘	・鉄	CN25～CN150	耐力壁、床板、屋根
☐ BN釘		BN25～BN125	
☐ ZN釘		ZN45～90	
☐ GN釘		GNF25～GNF125	石膏ボード用
☐ SN釘		3.05 mm	シージングインシュレイション ファイバーボード
☐ 木ネジ	・軟鋼線材		
☐ 特殊ネジ	・ステンレス鋼		
☐ コースレッド	・真鍮		

（2）ボルト、ナット

種　類	材　質	適　用　径	表面処理、部品等級など
◉ 呼び径六角ボルト	・SS400	M3～M36	・電気メッキ
☐ 有効径六角ボルト	・SS400	M3～M20	
☐ 全ネジ六角ボルト	・SS400	M3～M36	
☐ ステンレスボルト	・SUS304		
☐ アンカーボルト	・SS400	M12～M24	・溶融亜鉛メッキ

・材質は鋼，ステンレス鋼，非金属。径と長さの組み合わせは「JIS B 1180」参照。

（3）座金

適　用	材　質		適　用　径	形状・表面処理　その他
◉ 座金	・SPCC	(JIS G 3131)	M8～M24	・角座金・丸座金
☐	・SPHC	(JIS G 3141)		・電気メッキ

・座金は用途ごと（引張，せん断）に下表により使い分ける。

ボルト径に対する座金の大きさ		8	10	12	16	20	24
引張を受けるボルト	厚さ	4.5	4.5	6	9	9	13
	角座金の一辺	40	50	60	80	105	125
	丸座金の直径	45	60	70	90	120	140
せん断を受けるボルト	厚さ	3.2	3.2	3.2	4.5	6	6
	角座金の一辺	25	30	35	50	60	70
	丸座金の直径	30	35	40	60	70	80

（4）ドリフトピン、コーチスクリューボルト、ジベル、シアプレート、木栓

種　類	材　質	適用径・長さ	表面処理、その他
☐ ドリフトピン（寸胴）	・SS400, SWRW8～12	φ9～φ19	・電気メッキ
☐ ドリフトピン（全ネジ）	・SS400, SWRW8～12	φ16～φ24	・電気メッキ
☐ コーチスクリューボルト（ラグスクリュー）	・SWRCH10R (JIS G 3507)	φ9～φ19	・電気メッキ
☐ スプリットリング	・SS400	φ64、φ102	
☐ シアプレート	・		・電気メッキ
☐ 木栓	・堅木	M12～M24	

・木栓はナラ・ケヤキ・カシ等で気乾比重0.6以上の広葉樹とし，節や目切れ等の欠点の無いものとする。

（5）接合金物、鋼材

種　別	材　質	表面処理	適用、形状、その他
◉ Zマーク	・		
☐ Cマーク	・		
◉ 引寄せ金物	・		
☐ その他の金物	・		
☐ 鋼材	・SS400	・溶融亜鉛メッキ	・設計図中の特記による

（6）接着剤（接着接合）

ここでいう接着接合とは，建設現場で用いるものを対象とし，内容は特記による。

3．材料品質の検査方法

現場または加工工場に搬入された製材等は，加工に先立ち下記の要領で受け入れ検査を実施し，監理者に報告する。また監理者の立会いを要する検査については，指定された試験要領に基づいて，適時抜取り検査を実施する。社内検査で試験本数や抜取り率の指定がない場合は原則全数とする。検査の結果，性能を満たさない材料については適用箇所を変更する等の措置を行うこと。

（1）針葉樹の構造用製材，広葉樹の製材，枠組壁工法構造用製材

（数値は%を示す）

部　材	確認する仕　様	確認者	材種等級	外観検査	寸法検査	含水率測定 表示	含水率測定 全乾重量法	含水率測定 含水率計	ヤング係数測定 表示	ヤング係数測定 静的試験	ヤング係数測定 動的試験
(例)梁 G1	スギ D20, E70	社内	100	100	100		10本	100		10本	100
		監理者	○	○	○			○		○	○
柱	ヒノキ 1等	社内	100	100	100	検査後		10			
		監理者	○	○	○	木口記入		○			
トラス材	ヒノキ 1等	社内	100	100	100	検査後		10			
		監理者	○	○	○	木口記入		○			
梁・桁	スギ 1等	社内	100	100	100	検査後		10			
		監理者	○	○	○	木口記入		○			

・監理者欄の○は立会い検査が必要であることを示す。

材種・等級は表示を確認し，外観・寸法検査は日本農林規格に準じて行う。

・含水率やヤング係数は刻印された表示の確認を原則とし，全乾重量法や動的曲げ試験は公的試験場にて行う。含水率計は住木センター認定品を，曲げヤング係数は全国木材組合連合会の認定品を用いて測定することを原則とする。

・全乾重量法や静的曲げ試験は1荷口につき確認する試験本数を示す。試験体は実際に使用する同一部材の中から抽出し，木材の試験方法（JIS Z 2101 ）に準ずる。

・動的曲げ試験の判定基準は日本農林規格の針葉樹の構造用製材，合板，パネル の強度区分材に準ずる。

◉ 含水率測定は、乾燥作業直後に行う。

（2）構造用集成材、構造用単板積層材(LVL)

材　料	確　認　項　目	確認の方法
構造用集成材	部材，断面，長さ，数量 樹種，品名，強度，材面の品質，接着性能，ホルムアルデヒド放散量	◉ 製造工場の認定書等の写し
構造用LVL	部材，断面，長さ，数量 樹種，曲げヤング係数，水平せん断，接着性能，ホルムアルデヒド放散量	◉ 日本農林規格（JAS)表示の確認
構造用合板	寸法，数量 強度，曲げ性能，板面の品質，接着耐久性，ホルムアルデヒド放散量	◉ 立会い目視検査
構造用パネル	寸法，数量 強度，ホルムアルデヒド放散量	

（3）ファスナー

ファスナーの種類	確　認　項　目	確認の方法
◉ くぎ	・材質，胴・頭径部，長さ，仕上げ	◉ ミルシートの写し
◉ 木ネジ類	・材質，径，長さ，仕上げ	◉ 表示の確認
◉ ボルト・ナット	・材質，径，長さ，仕上げ	◉ 木栓曲げ試験
◉ 座金	・材質，径，仕上げ	
☐ ドリフトピン	・材質，径，長さ，仕上げ	
◉ コーチスクリューボルト	・材質，径，長さ，仕上げ	
☐ スプリットリング	・材質，径，形状，仕上げ	
◉ シアープレート	・材質，径，形状，仕上げ	
◉ 木栓など	・樹種，曲げ強度，比重	

・設計図書に明記されたファスナーであることを確認すること。同等性能のファスナーを用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得ること。また必要に応じて立会いによる性能確認を実施する。

（4）接合金物

接合金物	確　認　項　目	確認の方法
◉ Zマーク金物	・材質，形状，仕上げ	◉ ミルシートの写し
☐ Cマーク金物		◉ 表示の確認
☐ 引き寄せ金物		
☐ その他の金物	・材質，形状，仕上げ，製造所	
☐ 鋼材	・材質，形状，仕上げ，溶接	

・設計図書等に明記された接合金物であることを確認する。同等認定品や性能認定品を用いる場合には、その内容を監理者に申し出、承諾を得る。

4．耐久性（防腐・防蟻・耐候処理）

（1）木材の防腐・防蟻処理

・高耐久材の使用（注：製材の心材あるいは心持ち材又は集成材）

・工場処理材（注：現場の加工，切断，穿孔箇所等は，現場処理に準じる）

JAS保存処理材　：　K5　K4　K3　K2

AQ認証保存処理材：　　1種　2種　3種

・現場処理（注：給排水用塩化ビニル管に接する部分は，管を保護する）

・塗布　・吹付　・浸漬（処理量 300ml/m²，−処理回数 2 回）

日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の認定品とする

使用部位	高耐久材	工場処理剤	現場処理剤
土台	☐ ひば	☐ K3 ☐（　）	☐ 塗布
外周柱下部1m	☐ ひのき	☐ K3 ☐（　）	☐（　）
水周り	☐（　）	☐ K3 ☐（　）	☐（　）
その他	☐（　）	☐ K4 ☐（　）	☐（　）

（2）土壌処理

☐ 防蟻薬剤による処理：薬剤（　　）

特記無き場合は，日本しろあり対策協会または日本木材保存協会認定品、あるいはこれと同等以上の効力を有するものとする。

☐ 防蟻薬剤による処理と同等以上の対策　（ べた基礎 ）

☐ 土壌処理省略　☐ 北海道 ☐ 東北　☐ 北陸

注：処理範囲は，外周部布基礎の内側、内部布基礎の周辺20cm，束石等の周囲20cmを標準とし，処理方法は日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。

（3）耐候処理（塗装）

☐ 造膜型，　☐ 含浸型，　・部位（　　）

5．木材の加工

（1）刻み時の注意

製材に背割りのある場合，曲げ材は断面の弱軸と背割りの方向を一致させる。

（2）加工寸法の精度（下記の値を標準とする）

・構造用製材、枠組み壁工法用構造製材の断面寸法

◉ 図面表示が挽き立て寸法の場合　：　±1.5mm以下

◉ 図面表示が仕上がり寸法の場合　：　＋1.5mm，−0mm以下

・構造用製材，枠組み壁工法用構造製材の材長

◉ 軸組工法の継手仕口の場合　　：　±1.5mm以下

◉ ボルト接合工法の場合　　：　±5mm以下

・集成材，構造用単板積層材

短辺：　◉ ±1.5mm

長辺：　◉ ±1.5%かつ±5mm以下

材長：　◉ ±5mm以下　　◉（　　）

・ボルト穴径：d+1.5mm（d≦M12），d+2.0mm（d≧M16）　　（dはボルト径）

・ドリフトピンの穴径：d±0mm　（dはボルト径）

（3）表面仕上げ

☐ 製材　化粧材：　　野物材：　　板材：

（4）面取り

☐ 柱：（　）mm

☐ 梁：（　）mm

6．接合

（1）仕口、継手の原則

・仕口，継手の方法は構造図による。特記無き場合は　1．(3)標準仕様書に示された在来工法用の一般的な適用慣例に従う。一般的な適用慣例については，9．軸組構法接合部標準仕様による。

・採用する方法は監理者の承諾を得る。

・仕口、継手の各部に作用する応力を考慮し，部材の引き抜けが生じないように，原則として羽子板ボルトや木栓など，引張り抵抗をする補強部材を併用する。

（2）釘接合

・釘は材の繊維に対して乱に打ち，割れを生じないように端距離，縁距離，釘間隔を大きく取る。

・釘の長さは材厚の2．5倍以上とする。

・1ヶ所の釘の本数は2本以上とする。

・釘に錆を生じるおそれのある場合は，適切な防錆処理を施す。

・自動釘打ち機を使用する場合は，面材に釘がめり込まないようにする。そのために，釘打ち機の圧力を弱めるか，最後は手打ちを用いるなどの方法による。

・構造用面材を耐力壁とする場合の釘打ち方法は「昭和56 年建設省告示1110 号」による。

・構造耐力上主要な部分において，釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。

・小口面に打たれた釘は，引き抜き方向に抵抗させることはできない。

（3）木ネジ接合

・構造耐力上主要な部分において，木ネジを引き抜き方向に抵抗させることは避ける。

・小口面にねじ込まれた木ネジは，引抜き方向に抵抗させることはできない。

・木ネジの先孔の径：針葉樹・・・主材 0.6d，側材 0.8d　　（dはボルト径）

：広葉樹・・・主材 0.8d，側材 1.0d

（先孔の深さは，主材へのねじ込み深さの2／3程度とする。）

・ねじ込みには適切な道具を使い，ハンマーなどで打ち込んではならない。

・ねじ込みを容易にしたり，損傷させないために潤滑油を用いてもよい。

（4）ボルト接合

・締め付けに先立ち，ボルトの長さ，材質，呼び径，座金等が施工箇所に適しているものであることを確認する。

・ボルト接合部付近に節・目切れなどの欠点がある場合は，ボルト本数を適切に増加する。

・ボルトの締め付けは、座金が部材にめり込む程度とし，めり込み音が発生した時点で締め付けを完了する。

・締め付けを完了したボルトは，ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。

・一度締め付けたボルトについても，木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし，緩んだものについては再度締め直しを行う。

（5）コーチスクリュー接合

・構造耐力上主要な部分において，コーチスクリューを引き抜き方向に抵抗させることは避ける。

・コーチスクリューの配置間隔，縁距離および端距離，使用する座金は同じ胴部径のボルトに準ずる。

・胴部の先孔の径は胴部と同径とし，長さも胴部と同寸とする。

・ネジ部の先孔の径：比重 0.4 以上の樹種　・・・ネジ径の 60 ～ 70 %

その他の樹種　　・・・ネジ径の 40 ～ 70 %

（長さはネジ部の長さと同寸とする。）

・コーチスクリューは先孔にレンチなどで回しながら挿入し，ハンマーなどで打ち込んではならない。

・ねじ込みを容易にするためや，損傷させないために潤滑油を用いてもよい。

（6）ドリフトピン接合

・ボルトやコーチスクリュー等と併用し，ドリフトピンの変形にともなう部材の開きを防止する。

・ドリフトピンは孔に密着させる。

・一度締め付けた併用ボルトについても，木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし，緩んだものについては再度締め直しを行う。

（7）ジベル接合

・木部材は接合部付近の割れ、節、目切れなどの欠点に注意し、彫込み・打ち込みまたは圧入に際して割れを生じないよう、ジベルの種類に応じた断面と余長をもたせる。

・接合材は十分圧着させる。木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。

工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事	工事年度	令和５年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11	図面名称	木質工事標準仕様書（１）
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所	縮　尺	S=1:―
公園名称	新宿御苑	図面番号	S-101

検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

木質工事標準仕様書(2)

(8)既成金物の接合

・羽子板ボルト, ひら金物, 短冊金物, かね折り金物および箱金物などの取り付けは, それぞれの仕様に基づき, 接合両材の間が密着するように締め付ける。

(9)接着接合

・接合部の耐力は, 使用材料および使用方法に適した接着性能の試験を行い確認する。
・接着剤を用いた接合を行う手順は, 接着剤製造業者の推奨する接着仕様に従うとし, 実験によって接合部に要求される耐力と耐久性が立証された場合はその際の作業条件を標準とする。

(10)その他の方法による接合

・使用材料および使用方法は構造図によるものとし, 監理者の承諾を得る。

7. 運搬・建て方

(1)輸送計画

製品の輸送に当たっては, 建方計画に支障がないように, 道路状況, 現場作業手順等を考慮し十分な検討を行う。また, 輸送時に製品の品質を損なわないようにする。

☐ 輸送計画書の提出 〔　　〕

(2)集積・保管

集積の際は適当な受け台などを敷け, 材にねじれや曲がりの損傷を与えないように注意する。降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし, エアコンの効いた室内は乾燥による割れが発生するため避ける。

☐ 集積場の確認 〔　　〕

(3)建方計画

☐ 建方計画書の提出

アンカーボルトの施工方法, 建方スペース, 建方機械, 搬入・仕分け, 地組み, 足場計画, 建方, 養生, 安全対策などについて検討し, 建方計画書としてまとめる。

(4)施工時の安全性

建方作業中および作業後, 横架材上に諸材料または機械などの重量物を積載する場合, あるいは柱に大きな引張力を与えるなどの場合は監理者の承諾を受ける。また, 強風などによる諸外力に対しては, 必要に応じて仮設補強等の処置を施す。

☐ 施工時の安全性に対する検討書の提出　☐ 施工時荷重条件の通知

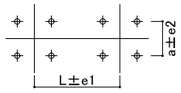
(5)アンカーボルトの施工

・芯出しは, 型板を用いて基準墨に正しく合せて適切な機器等で正確に行う。
・アンカーボルトは鉄筋等を用いて組立て, 適切な補助材で固定しコンクリートの打ち込みを行う。
・アンカーボルトはダブルナットとする。　☐ 適用除外 〔　　〕
・土台の穴あけはコンクリート打設後, ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。

☐ 通り芯からの誤差 : ☐ ±3mm以下 ☐ 〔　　〕

・柱脚部の接合金物(製作金物)を使用する部位については下記の数値を受け入れ基準とする。

☐ 柱据え付け面 : ±2mm以下
☐ 柱隣接間中心距離の誤差 e1 : ±2mm以下
☐ 通り芯からの誤差 e2 : ±2mm以下



a:芯からの離れ　L:スパン距離

(6)建方精度

・建方の精度基準は下記による。

☐ 建物の倒れ : ☐ e≦H／2500+10mm かつ e≦50mm
☐ 〔　　〕
☐ 梁の水平度 : ☐ e≦L／ 700+ 5mm かつ e≦15mm
(節点間のレベル差) ☐ 〔　　〕
☐ 建物のわん曲 : ☐ e≦L／2500mm かつ e≦25mm
☐ 〔　　〕
☐ 柱据え付け面の高さ及び位置
柱据え付け面の基準高さからの誤差 : ☐ ±3mm以下 ☐ 〔　　〕
通り芯からの誤差 : ☐ ±3mm以下 ☐ 〔　　〕
階高 : ☐ −5mm≦ΔH≦+5mm
☐ 〔　　〕

・建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。

(7)施工状況の検査

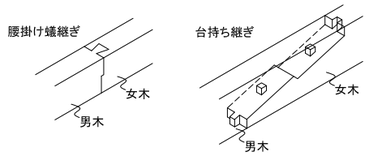
・アンカーボルト施工時の立会い検査
☐ 目視による精度確認　☐ 計測機器による精度確認　☐ アンカーボルト径、間隔
☐ 施工者自主検査記録の提出 〔　　〕
・地組み時の立会い検査
☐ 目視による精度確認　☐ 計測機器による精度確認　☐ 材料の加工寸法検査
☐ 施工者自主検査記録の提出 〔　　〕
・建方時の立会い検査
☐ 目視による精度確認　☐ 計測機器による精度確認　☐ 材料の加工寸法検査
☐ 施工者自主検査記録の提出 〔　　〕
・建方後の施工状況の検査
☐ 防腐・防蟻処理　☐ 材料の加工寸法検査　☐ ファスナーの施工状況
☐ 接合金物の施工状況　☐ その他 〔　　〕
☐ 施工者自主検査記録の提出 〔　　〕
・最終確認

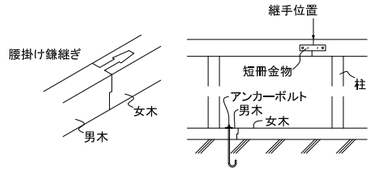
工事中に発生するボルトの緩み, ファスナーおよび接合金物に影響する材の割れ, 接着面のはがれ等に注意を払い, 不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。

8. 軸組構法接合部の標準仕様

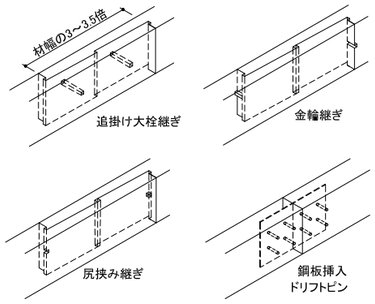
(1)横架材同士の継手

1. 曲げ応力や引張力を負担しない継手:腰掛け蟻継ぎ、腰掛け鎌継ぎ
・せん断力が大きい場合は台持ち継ぎとする。
・長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
・逆せん断と引張の補強として短冊金物等を併用すること。
・柱からの持ち出し位置は、連続梁の長期荷重の反曲点付近とする。





2. 曲げ応力や引張力を負担する継手
:追掛け大栓・金輪・尻挟み継ぎ、鋼板挿入ドリフトピン接合
・伝達できるMやTは母材全断面の2割以下と考えること。

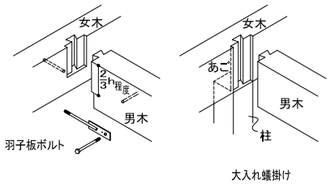


(2)柱の継手

・伝達できるMやTは母材全断面の2割以下と考えること。
・やむを得ず柱の継ぎ手を設ける場合は、曲げと軸力による複合応力の検定を行い安全性を確認する。

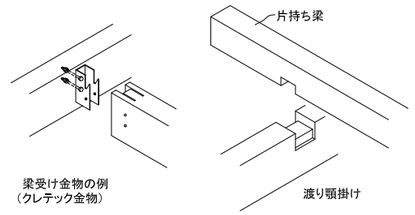
(3)横架材どうしの仕口

1. せん断力が母材全断面の3割以下の仕口:(大入れ)蟻掛け
・長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
・逆せん断と引張の補強として羽子板ボルト等を併用する。
・男木の梁せいが女木の2／3以下の場合か、仕口直下に柱がある場合には、大入れとしてもよいが、そうでない場合は男木のせいの2／3程度の顎をかける。



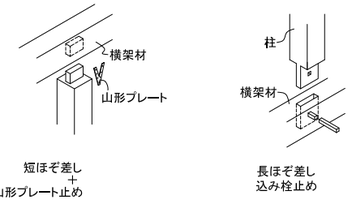
2. せん断力が母材全断面の3割を超える仕口:梁受け金物
・既製品の場合は金物メーカーの許容せん断耐力の値を用い、特注品の場合は構造計算で許容せん断耐力を算出して安全性を確認すること。

3. 一方を片持ち梁とする場合:レベル差を設け渡り腰掛け
・逆せん断の補強として羽子板ボルト等を併用すること。

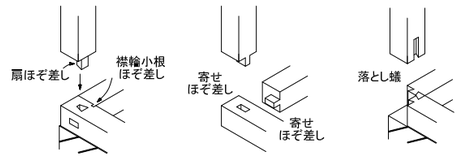


(4)柱と横架材の仕口

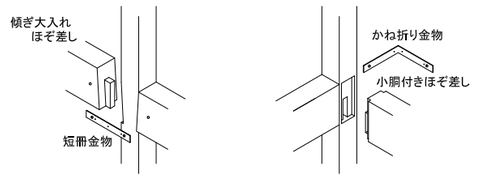
1. 柱の上下端部:短ほぞ差し、長ほぞ差し込み栓止め
・短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。



2. 土台の出隅入隅部
:土台同士は襟輪小根ほぞ差し又は寄せほぞ差し、柱脚部は扇ほぞ差し又は寄せほぞ差し
(但し、柱勝ちの場合、落とし蟻又は土台をて寄せほぞ差しとする。)
・短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。落とし蟻の場合は、HD金物を用いる。



3. 通し柱と胴差し:小胴付きほぞ差し、傾ぎ大入れほぞ差し、梁受け金物
・梁受け金物以外の仕口には、引張の補強として短冊金物やかね折り金物等を併用すること。



(5)筋かい端部

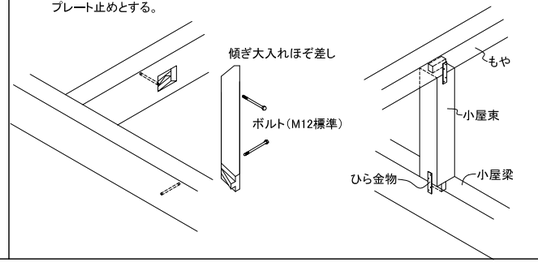
・平12建告1460号の例示仕様又は同等品とする。

(6)火打ち、方杖

・角材を用いる場合の端部は、
傾ぎ大入れほぞ差し+ボルト締めとする。
・Zマーク鋼製火打ち又は同等品としてもよい。

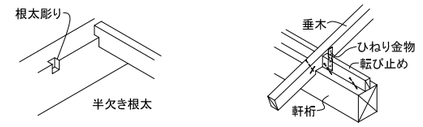
(7)小屋束の上下端部

・短ほぞ差し又は長ほぞ差し込み栓止めとする。
・短ほぞ差しの場合、風圧力による引張力の補強として、かすがい2本又はひら金物又は山形プレート止めとする。



(8)根太、捨木と横架材

・落とし込み根太:横架材に大入れ or 根太掛け+斜め釘
・半欠き根太:横架材に大入れ腰掛け+斜め釘
・転ばし根太:根太が正角断面の場合、横架材に脳天釘止め
根太が縦長角断面の場合、斜め釘2本+転び止め
・捨木:横架材に捨木道を掘り、転ばし根太と同様に止める。
・風の負圧の補強:許容応力度計算により必要耐力を有するひねり金物等を取り付ける。



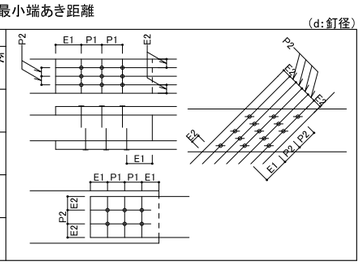
(9)間柱と横架材

・上下横架材に深さ3mm程度大入れ+斜め釘上部ほぞ差し、下部突き付け+斜め釘

(10)釘の最小間隔及び最小端あき距離

(d:釘径)

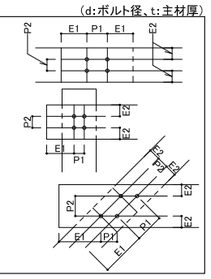
		加力方向	
		繊維方向	繊維直交方向
繊維方向	E1	15d	10d
	P1	12d	10d
繊維直交方向	E2	5d	8d
	P2	5d	8d



(11)ボルトの最小間隔及び最小端あき距離

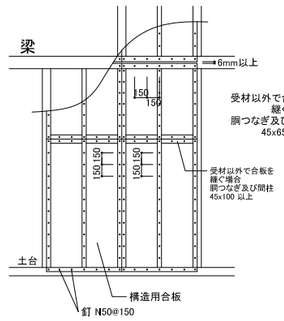
(d:ボルト径、t:主材厚)

		加力方向	
		繊維方向	繊維直交方向
繊維方向	E1	7d(荷重負担側) 4d(荷重非負担側)	7d
	P1	7d	t/d=2 :3d 2≦t/d<6 :3d〜5d t/d>6 :5d
繊維直交方向	E2	t/d≦6 :1.5d t/d>6 :1.5dかつP2/2	特記による。特記のない場合は以下の数値とする。 4d(荷重負担側) 1.5d(荷重非負担側)
	P2	3d	4d

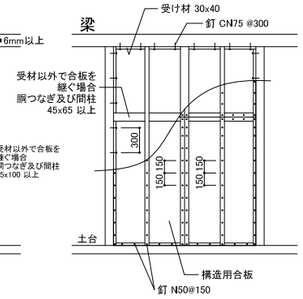


(12)面材耐力壁

1. 構造用合板・大壁造の場合



2. 構造用合板・真壁造の場合



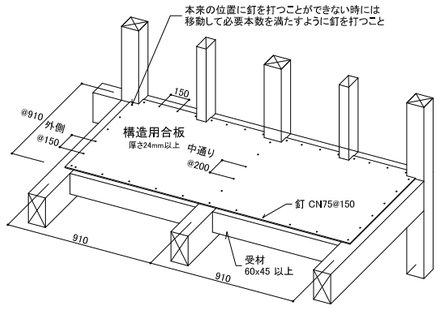
・受け材は柱や横架材にN75−@300以下で平打ちする。

工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	木質工事標準仕様書（２）	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:ー	
公園名称	新宿御苑			図面番号	S-102	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所ー級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	ー級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

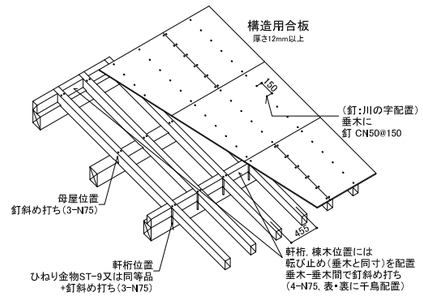
木質工事標準仕様書(3)

(13)ボルトの最小間隔及び最小端あき距離

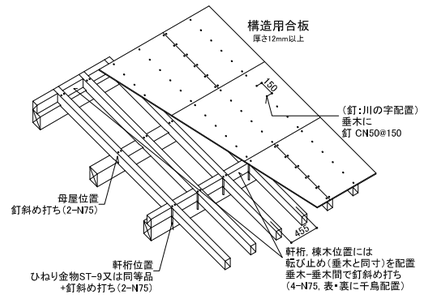
1. 2階床水平構面　構造用合板24mm仕様



2. 屋根水平構面　屋根仕様

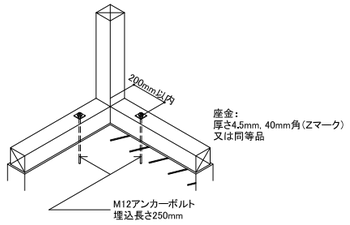


3. 屋根水平構面　ポーチ屋根仕様

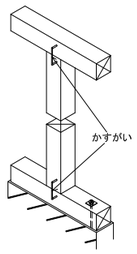


(14)柱頭・柱脚

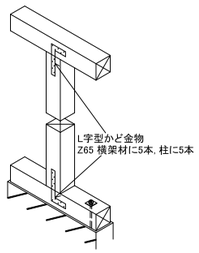
1. 土台用アンカーボルト
・M12アンカーボルトは@2000以内に配置, 基礎への埋込長さは250mm以上とする。
・耐力壁の部分は, その両端の柱の下部にそれぞれ200mm以内の位置に配置すること。
(但し, ホールダウン用アンカーボルトを取り付けた場合は上記の配置を省略可とする。)



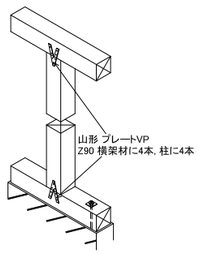
2. (い)かすがい



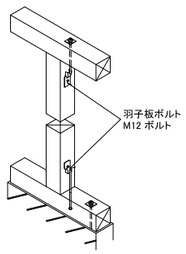
3. (ろ)L字型かど金物



4. (は)山型プレート

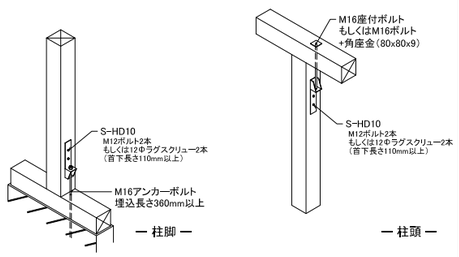


5. (に)羽子板ボルト

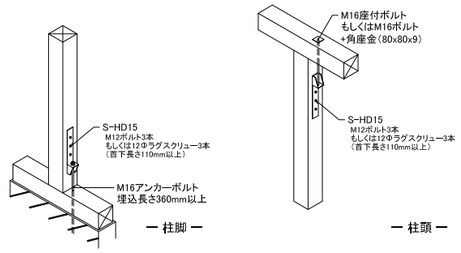


※(ほ)羽子板ボルト＋スクリュー釘の場合は
長さ50mm, 径4.5mmのスクリュー釘は
1本追加すること

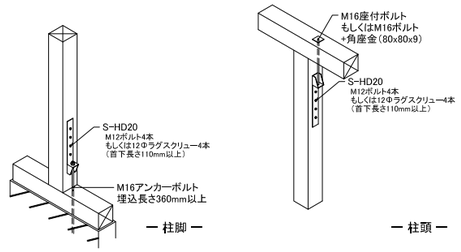
6. (へ)10kNホールダウン・引寄金物



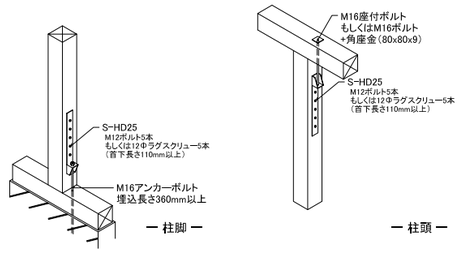
7. (と)15kNホールダウン・引寄金物



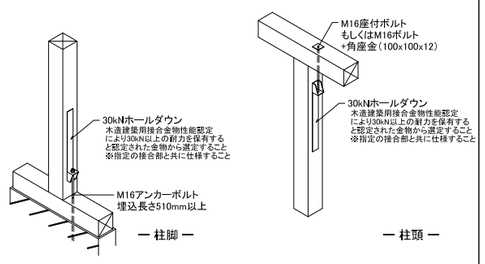
8. (ち)20kNホールダウン・引寄金物



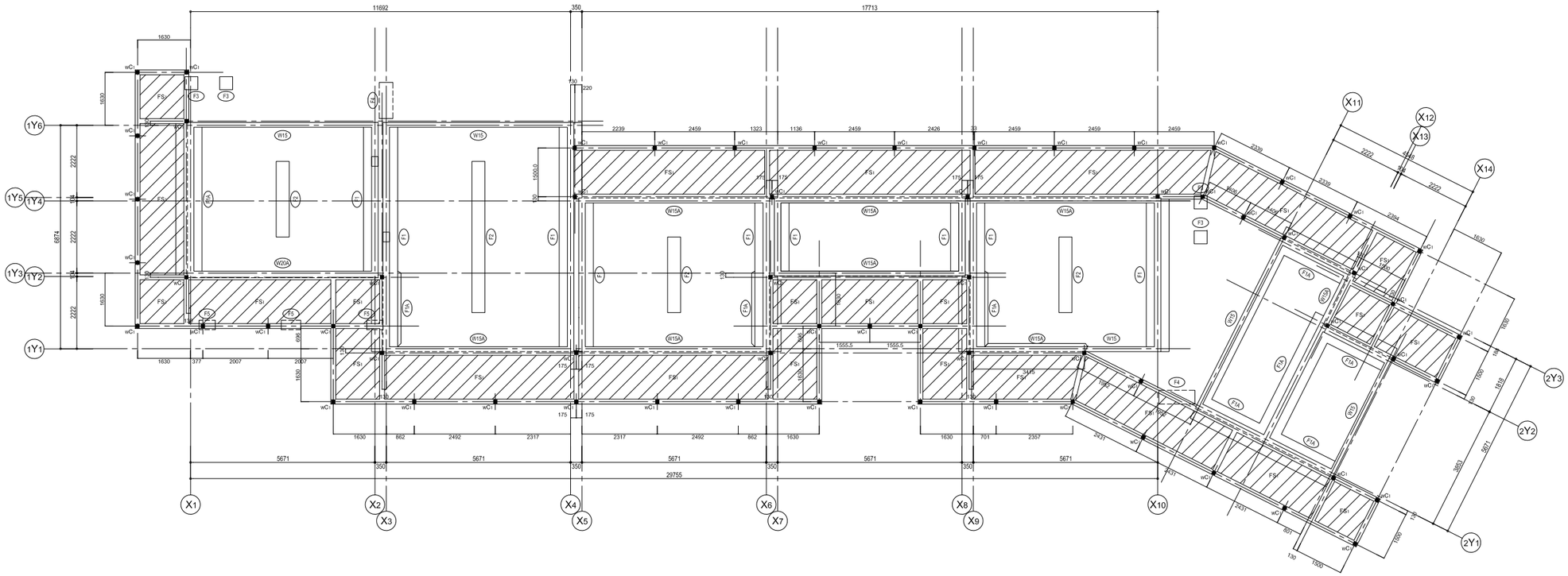
9. (り)25kNホールダウン・引寄金物



10. (ぬ)30kNホールダウン・引寄金物



工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度		令和５年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称		木質工事標準仕様書（３）
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺		S=1:―
公園名称	新宿御苑			図面番号		S-103
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420



木庇部　基礎　伏図

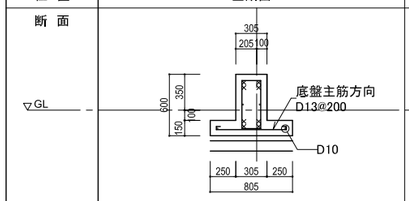
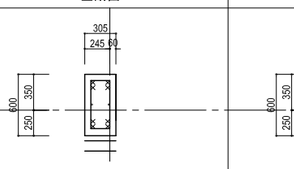
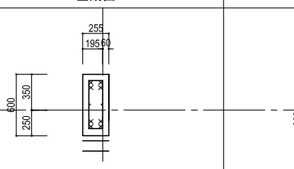
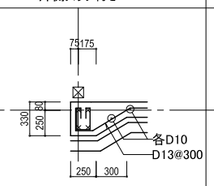
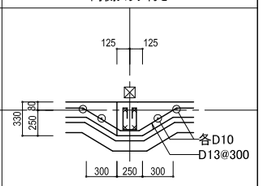
※特記なきは下記とする。

1. 本体基礎は，本体基礎による。
2. ▨：スラブ FS1 とし，スラブ天端レベル 設計GL+80（意匠による）
3. 基礎梁 FG1 とする。
4. W15A, W20A, F1A は庇部材配置により，補強を行った部材を示す。
5. 長期許容地耐力 RaL = 30 kN/m^2
6. wC1：木柱 105x105（ひのき）とし，柱頭柱脚は，告示記号ほ（Ta=8.5kN）以上の耐力を要する接合とする。

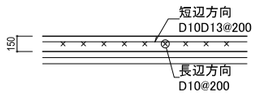
工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度		令和５年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称		木庇部　基礎伏図
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺		S=1:150
公園名称	新宿御苑			図面番号		S-104
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

基礎梁 断面リスト

※増し打ち部補強筋　D10@400
※巾止め筋 D10@1000以下

記 号	F_{1A}	W_{20A}	W_{15A}	FG_1	
位 置	全断面	全断面	全断面	片側スラブ付き	両側スラブ付き
断 面					
B x D	305 x 600	305 x 600	255 x 600	250 x 330	250 x 330
主筋上端	4-D13	4-D13	4-D13	2-D13	2-D13
主筋下端	4-D13	4-D13	4-D13	2-D13	2-D13
スターラップ	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200
腹 筋	2-D10	2-D10	2-D10	-	-

底盤 断面リスト

FS_1

スラブ厚 ts = 150mm
上端筋：短辺方向 D10D13@200
下端筋：長辺方向 D10@200

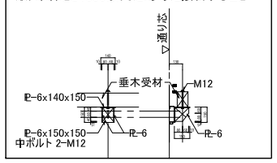
木部　部材リスト

※）材種は，下記に示す材料以上の強度を要する材料への変更可能
（注：強度とは，曲げ・せん断・引張・圧縮・めり込み・ヤング係数の全てを指す）

部 位	符 号	断 面 Dx・Dy	材 料	備 考
柱	wC_1	105 x 105	構造用製材　：ひのき　無等級材	
梁	wG_{15}	105 x 150	構造用製材　：ひのき　無等級材	
	垂木	45 x 105	構造用製材　：ひのき　無等級材	
土台	D1	105 x 105	構造用製材　：ひのき　無等級材	

本体-垂木受け　接合金物

※）材種：400級
※）本体と@1000以内に均等に接合すること

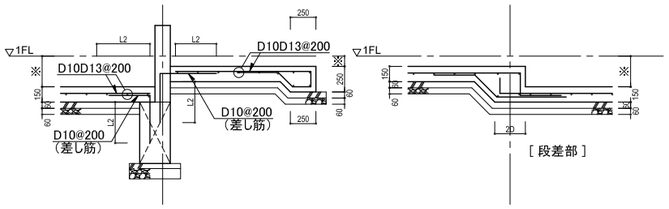


各部配筋図

土間コンクリート配筋要領

特記なき限り，下記とする。

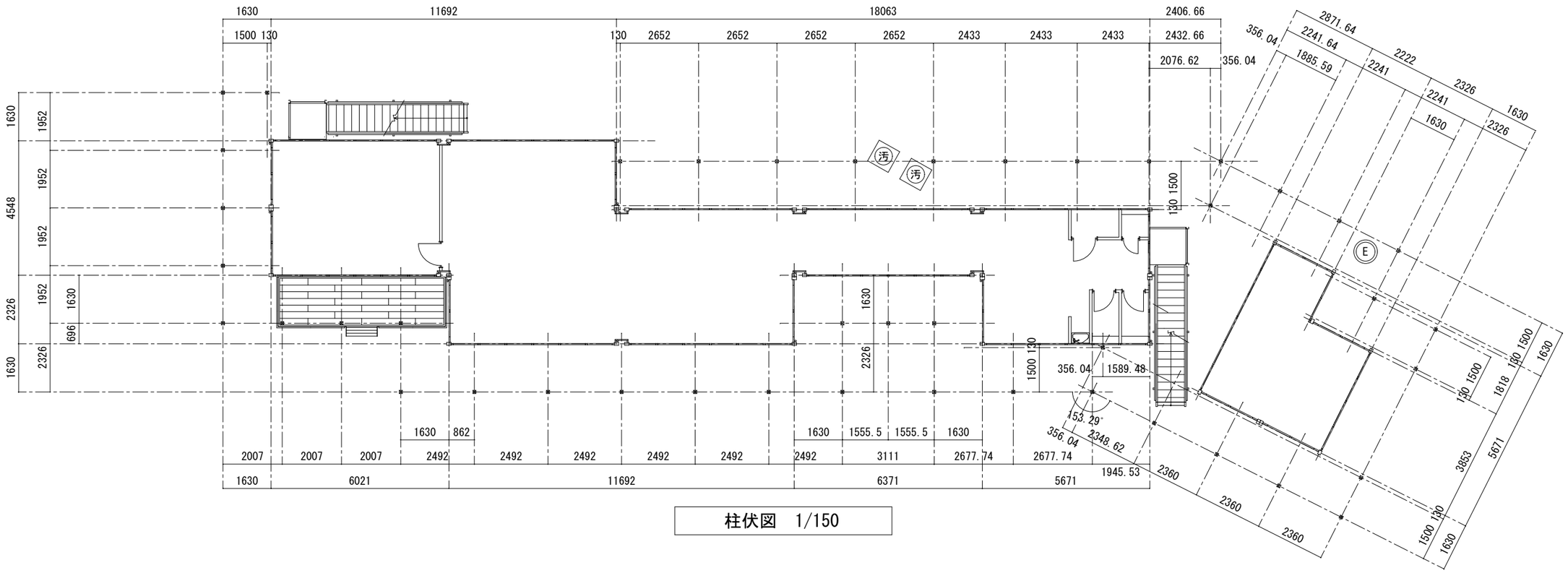
1. 詳細寸法は意匠図による。
2. 地業より，下部層の地盤が埋戻しとなる場合は300mmごとに緩み・ばらつき等が無いように十分締め固めること。
3. 土間コンの地業は，捨コンt=60mm，砕石 t=60mm とする。



注記

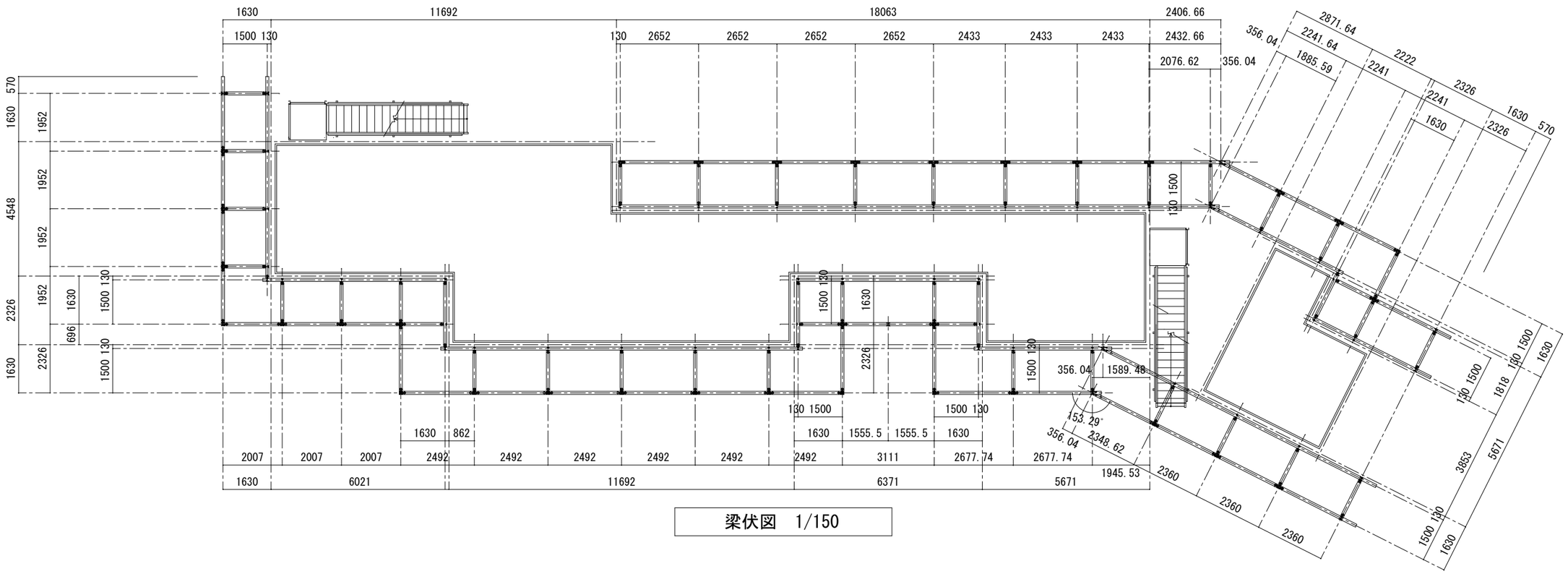
1. コンクリート設計基準強度　Fc=21
2. 底盤スラブの定着長さは，40d以上とする。
3. 主筋の重ね継手長さは，40d以上とする。
4. 長期設計用地耐力 30 kN/m^2以上を確保。
5. 捨てコンt60，砕石t60（但し，意匠図を優先する）
6. 木柱のほぞ寸法は，30x75　以下とする。
7. 主要架構の断面欠損は，0.3以下とする。

工事名称	令和4年度新宿御苑ﾜｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	木庇部　部材リスト
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:60
公園名称	新宿御苑			図面番号	S-106
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者 名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
				資格者氏名	岡本　治子
				登録番号	一級建築士　356094号
				所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420



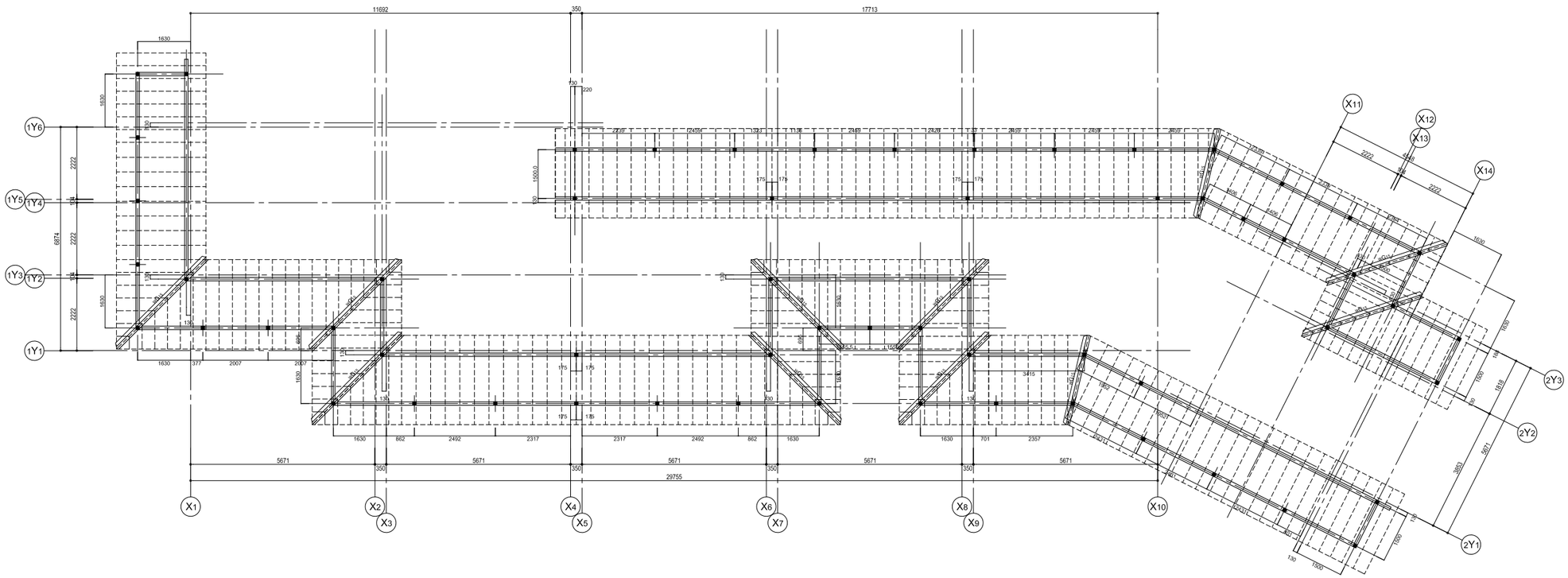
柱伏図　1/150

工事名称	令和4年度新宿御苑ﾌｰｷﾝｸﾞｽﾊﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	柱伏図	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:150	
公園名称	新宿御苑			図面番号	A-○○	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420



梁伏図　1/150

工事名称	令和4年度新宿御苑ｸｰﾘﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	梁伏図	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:150	
公園名称	新宿御苑			図面番号	A-○○	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420

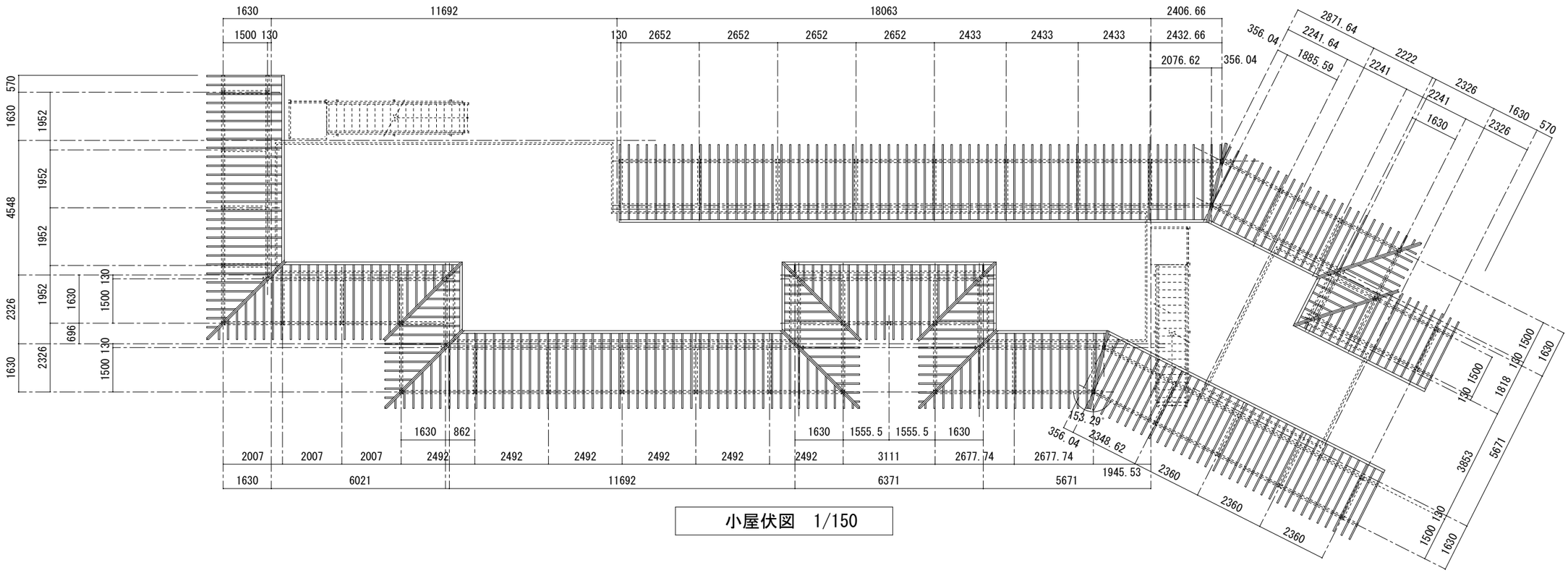


木庇部　屋根　伏図

※特記なきは下記とする。

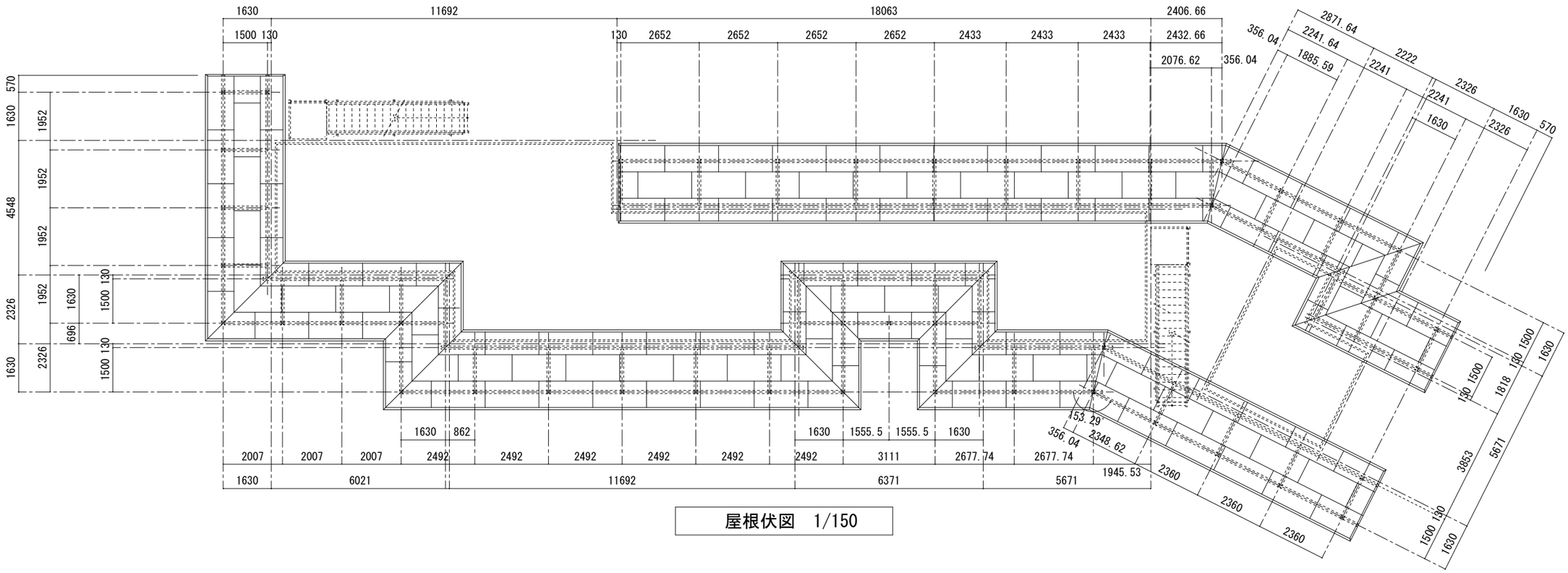
1. 垂木受け：wG15 105 x 150(ひのき)
2. wG15: 105x150(ひのき)
3. 垂木 45 x 105 @455(ひのき)とし，割付は意匠による。
4. 屋根面は，構造用合板 @12以上とし，床倍率 0.5以上の仕様とする
5. 垂木接合金物 Zマーク金物 ST-12以上の耐力(Ta=1.5kN)を要する接合とする。
6. 垂木受け材と本体との接合は，@1000以内に均等に行うこと。

工事名称	令和4年度新宿御苑ｳｰｷﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	木庇部　屋根伏図	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:150	
公園名称	新宿御苑			図面番号	S-105	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420



小屋伏図　1/150

工事名称	令和4年度新宿御苑ｸｰﾘﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度	令和５年度	
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称	小屋伏図	
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺	S=1:150	
公園名称	新宿御苑			図面番号	A-○○	
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420



屋根伏図　1/150

工事名称	令和4年度新宿御苑ｸｰﾘﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ代替施設新築工事			工事年度		令和５年度
工事場所	東京都新宿区内藤町11			図面名称		屋根伏図
発注機関	環境省　新宿御苑管理事務所			縮　尺		S=1:150
公園名称	新宿御苑			図面番号		A-○○
検　印	管理建築士	設　計	製　図	設計者	名　称	宇建築設計事務所一級建築士事務所
					資格者氏名	岡本　治子
					登録番号	一級建築士　356094号
					所在地	神奈川県川崎市高津区久末1778-1-420